

## 「楽塾」報告書 '08

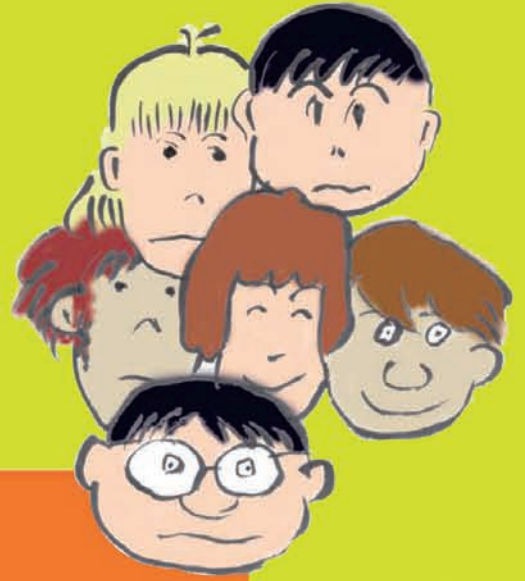
2008 Class Observation of 'Rakujuku'  
(Joyful Cram School)

「楽塾」編集委員会／西成プラザ（編）  
Rakujuku Editorial Committee and Nishinari Plaza, eds.



あそびを学び まなびを遊ぶ 新しい学校の冒険

# 楽塾 '08 授業参観



# 楽塾

あそびを学び  
まなびを遊ぶ  
新しい学校の冒険



## 「楽塾」報告書 '08 の刊行にあたって

大阪市立大学都市研究プラザの刊行物のひとつのジャンルであるレポートシリーズの第12号として、本レポートをみなさまのもとにお届けする。本タイトルにある「楽塾」と都市研究プラザの関係はすでに第10号で述べている。変則的に第10号が09年度の報告を、そして本12号が楽塾活動の初年度にあたる08年度のものとなっている。ご注意ください。

本号には、「楽塾授業参観の刊行にかえて―「学び」で社会包摂」、「あたらしい学校<楽塾>の冒険」と、この楽塾の構想がどのようにして生まれてきたかの経緯が述べられている。10号のまえがきにも述べたが、西成区にある楽塾は、都市研究プラザの最大の売りである現場プラザである西成プラザを構成する一大拠点である。この楽塾には数多くの若手研究者が参画し、まさしく現場との往還をスリリングに行える社会実験道場としての役割を果たしてきてくれた。研究という「学び」を地域や都市生活へ還元するという大学の新たなソーシャル・ベンチャー領域と重なり合える現場拠点として、新たな出会いや発見、そして包摂型社会の仕組みづくりにむけた大学と「楽塾」によるコラボレーションの生々しい記録である。

このレポートの刊行にあたっては、平成22年度、大阪市立大学都市問題研究「広範化するホームレス／新たな困難現象に対処する社会保障体系の再構築」(研究代表:水内俊雄)、および、平成22年度科学研究費(新学術領域課題提案型)「ITACOによる新しい地誌学の創生と地域の人縁生成に関する試行研究」を使用し編集、出版されたものである。

都市研究プラザ 水内俊雄



## 楽塾08年度授業参観 目次

楽塾授業参観の刊行にかえて

「学び」で社会包摂……楽塾事務局長／田岡秀朋 5

あたらしい学校〈楽塾〉の冒険……楽塾塾長／佐々木敏明 7

楽塾へのメッセージ

楽塾塾生・応援団による極私的楽塾 21

楽塾 08年度授業参観 27

08年度カリキュラム目次 29



## 新しい学校の冒険 楽塾

楽塾は2005年4月に塾長の佐々木が「野宿者たちの学校」を着想し、数回のワークショップや設立準備委員会などを開き、多くの参加者からの意見を参考にした。その具体化は2008年7月となった。野宿者支援から着眼された学校構想は『場』のイメージが膨らむにつれ、『塾生』のイメージも拡大し、潜在的に学びたいと考える誰もが集い学べ、仲間ができる場として「あそびを学び まなびを遊ぶ 新しい学校の冒険」をテーマに展開していくこととなる。

このテーマは、遊びや趣味が中心のカルチャースクールでもなく、勉強やスキルアップが中心の各種学校や職業訓練校でもなく、遊びだけでもない勉強だけでもない新たな学びの場の創造を目指すものと読み取れる。

### 新しい学校「楽塾」企画書 2007.11.28 「楽塾」設立準備委員会より

#### 1. 学校発想の主題として（だれが学ぶのか）

私たちが、従来学校で学ばなかったこと、学べなかったこと、学校で教えなかったこと、教えられなかったことを新しい観点から学び、学びなおすこと、そして教えあうことを実践する場としての学校をイメージする。

さらに、これまで学ぶ場を持てなかった人たち、学びから遠ざけられた人たちが学べる場としての学校をイメージする。

そして、この学校が人生途上でよりどころを失い、途方にくれる男女たちの船着場＝波止場（PIER）として、仲間の集まる場所（PEER）であり“学びと遊びの寄場”となるイメージをする。

しかも、これらの学校に集う男や女たちは、時には教える側になり、あるいは教えられる側にも変化する双方向の柔軟さを持つ場としてイメージする。

つまり①従来の価値を学びなおす意欲的な人たちのために。②学校という場を満身に活用できなかった人たち。経済的、物理的に閉ざされた人たちのために。③孤独を癒し、仲間を求める人たちのために。④教師と生徒の役割を互いに分担し合える場づくりをイメージすることが、私たちの学校づくりのテーマである。

このような居場所を創出しようという声はよく聞くものの、実現が困難であることも事実だろう。やる覚悟が足りないだけと一言で片づけることは簡単ではあるが、「楽塾」の成立条件を考えると、西成という地域と、佐々木の人的ネットワーク、株式会社ナイスの財政面からのバックアップは無視できない。

地域性をみると、楽塾の最初の教室である「くらし応援室」は釜ヶ崎と同和地区の結節点ともいえる場所にある。かつて日雇労働者の町であった釜ヶ崎は、男性単身高齢者の町へと変貌しつつあり、介護や孤立などの問題に直面し、労働以外での社会的包摂の方法が論議されている。識字教室発祥の地でもある同和地区では、公的な学校という教育の場だけでなく、暮らしの中から学びたいという声を拾いあげ、学びの場を創出してきた経験があり、年齢などに関係なく学ぶ権利を尊重する地域性がある。

人的ネットワークとして、佐々木の古くからの友人知人、デザイナー時代の人脈、大阪市大創造都市研究科修士課程で築き上げた研究者との人脈、野宿者応援活動での人脈とその範



疇は多岐にわたり、他に類を見ないユニークな講師陣の顔ぶれとなっている。また、佐々木の応援活動で出会った人や、各回の授業参観等をブログで発信することで、人づてに授業のテーマごとに多世代・多国籍な塾生が集ってきている。

そして財政面では、株式会社ナイスは、佐々木が室長を非営利部門として設けることで、他の事業で得られた収益を地域や制度から漏れ落ちる人々への支援へと還流させ、佐々木の活動を応援している。また、楽塾の受講料は無料ではなく、1,000円と設定することで「やってあげる、やってもらう」の関係ではなく、塾生の自己投資を通して、楽塾を応援する「やっていこう」の関係が築かれつつある。

## 学びのスペシャリストとしての大学の冒険

楽塾を支える資源として、大学のプレゼンスも特筆しておきたい。同時に大学も楽塾とのコラボレーションで現場での実践の力を蓄え磨えてきた。大阪市立大学都市研究プラザは、西成に拠点を設けて5年になる。プラザと塾長とのそれ以上にもわたるおつきあいのなかで、プラザのキャッチフレーズ、『都市研究とまちづくりの「広場」』『まちに溶け込む大学、市民や都市とつながった研究組織』『国際的な研究のネットワーク拠点』は、まさしく西成プラザの協力拠点ともいえる「くらし応援室」から発想され、実践されてきたものであった。「くらし応援室」は、都市研究プラザの若手研究者の社会実験道場となり、インナーシティの中に拠点を設け、人と人をつなぐという試みは、学術・研究の社会化という点でオルタナティブな役割を付与する大学の冒険ともなったのである。

楽塾は「学び」をキーワードに社会包摂を目指す取り組みとも捉えることができ、研究という「学び」を地域や都市生活へ還元するという大学の新たなソーシャル・ベンチャー領域と重なり合った。両年度は多くの都市研究プラザの研究員・大学院生が講師を務めた。その内容は少女マンガや鉄道などをテーマにした個人的な趣味から、新宮市への修了旅行や居住環境などをテーマにした授業まで、取り扱う内容は際限のない広がりを持ち、人的ネットワークを豊かにしてきたと言える。

高齢化や単身世帯率化が進行し、2010年度より厚生労働省が「生活保護受給者の社会的な居場所づくりと新しい公共に関する研究会」を立ち上げた。野宿者支援のステージもアフターケアに移行しつつある。ソーシャル・ベンチャーの市場の社会的需要は増している。実際に楽塾の現場においても、当初想定されていた野宿者や元野宿者以外の塾生も多く参加している。これまでは仕事や就労といった視点で社会的包摂が語られることが多かったなかで、新たなキーワードとして「学び」に視点をあて、そのスペシャリストとしての大学への期待は今後計り知れないものがある。

「学び」が社会的包摂の1つのツールとして成立した時、仕事や就労から疎外され、健康問題などを抱える単身者にとって、暗いイメージで語られることの多い「ひとり暮らし」が気軽な「ひとりもん」として暮らせる社会に近づくかもしれない。

最後になったが、本誌は、大阪市立大学都市研究プラザが、平成21年度新産業創生研究「脱貧困をめざした居住支援のソーシャルビジネス化に向けた研究」助成の一環として刊行されたものである。楽塾の記録を残す必要性を話し合っていた矢先の事で、思いもしないプレゼントとなった。とくに研究代表者である水内俊雄教授にはご厄介をおかけしました。お礼を申し上げます。また都市研究プラザ研究員諸氏、(株)イリオスの大石信哉氏には編集作業で大変お世話になりました。ありがとうございました。

楽塾事務局長 田岡秀朋

尊厳の回復へ（プロローグにかえて）

09年2月14日の早朝、私たちが乗るマイクロバスは大阪を発ち、快晴の紀州路を一路熊野三山へと向かった。塾生たち8名とこれまで講師をしてくれた応援団ともいえる人たち13名に楽塾スタッフ（塾長・事務局長）の参加者で、総勢23名の大所帯となった。

去る08年7月12日に<楽塾>のプレ開校が始まり、09年7月11日、開校1年目の授業を迎えた。この間、週1回の学校とはいえ運営が可能なのか、塾生が本当に集まるのか、なによりも授業を支える講師たちの協力が続くのか。たくさんの不安と心配を抱え、半年間を準備期間＝プレ開校という名目で実施したのであった。現在、1年半（09.12月現在）を経過し、本開校の授業を恒常的に続けることができるまでになった。

1泊2日の熊野への旅は、プレ開校の6ヶ月間を学び、2月末の修了式を目前にした塾生たちが、<楽塾>に遊び学んだ証として修了記念にと考え行われたものである。

野宿者への応援活動を始めて10年近く、私は漠然と学校を作りたいと考えていた。しかし学校の具体的な計画を持っていたわけではなく、いふなれば学校というイメージに憧れ、学校という妄想を膨らまし続けていたに過ぎなかった。なによりも学校というスケールにひるんでいて、つまり人材や経費の問題などなのだが、どこから手をつけてよいのかわからなかった。

これまでたくさんの野宿者や野宿経験者たちとつきあううち、「くらし応援室」という事務所で、男たちの仕事づくりや住まいづくりに関わってきた。そんななか、彼らの生活における選択肢が極端に少ないのではないかなと思うようになっていった。医療や法律に関わる相談、生活保護など福祉的対応や行政支援は一定の整備はされているものの、そんな制度からもれ落ちていく男たち、孤独や寂しさと引き換えに、酒やギャンブルを最良の友とする男たちの生活の果てが、再野宿や遁走の繰り返しであることを目撃してきた。私は、そんな制度や自分自身からもれ落ちる男たちを応援することが、この仕事であると自覚していくようになった。

酒やギャンブルもいいが、生活における興味の選択肢をもっと増やすことができればなおいい。友人との会話、暇つぶしの場所や時間があればもっといい。そんな動機が学校の開校を思いついたはじめである。それは、仕事づくりとか住まいづくりという表層なアイテムだけの認識では、野宿者の本質的解決にはならないと考えた結論のようなものであった。単身的気楽さ、自由気ままなスタイル、わがままさを生きている男たちも多い。私は野宿というスタイルを肯定しているが、よりどころを失い人生をあきらめ、人への不信や、やる気の無さで自らをさげすんでいながら、どこかで望みをつなぐ男たちには防波堤のような場所づくりが必要だと思っていた。



<楽塾>が掲げた学校の理念は①人間性の回復②健康の回復③仕事の回復の3つの回復であった。プレ開校から29回目の授業「熊野三山修了旅行」(前出)が敢行されるまでの半年間、「人間性の回復」をテーマとした5回の“こころに関わる授業”を実施してきた。社会的にも自分的にもこころを閉ざさざるを得なかった男たち、肉体的・精神的に病んでしまわざるを得なかった男たち、そして仕事からも見放されてしまわざるを得なかった男たち。人はこれらの難儀さから脱出し回復する必要があるはずだ。

これらの授業は、友人である2人の僧侶たちが宗教的世界を平たく語ってくれた。このテーマを考えるきっかけは当事者たちの眩きだった。日ごろ自らの身体に無関心を装う男たちが、「俺の血糖値がものごっつい高いらしい。糖尿かもわからん」「血圧高いし何時コロッと行ってもしゃあない」と言いながら、病への心配と恐れを仲間にアピールしながら、見えない恐怖を紛らわしている風景を幾度も見た。「わしが倒れたら誰が面倒みてくれるんや。先のこと考えたら心配や」「死んだら人並みに葬式なんかできるんかいな」と話す男たちもいた。病や老いが身近にあり、伴侶や肉親のいない暮らしの中で、自分を看とる者のいない焦りが沈黙の嘆きとなって充満している。

「死んでからのお楽しみ1」(08/8.2)という授業では、宗教とは何かを学んだり、生老病死を身近に感じあう試みをした。また、今は亡き両親や身内、知人たちへの鎮魂を塾生たちだけではなく、地域住民も参加できる「合同慰霊祭」(08/8.16)を授業として実施した。とくに故郷にも帰られず亡父を思う塾生は、祈りのあと「これですっきりした。ずっと気になってたもんね」と話した。この慰霊祭には僧侶や葬儀会社が無償奉仕してくれ、塾生たちそれぞれの祈りへの姿勢が印象深かった。また、「死んでからのお楽しみ2」(08/9.13)では、極楽浄土をテーマに、イスラム、キリスト教の巡礼、東洋の巡礼に話題が及び、寛容、複雑かつ神秘的な奥深さを秘める熊野信仰の話題にもつながった。世界の宗教上のタブーに挑んだ「死んでからのお楽しみ3」(08/10.11)では、アルコール依存の話題にもかかわらず利き酒ゲームを楽しんだ。そのほか大学教授が講師をした「浄土までの距離」(08/9.27)では、地理学をベースに、気象、歴史、宗教学分野にまで踏み込んだスケールのある授業になった。古代からの熊野詣を地図で追いながら、熊野にたどり着くまでの仮想臨場感を味わった塾生も多かったと思う。

修了旅行は、実はこれら5回の“こころに関わる授業”を伏線に成立していたと同時に、男たちの生へのあがきに応えようとした祭祀でもあった。また旅行直前に行った3回の授業のうち、「修了旅行を10倍楽しむために」(08/11.22)では、私たちスタッフが熊野のガイドダンスをやり、塾生たちが電車やバス、レンタカーなど交通手段を想定しながら、最も経済的な熊野行きの方法を数字を使って計算した。「最果ての人々」(09/1.31)では、日本の辺境を旅する若き地理学者が、島に住む人々の生活に宿る神への恐れや親しみ、そして旅の楽しさを語り、「ホテルマンの仕事」(09/2.7)では、ホテルのシニアディレクターが旅を支える人々の苦勞譚を話し、来るべき熊野への旅情をかきたてる役割を果たしてくれた。従って、08年度に実施した全30回の授業のうちこれら8回は、結果的に修了旅行実施を抛り所にしていったといえる。



もとより修了旅行とはいえ大きな出費を必要とする。わずかな生活保護費を受給して生活をする塾生たちには到底不可能な問題だと考えられた。したがって旅行計画の断念や、旅行費用の貸し出しも想定した。しかし、当日に別予定のあった塾生以外の全員が参加をしないと希望し予想外の結果となった。なによりも、これまで授業をしてくれた講師たちの参加が、この旅への期待を、そして塾生たちの〈楽塾〉への親近感を決定的にしたと感じた瞬間であった。

僅か1年半の開校体験で、学校の何たるかを語れる資格など持たないが、本誌担当者より貴重な執筆の場をいただき、この機会に学校に至るさまざまな挿話をひもとき、〈楽塾〉を通して自らのふりかえりの機会にしたいと考えた。以下、「学校〈楽塾〉の第1章」では、〈楽塾〉に至る私の動機と、準備のためのウォーミングアップといえる述懐である。「学校〈楽塾〉の第2章」では作業記録の感慨をいくつかの事例で記述した。

## 1 学校<楽塾>の第1章

### 学校誕生の前夜

02年、私は西成に来了。それより前、私は巡回相談事業など野宿者の自立を促す第二種社会福祉事業施設に勤務していたのだが、西成に所在する企業(株)ナイスの社長から請われ、野宿者の脱野宿をミッションとする非営利部門の設立を任かされた。これからの企業が果たすべき社会的役割を、具体的に示していきたいという社長の気概でもあった。イメージがまだまだ不確かではあったが、この時学校プラン実現の希望を社長に告げていた。その後、非営利部門「くらし応援室」を創設し、野宿者の相談窓口となった。

私は、失職を続ける男たちがまずは就労し、生活を回復させるために仕事づくりを優先することからスタートした。そのためには地方の自治体や山林・農業組合などにリクルート活動したこともあったが成果はなかった。その後大阪市内を中心に、ビルメンテナンス企業などを訪問した結果、徐々に野宿者雇用に協力してくれる会社が増えていく。また地元商店街が当事者を受け入れてくれるようにもなっていた。これらの方法は、つまらない理由で会社を辞めなくともすむよう、企業と当事者と私たちが、さまざまな問題に対してフォローしていく態勢を取ったことであった。それゆえ就労定着者は増えていったが、そのひとつの理由は、誰かが自分のことに少しは関心を持ってくれているという安心感のようなものであったと思うがそれは私の独りよがり、実際は年齢で門前払いのハローワークへ行くより、給料は安い居心地のいい仕事場で我慢する、というのが男たちの本音ではなかったかと私は想像している。

すでに一定期間就業し、テント生活(\*1)やドヤ(\*2)生活からの離脱を希望し、わずかな準備金を用意する男たちもいて、05年10月、「くらし応援室」の近辺にある老朽民家を会社から借り入れてもらい、「カンパネルラ」と称し共同住宅(通勤寮)を開始した。それは仕事づくりが最初のステップであったとすれば、当面急務な住まいづくりともいえるべき第2ステップの段階であったと思う。この頃、就労だけをゴールにしない、仲間が集う場所としての住まいが必要だと考え、当初は5名の利用者が入所した。「カンパネルラ」ではドヤより極力家賃を安く抑え、食生活以外の経費を私たちが負担し、男たちの生活の安定に主眼を置いた。また彼らの家賃収入が「くらし応援室」をまかなう財源にもなった。

利用者の中には精神障害者がいて、同居を嫌う男たちが「あの男を住まいから出してくれ」と私に訴えかけてきた。私は「同じしんどい目にあった仲間たちなのだから、何とか彼とうまいことやってほしい。あいつはここが天国や言うてるし、俺は彼を住まいから出ささん」というようなトラブルが頻繁になった。それに反発し6ヶ月間も家賃を入れず、その果てに遁走してしまう男が出てきたり、仕事をやめ何ヶ月も遊びまくった上、それを理由に家賃を入れなくなった男がいて、私は「早よ仕事を探して家賃を入れてや。俺とこもやってられんし、ここに入りたい



奴もいてるんやから」と話すと、「あんたは、俺らのような人間の支援をしてるんやから、わしらが困っている時はそれを助けるのがあたりまえや」と、理屈にもならない文句をつけて大喧嘩になったこともあった。その後、それでも家賃を入れないこの男を自立支援センター(\*3)に紹介し、そこで生活しながら、仕事は「くらし応援室」で探す約束をし、その仕事の中から分割でも家賃の返済を希望したのだが、やはり遁走してしまった。こんなことが続いた結果、「カンパネラ」の家賃収入が激減し、08年の暮れ3年目で閉鎖してしまった。ただ、「カンパネラ」を希望しても満室で利用できない男たちのために、日常的に地域の複数アパート経営者とコネクションをつけていたので、「カンパネラ」閉鎖後の住宅需要については、オーナーたちの理解もあり安価な家賃で入居ができるようになっていく。一下手な支援活動をするより、任せるべきはプロに任せフォロー体制をきっちりしておく一住まいの大失敗はそんな教訓を残してくれた。結果的には「カンパネラ」時代よりも多くの利用者たちがそんなアパートを利用し、地域経済活性の一助にもなったわけで、わが「くらし応援室」の住まい政策は、まざら負債だけで収束したとは思っていない。ただ精神障害者と同居することを嫌がる男たちの気持ちをそれほど配慮しなかったことは、私の不足であったのかもしれない。知的・精神障害を持つ男女たちの仕事づくりや生活応援を日常の作業にもしているため、“弱者”への視点や“啓発”を男たちに強いていたといえるかもしれない。この勘違いは反省となって、後の学校構想に生かそうと思った。

- \*1：私に関わった男たちの中には、路上から直接会社に通勤する男たちもいた。企業もそれを認めていた。
- \*2：簡易宿泊所の隠語。日雇い労働者たちがその日暮しの宿泊に利用する安宿。釜ヶ崎には約200の簡易宿泊所があるといわれているが、福祉型のマンションや旅行者用マンションに転用していくケースも多い。
- \*3：99年後半、大阪市内に第二種福祉事業として3つの「自立支援センター」が設立された。公園・道路・河川敷・橋脚下・地下街・駅舎などで暮らす野宿生活者の自立及び就労を促すための宿泊施設である。当事者は3～6ヶ月の間に就労自立する誓約を負う。

## 学校構想のはじまり

住まいづくりをさかのぼる05年4月、既にこれまでイメージしていた野宿者たちの学校構想に手をつけはじめていた。そのために会社会的合意をすべく「学校設立準備」の提案書>を定例会議で提出した。(株)ナイスが実現すべきテーマとして社長の承認を得て、学校設立に向け、まずは研究会をつくり情報収集・情報交換や人的交流などの機会を増やしていく。定例のワークショップを開き、新しい学校のイメージづくりをはかっていくことになった。当時、会社に提案した「野宿者たちの<学校>」設立準備提案書の序文を以下に転載しておきたい。

### 野宿者たちの<学校>設立準備提案書

2005年4月8日 株式会社ナイス非営利部門「くらし応援室」佐々木敏明

幼い頃に何かを置き去りにしてきた自分、選ぶことが出来なかった人生、遥かな夢、そんな見失った自分の片割れを探し自分に出会える場所。子どものまま大人になってしまった自分をもう一度養い、集える場所を考えてきた。そして彼らの夢づくり・ともだちづくり・仕事づくりを柱とした学校が必要だと考え始めたのである。学校で学ぶ大きなテーマは、これまでの価値観を変えることである。その日ぐらしやその場限り、自暴自棄、自信喪失に加え、従来の経済観念や労働意識を見直し、学校や地域で友人を作りまちに戻っていく人間復権の拠点、仕事を楽しいものに変えることを主体にした遊学拠点である。暮らしの応援を実践するなかで、日常的に生活状況を知り、特別なケアがなくとも自然な関りをもつ方途を模索している。今はこれを学校づくりの前期として、これまでの応援活動を大きく生かしながら、学校に集う人々の意欲を深めていきたい。

また、この学校は学べる機会のなかった人たち、年齢、性別、国籍、障害の有無に関わりなく、気軽に遊んで学べる寄り合い場所にしたいと考える。多元的で総合学習を基本とするカリキュラムを目指し、たくさんの人たちが合流する人的集積地をイメージするのである。土砂降りや暴風、烈風など乱気象の合間に見える晴れ間を求めながら、学ぶ者たちが青空探しを始める場所にしてほしい。

## しばしの中断

この提案書が会社の事業として認められ、05年内に会社で3回の研究会と、様々な分野で活躍する協力者に呼びかけをして4回のワークショップ（以下WS）を持った。05年末から06年にかけて、ひとまずWSのまとめをすることにした。WSテーマを「どんな学校をイメージするのか」に設定し、毎回、野宿生活経験者、講師予定者、大学教官、(株)ナイス職員らが参加し意見を出しあった。以下はWSの作業概略である。

### ○WS第1回「どんな学校をイメージするのか1」 6/11 18名くらし応援室にて

失職、路上生活を経験し、再度自立を目指し、自らの回復を望む人たちをゲストスピーカーとして参加してもらった。私が就労に関わった野宿経験者3名が、自らのこれまでの経緯や夢、学校のイメージを語ってくれた。意見の要約をすると、それぞれが人間関係に嫌気を感じ、仕事を転々として野宿に至っているのが共通項になっていた。Aは「自分自身も結構利己主義的だが、現在仲間が多くいる今の会社を気に入っている。ギャンブルや酒は欠かせないが、無茶無理をした時、それをセーブしてくれるのは仲間や友だちである」という。学校に対する反応は、「押し付けられるのがいや」「自由が必要」「お前らのためにやってやるという不遜さが腹立たしい」「学校という名称がいや」などの意見が語られた。

### ○WS第2回「どんな学校をイメージするのか2」 7/29 20名くらし応援室にて

学校理念を作成し参加者に検討してもらった。この提案書は「1. 仕事を核とするあそびまなび」、「2. 人間回復を核とするあそびまなび」、「3. 健康を核とするあそびまなび」の3主題からなり、野宿経験者や失業者たちがもっと選択肢のある暮らしを生きられる裏づけを趣旨にしたものであった。

#### 1. 仕事を核とするあそびまなび

仕事至上、経済至上主義の社会への価値を見直すことや、仕事をつくること、仕事に向き合う常識を改めていくことを考えた。とくに農山村との連携を強調した。

#### 2. 人間回復を核とするあそびまなび

これを学校の中心テーマとして位置づけた。自分自身をいやしめ、達成感さえ持ちえず、日常に流され続ける男たちのこころの回復を授業のカリキュラムとする。

①文字や言葉を知ること。知性、知恵、工夫を育てること。必要な情報を獲得すること、基本演算力など、人に必要な基礎知力を養う

②自分を主張し、他人の存在を認め、集団の自分を自覚する。それは社会的存在としての個人を認識すること。自分の言葉を持ち自己表現する。芝居や音楽の活用を考える。

③様々な問題は自らの暮らしや社会にどうつながっているのか。生活の応用を学び、実践を通して価値の転換を総合学習で学ぶ。

#### 3. 健康へのあそびまなび

肉体的、精神的に健康問題に悩む男たち。心のカウンセリングや、健康回復を目的としたスポーツや食事づくりなどの実践を取り入れ、自己管理する自分をつくる。

この検討会では提案した「3つの回復理念」が参加者たちから評価された。

○WS第3回「どんな学校をイメージするのか3」 8/27 34名 北津守あすなる作業所跡にて

現在、廃校となっている「あすなる作業所」を私たちの学校として使えば、どんなイメージで活用することが可能だろうか。作業所の現場に立ちながら、様々なアイデアを膨らませることにした。作業所内にはいくつかの教室や、厨房、陶芸教室、講堂、菜園などを付帯し、それぞれを見学しながらイメージトレーニングをする。このWSでバーベキューパーティーをしながら、参加当事者たちから聞き取りをした。

「ここはお月見ができる場所」とか「ライブハウスをつくり、音楽や芝居の交流場所を」「授業に登山やハイキングを」、あるいは「工芸品制作の作業場になる」など、自分の趣味を活かす提案や、「この場所で乗馬クラブを作ってほしい」など元競馬選手の願いなどが聞かれた。「習字やパソコンの教室が欲しい」「重機や玉がけ(\*)の資格をとる授業を」などは明らかに仕事への欲求からだろうし、「ハーブや花の栽培を」「トランポリンやアーチェリーなど障害者のステップアップが可能な場所に。いつかはパラリンピック参加も」「野球チームをつくりたい」などは廃校の敷地の広さをイメージして語られたものだ。

○WS第4回「どんな学校をイメージするのか4」 10/9 28名 南開文化温泉にて

地域内にある文化温泉を銭湯の休日に借り切り、銭湯というスペースを学校としてシミュレーションした。現在、学校は偶然にも三星温泉という銭湯で実施しているが、4年前すでにその試みをしていたことに偶然を感じている。この日は入浴後、参加者が脱衣場に車座になってミーティングした。参加者の中には子ども連れや、同僚と同伴で来た人たちもいた。参加した小学生に現在行っている学校の楽しさとは何かを話してもらいと、「みんなと楽しく遊べること」と話してくれた。それは私たちが考える学校と寸分違わぬ重要な要件であり、年齢を超えた参加者の一致点であった。また単身当事者からの提案に「団欒できる場所の必要性」、「50歳を過ぎたが燃えるような恋をしたい」というつぶやきを聞き切実な思いを実感した。孤独、孤立は人生を閉塞させる要因になるが、逆にパートナーや友人づくりが孤独や孤立を防ぐ重要なファクターになるのかもしれない。

ところが、並行して進めていた元野宿者のための共同住宅「カンパネルラ」計画が決まり、それに加え、関係企業が主宰するニート青年たちの自立を目的にした「若者自立塾」の常任スタッフに突然推挙され、学校構想がしばらく凍結されることになってしまった。共同住宅の計画は物件が現れたことで、そして「若者自立塾」は私個人が経験しておきたい課題でもあったこともあって、これらの作業を同時に抱え込んでしまう結果となった。そのため、私たちの学校構想は、結果的に07年後半まで持ちこすことになった。

\*玉がけ：港湾や建築現場でのクレーン作業で鉄材などの荷物を釣る際、荷物にロープをかける作業をいう。荷崩れを起こし危険をとまなう作業である。



## 2 学校〈楽塾〉の第2章

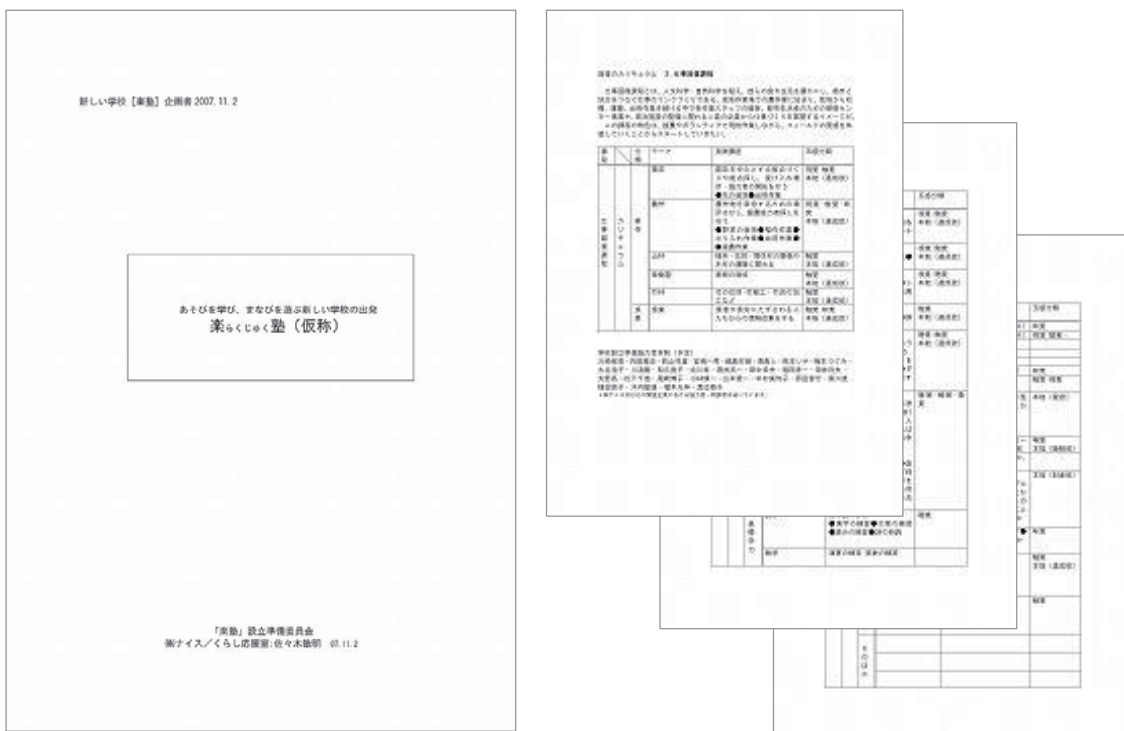
### 学校の冒険

07年の終わり、やっと学校構想を具体化していく態勢に入ることになった。学校の名称は、雇用協力企業である専務が、学校ならぬ〈楽校(がっこう)〉を提唱してくれ有力であったが、以前ワークショップなどで当事者から“がっこう”の語感やイメージを嫌うという意見もあった。そこで専務が提案の“楽”だけを拝借し〈楽塾〉と命名、08年3月までに企画書を作成した。この企画書は、05年に定期的に行われたWSで提案されたプランが下敷きとなっている。

08年7月12日をプレ開校のスタートとし、毎週土曜日を授業日と設定した。〈楽塾〉を(株)ナイス社立とし、塾生は野宿経験者、生活保護者、知的・精神障害者を対象に、授業終了後は給食タイムを設けた。授業料については相当悩んだが、自分に投資してもらうことを結論に、1000円(給食費500円を含む)の徴収と設定した。〈楽塾〉教室を当面のあいだ「くらし応援室」とし、机や椅子の寄贈があった。ホワイトボードなど什器類や、文房具、機器類など先行する経費は会社が負担した。

4月5日および26日の2回、〈楽塾〉設立準備委員会を開いた。友人知人の企業家、医師、広告制作者、NPO関係者、大学教官、院生、僧侶、セラピスト、ソーシャル・ワーカーら30名(第2回は16名)が参加した。第1回目の委員会では、開校実施の決定報告、ワークショップで検討されてきた経過と、それを踏まえた〈楽塾〉の理念、カリキュラムの枠組みを発表し、参加者全員には講師役となってもらうこと、〈楽塾〉開校に向けた授業づくりの協力を願った。第2回目では、具体的な授業スケジュールおよび担当講師を決める作業をし、参加者の了承を得た。これら行動の背中を押してくれたのは社長であった。このように、まずは行動を原則として〈楽塾〉は始動していく。

私にとってはこの時期、日々が学校の冒険を肌で感じていく瞬間であった。ここでは08年4月5日の第1回委員会で発表した企画書の要旨を以下に記しておくたい。



○キャッチ・フレーズ：あそびを学び、まなびを遊ぶ新しい学校の出発

○学校名：楽塾

○楽塾の主題：

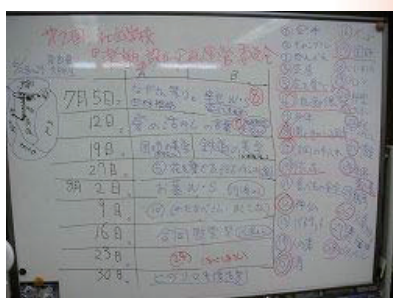
1. 学びなおし価値を変える：従来学校で学ばなかったこと、学べなかったこと。学校で教えなかったこと、教えられなかったことを新しい観点から学びなおすこと。
2. 自らの片割れ探し、仲間作り、居場所づくり：学ぶ場を持てなかった人たち、学びから遠ざけられた人たちが学べる場、まなびとあそびの寄場を創出すること。
3. 生活のやりなおしと社会参加：ここに集う男女は、時には教える側、あるいは教えられる側にも転換する双方向の柔軟さを持つ存在である。さまざまな人生の実践を知る場となること。
4. ルネサンスの創造：社会的難儀をかかえた人たちが、自分のよりどころを見つけ、自他を認め社会に参加するための、ルネサンス（再生回復）拠点となること。

○楽塾の理念：

1. [人間性の回復・健康の回復・仕事の回復]を基底にしたカリキュラムづくり。
2. 社会的常識や因習を問い直し、人との係わりを大切にする関係性の視点を養う。

○楽塾理念の背景

1. 五感（視・聴・味・嗅・触覚）を通し、情感の豊かさやこまやかさの発見。本能や欲望（愛・食・名誉・睡眠・財産欲）をヒントに、性差、債務、アルコール、ギャンブル、権利、生老病死など人生の記憶や軌跡を伝えあい確認する。
2. 複数教科を包括的に取り入れた総合学習を創造していく。



## 楽塾のお仕事

08年7月から開校した＜楽塾＞は、09年10月17日現在、通算57回の授業を行ってきた。累計参加者総数は680名（講師、塾長・事務局長などスタッフ含む）であった。参加者のうち野宿経験者（生活保護者）の塾生登録は16名だが、＜楽塾＞への平均授業参加者は5～6名である。いわば自分の興味ある授業を選んで参加してくるので、皆勤的塾生は5名ほどだがあとは流動的だ。また＜楽塾＞に興味を持つ大学生塾生たちが平均2～3名、楽塾講師経験者で塾生として参加する者は平均2～3名、講師1名（テーマによって複数名）およびスタッフ2名で構成され、毎回の平均参加者（スタッフ・講師を含む）は12～14名である。

＜楽塾＞で行われたカリキュラムは、①人間性の回復②健康の回復③仕事の回復をそれぞれ課程別に分けて授業の分野を抽出、そこからカテゴリーや授業テーマを探り出していった（表参考）。これまで実施した授業を3つの課程に分類したものである。

### 仕事の回復課程

課程	分類	テーマ	実施日	講座名	講師名	職業
仕事の回復課程	農場	農業という仕事	08/6.28-29	田植えに行こう1	南垣内貞史	農場主
		農場という仕事	08/8.10	農場の草刈作業	南垣内貞史	農業主
		農業という仕事	08/10.26	お米・サツマイモの収穫	南垣内貞史	農場主
		農業という仕事	09/6.20	田植えに行こう2	南垣内貞史	農場主
		農業という仕事	09/8.9	農場の草刈作業	南垣内貞史	農場主
		農業という仕事	09/10.11	お米・サツマイモの収穫	南垣内貞史	農場主
	仕事の価値	ホテルマンという仕事	09/2.7	旅を支える人々	野本哲平	ホテルシニアデレクター
		ホテルマンという仕事	09/6.6	ホテルマンになって	野本哲平	
		人生の共感	09/7.11	楽に生きること	久保 晶	ドーナツ店主
		韓国のいのり	09/9.26	居住へのたたかい	全泓奎	市大准教授

### 健康の回復課程

課程	分類	テーマ	実施日	講座名	講師名	職業
健康の回復課程	生	自分で食事をつくる	08/8.9	おいしさひとり占め1	MIYUKI	調理師
		貧乏は価値転換の原動力	08/8.23	生活保護って何だろう？	Mrアマゾン	不動産会社員
		性のアイデンティティー	08/10.18	男と女のあいだには	Mrアマゾン	不動産会社員
		音楽でリズム	08/10.25	ポビーでライブ！	ポビーほか	バー・マスター
		うまく食材を使う	08/11.1	おいしさひとり占め2	MIYUKI	調理師
		計算の練習1	08/11.22	カマを数字で考えよう	川浪 剛	僧侶
		計算の練習2	08/12.6	熊野を計算する	田岡秀朋	楽塾事務局長
		それぞれの味覚	09/2.21	おいしいってどんな味	大谷浩子	ライター
		住環境をふりかえる	09/4.18	こんな家に住みたいな	黒木宏一	市大研究員
		ともに生きること1	09/5.2	知的障害者と私たちのあいだに	堀川大介	知的障害者団体事務局次長
	活	ともに生きること2（コラボ）	09/7.18	人と関わるお仕事	三宅嘉美	総合福祉協会
		身近な食材でおいしく	09/9.5	秋の惣菜	中野悦代 平田節子	介護士 主婦
		スポーツ	自分の身体は自分で管理	08/10.4	空手でメタボ追放1	藤原敦子
	自分の身体は自分で管理		09/4.11	空手でメタボ追放2	藤原敦子	
	自分の身体は自分で管理		09/7.4	空手でメタボ追放3	藤原敦子	
自分の身体は自分で管理	09/10.17		空手でメタボ追放4	藤原敦子		
旅	極楽浄土／回復の旅	09/2.14・15	楽塾修了記念旅行	塾生・講師・	楽塾応援団	

### 人間性の回復課程

課程	分類	テーマ	実施日	講座名	講師名	職業
人間性	コミュニケーション	心の回復	08/7.12	ほめ活かしの言葉	大谷浩子	ライター
		心の記憶（コラボ）	08/7.19	心の地図づくり	渡辺梅子	セラピスト
		華のある人生	08/7.26	てっちゃんの大冒険1	若松 司	市大研究員
		生老病死	08/8.2	花のあるくらしはいかが	水内俊雄	市大教授
		鎮魂・地域と結ぶ・	08/8.16	死んでからのお楽しみ1 合同慰霊祭	福田久美子 川浪 剛 前山村雄 川浪 剛	美 交専務 僧侶 僧侶 僧侶

の 回 復 課 程	ヨ ン	生老病死 かたわれ探し (コラボ)	08/9.13 08/9.27・	死んでからのお楽しみ2 てっちゃんの大冒険2 ふるさと再訪	川浪 剛 水内俊雄 若松 司	僧侶 市大教授 市大研究員	
		生老病死 茶話会	08/10.11 08/12.27	死んでからのお楽しみ3 さよなら 2008年	川浪 剛 塾生・応援	僧侶 楽塾	
		自己表現	09/1.10	これからの授業	楽塾塾生・	楽塾	
		昭和回想	09/1.24	カマやんは何才に？	ありむら潜	漫画家	
		楽塾 08年度修了 塾生のプレゼン	09/2.28 09/4.4	修了式 俺の話を聞いてくれ	楽塾塾生 楽塾塾生	楽塾	
		男と女の会話	09/5.16	男のモテ方 女 のモテ方	Mrアマゾン	不動産会社員	
		心の回復	09/6.13	極楽浄土	前山村雄	僧侶	
		チームワーク	09/6.27	人生は紙芝居 (むすび会)	石橋友美	むすび世話人	
		言葉のあそび	09/9.12	ことのは	大谷浩子	ライター	
		心の記憶	09/10.3	私のポートレート	山崎・本田	近畿大学生	
		ア ー ト	失われた時の記憶	08/9.6	音楽で履歴書づくり	佐々木敏明	楽塾塾長
			映像の記憶	08/9.20	まぼろしの光を求めて	富岡和代	会社専務
			自己表現 (コラボ)	08/11.15	カッコいいスタイル1	山口明香	アーティスト
			自己表現	08/12.13 08/12.20	仮面舞踏会1 仮面舞踏会2	森田智保 清 真人	りぶら店長 近大教授
			映像の記憶	09/1.17	「赤い風船」の観賞	清 真人	近大教授
		人 間	自己表現 (コラボ)	09/5.23	カッコいいスタイル2	富岡和代	会社専務
メディアの発見	09.10.10		極私的少女マンガの勧め	山口明香 森田智保 柴田 剛	アーティスト りぶら店長 市大研究員		
人間探訪	09/1.31		最果てのひとびと1	稲田七海	市大研究員		
中上健次という存在 (コラボ)	09/4.25		路地へ (浪速から新宮へ) 路地から (中上健次へ)	水内俊雄	市大教授		
親 子	人間探訪	09/5.9	私のたくさんの父たち母たち	若松 司	市大研究員		
	人間探訪	09/7.24	最果てのひとびと2	川崎那恵 稲田七海	大学職員 市大研究員		
	親と子の愛憎1	08/11.8	子どもの存在	和久貴子	NPO代表		
親と子の愛憎2	09/9.19	ALL ABOUT MY DADDIES	和久貴子	NOP代表			



仕事作り  
当事者自ら  
がしごとを  
作る

実践体験  
シミュレーション・  
体験学習・  
ボランティア

総合学習  
様々な素材  
から社会・  
経済世界を  
学ぶ

基本学力  
基本教科の  
学習  
社会的セン  
スを養う

自己表現  
視・聴・嗅・  
味・触覚を通  
し自己を表  
現する



＜楽塾＞開校までは、多くの難問や課題などを想定して前に進めず、無益な時間を甘受したこともあったが、思い過ごしや取り越し苦労も多かった。深刻に考えずとも、気楽な気分でやってもよかったと今では思っている。今春、手狭になった教室を、地域にある銭湯の地階にある交流室に移転した。

授業に関わるスケジュールでは、上記の人間性の回復課程・健康の回復課程・仕事の回復課程の理念を具体化すればよかったので、各授業のテーマを出しながら比較的作業がはかどった。この時、各授業を1クール＝2ヶ月単位で編成した（プレ開校では7月から翌年2月の8ヶ月間なので4クール）。問題は塾生の募集であったが、これも私が施設勤務時代からのつきあいで今では生活保護を受ける男たち、また仕事を紹介してきた男たちや病を持つ青年たちに直接宣伝をしたおかげで、目標の10人以上を確保することができた。講師についても、早くから友人知人には学校構想を伝えていたので、＜楽塾＞開校後の1～2クルールの確約が可能となり、比較的スムーズに授業の実施が可能となった。ここで全ての授業の様子を語る枚数はなく、興味のある方は、＜楽塾＞ブログ「塾長の授業参観」を参考にさせていただきたい。楽塾 [http://blogs.yahoo.co.jp/rakujuku\\_nice](http://blogs.yahoo.co.jp/rakujuku_nice)

### 授業事例から＜楽塾＞を発見する

講師は基本的にボランティアで来てくれていたが、僅かな交通費を支払う。その交通費でさえ＜楽塾＞の基金にと返戻する講師たちもいて助かるのだ。実は学校計画で講師料をどうするかが大きな悩みであった。一般的な謝礼を考えれば＜楽塾＞はもたない（つまり原資がないのだ）からいっそう無償にと居直ったの結論で、しかし交通費という誠意だけでも表したかった。そこで塾生の授業料500円を活用すれば有効な使い方になるのではと考え、ぎりぎり2000円という少額を捻出した。コラボレーションなど2人が講師になる場合は1000円ずつとなる凄まじさである。しかし1年余を経過した今、再度、再々度、講師依頼を納得して参加してくれるようになった。おかげで2～3月先のテーマと講師は決まっていて、＜楽塾＞の収支もギリギリ赤字を免れている。

### 講師が塾生になるきっかけに

「この場所に来ると（IT機器に囲まれた）日常の静電気が落ちる」という講師の言葉が印象的であった。彼女は学童保育をテーマとするNPOの代表をしていて、多くの子どもたちとの接触が長い。かつて子どもであった私たちが、親や社会をどんな視線で眺めていたのだろう。親の年代となった今、子どもたちへの愛憎を抱えた大人たちのために、「子どもの存在」(08/11.8)というテーマで講師を依頼した。彼女は少女時代、母親と死別しそして新しい母親の出現を経験した。複雑な自己の歴史を封印した体験を語るなか、「女たちの苦しみや呪縛を解放しない限り、子どもたちの存在も危うい」という話をしてくれた。塾生たちのとくに母親への記憶、イメージ、愛憎などをそれぞれから聞く時間が持てた。

父を知らずろあ母親に育てられた塾生は「母親の声を聞いたことが無く、身振り手振りで語り合った母親だったが、母は今も夢の中で一緒にいてくれ語ってくれる。自分にはいつも母がいる」と語ってくれた。またDVを受けて育った男たち、幼少から母親にまったく認めてもらえなかった男の話などは、彼女の興味を呼んだのだった。

「それぞれの生の紡ぎが、今ここで運命のように、きちんと重なり合っていく・・・その現場に居合わせた私とその光景に心身を委ねている私自身をまた見守っている・・・というような、不思議な感覚がありそれぞれの、これまでとこれからの‘大切な時間’が感じられました。



お金の概念なんてパーになりました。損得勘定抜きで、儲けてるなと思えます」。これは授業以後、彼女自身がブログに記したもののからの引用である。その後、彼女の「ALL ABOUT MY DADDIES—おとんのこと」(09/9.19)では、父親への記憶をテーマとした講座を実施した。日ごろ話題にもならない父親をテーマとし、恨み、つらみ、憎悪、殺意すら語られた授業ではあったが、後半のワークショップでは、ろうそくの明かりの中、各自父親に送るメッセージを披露することになった。しかしここでは「あれほど殺したいと思っていた父親だが、この年齢になって、なんとなく父の気持ちがわかりかけてきた。親父も苦しんだのだ」とする言葉や、「自分が若い時無茶をして家族を苦しめた」と話しをする男、父を許し、謝罪し、理解したいとするメッセージが伝えられた。また「父親を知らず、いつも映画や小説の中でしか父をイメージすることができず、父親といわれても存在がわからない」と話す塾生もいた。「できればこれからは父と話し合うことをしたい」といったように、老いゆく父親への情が見えるものもあった。ネガティブな父親への言葉がなかったことが授業を潤いあるものにした。

冒頭の彼女の言葉「静電気が落ちる」とは、自分に共振する体験からの共感であったと想像したい。この事例は他講師も同様で、共感が今度は塾生として参加してくれるもとにもなるという一例で、私の応援活動をとにかく説明しなくとも、〈楽塾〉の現場が講師たちを内発させる磁場となり、現在33名もの講師を確保できた証だと考える。これはスローガン無き静かな啓発活動だとひそかに思っている。

### 塾生が講師になるきっかけに

この日、塾生は最高の23名を記録した。性同一障害者の権利、障害者の人権、社会的包摂などなど、とかく社会への弾劾や声高な啓発がネガティブに傾きがちな“性”を、確信の性として生きる人たちと私の遭遇が「おとことおんなの間には一性同一障害なんていわせない」(08/10.18)という授業に結実した。ゲストはホモ(男)、おなべ(女)、オカマ(男)の異性愛3名に、ファッションデザイナーのMrアマゾン。彼らの共通点はそれぞれが店を営み、自分の新しい性をアイデンティティとして生きているということだ。ニューハーフとも言われるおかまのA氏に初めて会った時、「性同一障害なんていわないで欲しい。私は障害者ではないし自分を生きてるの」という言葉に私は強く触発され、授業を思い立った。この日の授業はこのテーマに集約されていた。とはいえ小さい時は自分の性に折り合いがつかず、さまざまな曲折を語ってくれたことも事実である。

この授業時、塾生から「皆さんのように積極的に生きている人がいる反面、やはり人知れず自分の性に悩む人もいるはず。どんな生き方をすればいいか」との質問に、「全ては自分の行き方に忠実に、そんな心のあり方が大切。世間の見方がどうであろうと、自分の生き方を自分で認めることしかない」と応えてくれた。この授業で変化が見えたのは、野宿経験者である塾生が、過去刑余者であったことを突然告げたことだった「俺は昔刑務所に入っていて、監獄の中では順番にオカマされたことがある。あの世界では当たり前や」。つまりカミングアウトだ。テーマとの脈絡は薄い、自分もかつて性のテーマを持つ主人公を演じた、ということ伝えるための表現であったのだ。何年もつきあいのあった私にも聞かされなかったことだった。その後の授業では、過去の負に関わらず自分を認めていく発言を聞かされた。そんな塾生が目立ってきた。おそらくこの授業が大きな起爆をもたらしたのだろう。その結果「僕の話聞いてくれ」(09/4.4)という、塾生たちが提案し企画した授業に結実していく。発表の場に立った



3人の塾生それぞれが自分をアピールするプレゼンテーションを行った。

「人はホームレスを上から見下ろし、俺は彼らを下から眺める。ホームレスをして世の中が見えてきた。いわゆるフリーターや派遣の問題。彼らはそれを認めて仕事を選んできたんや。不況とはいえ派遣村というのはおかしい。そんな状態にいるならホームレスを経験すればいい。甘えるのもええ加減にせいと言いたい。ホームレスをすることは知恵を絞って考える習慣を持つことができることだ」と野宿生活から現在に至る軌跡を話すK君。「鑑別所を始め、少年院に入れられ、医療刑務所以外の刑務所は全てに入った。しかし、今はそんな自分の経験を許せる」。人を殺め刑務所に至った経緯を話したM君。「昔から好きな映画の話をして」と喋りはじめたT君は、これまで見てきた映画の紹介を続けながら、「僕はいつも映画と現実がごっちゃになってしまいます」。なるほど授業中の彼はよく講師に質問をするが、その際、たとえ話で映画作品がよく引用される。感性が鋭いので、授業の問題となっている共通性を、自分が見てきた映画というメディアに反応させ語らせるのだろう。1人約20分の持ち時間で彼らは「僕の話」を聞かせてくれた。

## 暇つぶし

〈楽塾〉では、先生と塾生が常に逆転する双方向授業を実践したいと願っていたが、彼らの授業はまさに青天のへきれきであり大きな刺激だった。教えられるだけでなく教えること、教えるだけでなく教えてもらえること、そんな水平なかかわりが〈楽塾〉で始まりつつあるという刺激だ。〈楽塾〉の将来にどんな展開が待つか全くわからない。しかし、この場所はこれまで「カネはないけど暇だけは充分ある」という男たちが、暇つぶしの場所として活かしてくれたのだから、そんな位置づけで続けていこうと思っている。これからも出来るだけ小さな学校として維持し、地域の中で柔軟で新しい共同体づくりを目指したいと思う。授業はその栄養素であり血肉を注入する場所と考えたい。数少ない授業事例で全てを語れず残念だが紙数が尽きた。機会をいただければ後日譚としての〈楽塾〉を話してみたいと思う。

(2009年10月30日)

楽塾塾長 佐々木敏明

【注】本稿は、研究誌『市民の科学5月号』（2010年）から許可を得て転載

### ●佐々木敏明の略歴

44年大阪市阿倍野区生まれ。デザイナー・絵本作家・ルポライター・派遣員・夜間作業員など、雑多な職種と社会的現実を目撃してきた。阪神大地震の被災体験を契機に野宿者問題に関わる。現在㈱ナイス非営利部門「くらし応援室」に所属。失職者、知的・精神障害者らの就労／生活応援を続ける。08年、もう一度学びなおしができ、居場所として遊べる、新しい学びと遊びの学校〈楽塾〉を開校した。

●㈱ナイスホームページ＝<http://www.nice.ne.jp/>（「非営利部門くらし応援室」のページ）

## 極私的楽塾 –楽塾へのメッセージ– (2010年2月 現在)

### 野本 哲平 講師 2回

御無沙汰いたしております。  
皆様の前に二度立たせていただきました。  
皆様の受講態度のよさに感心しました。

「小にして学べば壮にしてなす」。  
「壮にして学べば老いて衰えず」。  
「老いて学べば死して朽ちず」。

佐藤一斎 「言志四録」

皆様の益々のご健勝を祈念いたしております。

### 石橋 友美 講師 1回

09年に講師として楽塾に参加させていただいて以来、塾生の方が当グループのお手伝いをして下さったり、塾長さんとつながりを持ってたり、同じ地域で、主に単身で暮らす方々の生きがいや人間関係づくりに携わるものとして、とても親近感があり、心強い存在です。ひとりひとりに寄りそう活動をしようと思うと、人材面や施設面もあり、市民活動ではどうしても多人数の対応はむずかしいのですが、こうした街のあちこちで形成しているグループ同士がときにつながったりしながら、より多くの人を巻き込んでいければ、柔軟で風通しのよいコミュニティができていくのではと期待しています。

こちらは超高齢者や足の悪い方がいたり、私自身土曜日の夕方に用事があつたりで、毎月の楽塾自体には参加できずにいるのですが、お互いに企画したものに両方の参加者が縦横無尽に飛びこめるような関係やシステムができると、なおいいなあと思っています。今後の関係の発展を楽しみにしています。

### 川北 かおり 塾生 2回

講師と塾生とのなんとも言えない、ほっこり感が何ともいえないいい感じです。参加回数はまだ少ないので、多くはわかりませんが、最も心に残った最近の講座の感想として、その講師の方の謙虚さにまず心を打たれました。支援者や研究者の一部にあるような、一段高いところから見下ろす感じが全くなく、常に相手の立場になって「これでよいのか」と自問しながら、「決してあきらめずに」向き合い続けておられる姿勢に学ぶものは非常に多かったと思います。

楽塾のよさは講師はもちろん、受講生の皆さんのよるところが大きいと感じます。機をとらえた絶妙なつつこみや質問、時折さらっと話される実体験、いずれも講座の中身をより深める重要な要素だと思います。

これからも、楽塾に時折参加できるのを楽しみにしています。

### 北場 好信 講師 1回

何を話してもいいという安心感は、とても大事と思います。

そのことを聞いてもらえるという感覚も自分自身を「認めてもらえてる」ようで居心地がいいと思います。

### 藤木 美奈子 講師 1回

以前、訪問したオーストラリアのメルボルン市の町々にある公民館的な場に似ている。

お年寄りや障害を持つ人が、近所の小さな子どもの託児などをしながら、料理や食事を楽しんでいた。

こうした場が日本にもっと増えれば。

地域交流の拠点となるべき公民館が、過剰に管理され、一般の人々が使えない場になっている。

“楽塾”的な居場所の拡大が共生社会づくりの一歩だ。

### 益子 千枝 講師 1回・塾生 1回

楽塾は佐々木さんの有言実行の果実です。平成13～15年頃、野宿生活者対象の巡回相談員を佐々木さんと一緒にしながら、野宿に至ってしまった人の多くが、“学校”で学べるべきことを学べていないことを知りました。

それは勉強というより、規則正しく決まったところへ行く、そこに自分の机があり、友がいて先生がいる、ケンカしても叱られても楽しいこともあるから明日もいく、仲間おりする…、という経験が欠けているのです。

それをちゃんと形にした佐々木さんはすごい。これからも楽しんで作って欲しいです。



**長戸 圭造 講師 1 回・塾生 40 回**

ほめて ほめられて いい気分「ほめ活かしの言葉」から始まり、最初は緊張と少し恥ずかしい気持ちで塾を受けていましたが、回数を重ねるうちに、緊張もほぐれて、死活問題あり、笑いあり、徐々に楽しく授業を受けられました。

これからも緊張と笑える塾で名前の通り「楽塾」で心地のいい授業を受けていきたいと思えます。受けた回数は少なかったのですが、なるべく多く参加して、楽しい塾で楽しく受けて、楽しい気持ちのまま授業を終えて家路に着けています。

これからも長く楽塾がなくなることなく、続けばいいんじゃないかと思っています。

「楽しくて勉強になり笑える塾です。」

**山崎 安敦 講師 1 回・塾生 30 回**

楽塾は「虹」です。

毎週の授業には、おっちゃんだけじゃなくていろんな人達が来て1つの授業になります。その中には私のような大学生もいます。

いろんな色をお持ちの1人1人が集まって、見えない向こうに向かっている所なんてまさに虹です。またその場が決められたテーマを決められた形式で行なう場所ではないがゆえに、よくわからない時もあります。

授業がはじまる前には決して見えなかった光景が、いろんな色の塾生さん達によって描き出されていきます。近づけば近づくほど見えないのに、よくわからないうちに包まれている。その場所が心地よいのです。私のような同年代はめったに同席しませんが、楽塾は私のサードプレイスです。

きつときつと、虹のような楽塾の一色を担っているあの人やあの人にとっても。

**高瀬 正雄 講師 1 回・塾生 70 回**

1期目は鶴見橋の佐々木さんの事務所で授業を受け、狭い中にもアットホームな感じでして、2期目教室が風呂屋さんの地下になり、一寸とまどいました。

けど、あきずに、色んなテーマあり、色んな人たちが来て、こんばんはどんな授業があるのか、楽しみにしています。

なるべく重苦しい授業じゃなく、和気アアイの集まりであって欲しいです。

**津川 善行 塾生 40 回**

ふろに入って 食事が楽しみ

**松浦 邦普 講師 1 回・塾生 70 回**

毎週土曜日に話をきき、食事をし、たのしくやっていたのしんでいます

**伊藤 塾生 50 回**

授業は講師の話しを聞くだけ聞いてから、質問等は後でしてほしいです。

とりあえず、講師の話しが聞きたいです。

**大谷 浩子 講師 6 回・塾生 30 回**

「楽塾で生活力」

創立2周年おめでとうございます。記念すべき第一回目の講師として参加させてもらえたこと、とても光栄です。最初は逃げ出したかったけど“喉もと過ぎれば熱さもカイカン”、ずっとお付き合いさせていただいています。

自由と孤独が隣り合わせの都会生活の中で、週に一度、数時間のスケジュールができるだけで、暮らしが変わることを知りました。楽塾に行けば、まったく接点のなかった人と知り合える。考えたこともなかったテーマについて意識を目覚めさせてくれる。お金もあまり使わず週末を楽しめる。ゴハンまで食べられる。よくしゃべり心もおなかも満たされて、充実した気分で眠れる…。これって、確実に生活力アップにつながります。楽塾が築き上げてきたのは、単なる集い場じゃない。楽塾という“生き方”だったのですね。

ハートウォーミングで、好奇心旺盛で、個性豊かで、お茶目で。こう見えて少くらは良識もあって、食欲なんか抜群にあって…。とにかくすごい実力をもっているのに、大きな声で威張らずに、さりげなく存在しているところがカッコいいと思います。楽塾は都会の底力。“大阪の小遺産（こいさん）”と呼びたい！

### ありむら 潜 講師 1 回

私は講師として 1 回参加させていただきました。

それは私が描いてきた漫画作品(とりわけ今回は働く場面のセレクション)がはたして当事者たちに受けるのかどうか、リトマス試験の機会となりました。

もちろん、この漫画は毎月発行の日雇い労働者向け『センターだより』に掲載されてきたので、ある程度は受け入れてもらえるのではないかという気持ちはありました。

結果。ぎりぎりでなんとかかなったように思います。

いつのまにか自分が磨かれていることに気づきました。ここは「顔と顔が見える関係での学び合い」の場であると感じました。今後もこのような場が続くことを期待します。

### 小川 裕子 講師 1 回・塾生 10 回

いろいろなテーマについて「話をする」「みんなで作る」というのがとても大事なことだと思います。西成の町ではそんな機会はあまりないので・・・。

皆さんの発言ひとつひとつに私も考えさせられています。

### 青山 美香 講師 1 回

アットホームな雰囲気みなさんが楽しそうにされているなと思いました。

給食もすごくおいしかったです。みなさんといろいろ話をしながら、食べるからさらにおいしかったです。

何かを学ぶという事は人を豊かにさせるのだとしみじみ思いました。

### 上地 徹 講師 1 回・塾生 2 回

話し手としても、聴き手としても私は参加したことがあります。どちらの立場でもなじみやすい空気でいやすかったです。ただ 2 時間は長いかと思いました。

給食は 500 円で量も多く、おいしかったです。

支援・被支援というテーマについてはよくわからなかったです。2 月 12 日の藤木さんの話を聴かせてもらいました。すごく話を聞けてよかったと思いました。

### 全 泓奎 講師 1 回

楽塾には講師として 1 回しか参加しておりませんが、フィールドワークや韓国からの訪問客の案内で数回訪ねたこともあり、ぼくにとってはとても近い存在として考えています。そのみならず、楽塾を通じて行動し、発信されているメッセージは今日の日本社会、あるいは日本の教育現場にはない、温もりのある関係の場の構築にも繋がっていると思い、その存在の大切さを感じています。

隣国であり、ぼくの母国でもある韓国でもこの楽塾と似たような試みがなされています。ソウル市からの委託で運営されている「(財)大韓聖公会タシソギ相談保護センター」が運営する「セイント・フランシス大学人文学プログラム」がそれです。こちらのプログラムは、現役のホームレスを対象に、人文学という本格的な学問領域と社会的支援プログラムを同時に行っています。それらを通じて自己尊厳を取り戻し、社会に再参入できるように支援することに目的があります。講師の方々もソウル大学他、知名度のある大学の教員が実際に教育を担当しています。2005 年開始以来、現在まで 5 期が終了し、つい最近 6 期の募集があったばかりです。先日訪問の際に楽塾のことを思い出し、このような試みが今後は国内という領域を超えグローバルに連携できたらと夢見ています。

### 和久 貴子 講師 2 回・塾生 2 回

私にとって、「異常に」居心地の良い場です。不思議と、此処でしか出会っていないのに、ずっと一緒に時を生きてきたんだな、と実感できてしまう人たちがいます。

それぞれが別々に落っことしてきたハートや、苦しくてしんどくて何とか逃れてきた時を、取り戻していける場のように感じます。

しかしもしかして、この「学び取っていく」力強い感触、緩やかに他者とつながりゆく幸福感は、自分たちが「児童・生徒・学生」のときには徐々に奪われてきた感覚かもしれない・・・とも思い、今更「エンパワメント」という言葉の意味を体感しつつ、「教育マネジメント業」(私の造語)を憂えたりします。ああ、ちゃんと抵抗しなくては、なんて思うのです。(佐々木さんの思うツボですかね。)

70 余回の積み重ねとつながりは、大きな財産です。次の取り組み、学び、つながりへと、広まり深まっていくことを切望いたします。

### 清 真人 講師 2 回

楽塾には二回講師として参加させていただきました。

仮面作りと、作った仮面を実際に被って仮面に何か喋らせてみせる、ということで何が生まれてくるか？それが授業の内容。或る予想を超えた驚きがありました。詳しくは書きませんが、塾生の一人が、仮面に憑依して、たぶん仮面を被らなかつたら決して打ち明けはしなかつたであろう、彼の想いを、仮面に語らせたのでした。

これは怖ろしいぐらいの経験なので、果たしてこの授業の成果として誇るべきか、してはならないことをしてしまったのではないか、いまでも答えは出ないのです。実は。

僕の経験はこれだけですが、楽塾はこんな経験をいつも中軸において、とんでもないはっぴんな——報告Webを時たま覗くと——「授業」の概念を超えた授業による「生き直しの学校」を果敢にやっているところなので、講師として得るところが大きい。

講師が自分の授業をとおして学ぶことが講師活動の中軸となる学校というのは、たぶん真の学校というべきでしょう。

とにかく贅沢ですね。まだ10人に満たない受講生(間違ったらごめんなさい)の学校の展開に、あれだけ塾長を先頭にスタッフがエネルギーを注ぎ、それに答えて講師が頑張る、これは贅沢以外の何ものでもないと思います。

### 武田 緑 講師 1 回・塾生 1 回

私は、「あそびを学び まなびを遊ぶ」という楽塾のコンセプトがとっても気に入っています。なんだか世の中学ぶことが苦しい、しんどいことみたいなイメージが強いように思うのですが、学ぶことと遊ぶことってすごくつながっていて、「へえー、おもしろいな」と感じたり、実際に何かやってみて、世界が広がって自分のことももっと深く知っていけて…遊んで学び、学んで遊ぶことは生きていく醍醐味だと思ふのです。

楽塾は、そういうところから遠いところにおっちゃんたちの、そして私たちのような若い世代の、居場所として、学び場として、遊び場として、めっちゃええとこやと思います。また遊びに行きます！

### 川崎 那恵 講師 1 回・塾生 10 数回

楽塾の魅力は、つまるところ、楽塾に集ってくる人たち(塾生、佐々木塾長、講師)の人生そのものが集うという点にあるように思う。塾長と講師が毎回検討を重ねて決まってゆくテーマと内容は、その人生について自然と語り出したくなる＝誰かと共有したくなる想いを引き出す、絶妙な演出と言える。

授業では、誰もが誰かのことばに耳を傾け、だからこそ、みんなが安心して自分を開いている場となっている。馬鹿にされたり、無視されたりすることがない。一見すると辛いことや悲しいこと、こうなればよかったのに…と思うことも、笑い飛ばしてくれたり、受け止めてくれたりする懐の深さが満ちていて、それは新しい価値観への開眼へとつながっている。

学校や社会からはじきだされて、一人ぼっちのホームレスや獄中経験もあるおっちゃんたちが、ぼつりぼつりと語ってくれる人生の話の聞きたくて、私も楽塾に通っている。

### 岩山 春夫 塾生 6 回

楽塾との出会いは、佐々木さんが大阪市大大学院・都市共生分野のゲストにいられたのが始まりです。

先日、講義の延長で韓国の貧困・社会的排除についての研修でソウルに行ってきました。そこで「野宿者タシソギ(立ち直り)支援センター」を訪問しました。ここは、野宿者の生活支援、無料診療、循環相談、国際交流などを行っているのですが、面白いのは「人文学講座」を持っている事です。これまで社会的サービスから排除されて生活してこられた人達に、社会参加をしやすいする為に、人文学の本格的講義を大学と提携して行っているのです。年間2学期制で各15週、哲学・文学・歴史・作文を勉強し、年間10~15、6人が終了します。

楽塾は、幅広い問題意識に支えられて、多彩な講師陣によって、講義内容も高いレベルを維持しています。そして市民が自由に参加できる要素を持っているのも魅力です。大阪には独自分野で継続している学習会・サークルがあります。それらと繋がって、タシソギの要素も入れて、市民大学を構想されたらどうでしょう。短い韓国の旅でそんな事を夢想しました。

藤原 敦子 講師 5 回・塾生 1 回

前年度は、空手を授業に組み込んでいただき、ありがとうございました。

空手のイメージから、年配の方は敬遠されがちですが、体調がすぐれない中も、見学しに来てくれたり、いろんな年齢の方が参加してくださり、とても嬉しく思います。

以前、子どものサッカーの試合で、高齢者のサッカーチームを見ました。70歳代の方もイキキ子どもたちと走り回る姿を見、年齢は関係ないんだという勇気と感動をもらいました。空手にも同じことが言えます。手が使えないときは足を使った練習、足が使えないときは手を使った練習。

空手は誰もがができるスポーツですし、日々身体を動かすことは必ず必要ですので、これからも空手を継続し、心身ともに健康でいてもらえると嬉しいです。

今後も、皆さんに楽しんでもらえる空手を考えていきますので、よろしくお祈りします。

森田 智保 講師 2 回・塾生 5 回

ファッションの分野で2回講師をさせていただきました。

「ファッションなんて・・・」と初めは思っていた生徒の方々が、授業の後、いろんな服を試し、新しいファッションに目覚めて楽しんでいるのを見て、ひそかにガッツポーズ☆

今後の皆さんの「モテ服」の進化を楽しみにしています！

「楽塾」は、まさに「めだかの学校」  
誰が生徒で先生か～♪  
私も生徒として、ヒヨッコ講師として、  
西成で見つけた新しい「居場所」  
一緒に楽しませていただきます！！

川井 友二 事務局 30 回

僕は、楽塾の事務局サポートとして、何度か参加させていただいております。特に印象に残っているのは、栗塚旭さんの授業で、講師の栗塚さんも、生徒も、双方で楽しんで授業ができたと思います。楽塾の最大の良さは、生徒も講師になれる臨機応変さ。関わるみんながプロシューマーとして、授業をこなす。みんなが楽しんで授業を作っている雰囲気だと思います。この雰囲気を大事にしなが、今後も取組に関わりたいと思います。

蓬莱梨乃 講師 1 回・塾生 3 回

11月7日に「ちがうから面白い 一違いから魅力へ 日本からヨーロッパの旅～生活スタイル、言語、習慣の違いから「おもしろみ」発掘 2時間の旅～」を担当させていただいた、蓬莱梨乃です。

佐々木塾長から「楽塾」を立ち上げるというメールをいただき、立ち上げ会議に参加させていただいたのが08年春。あらゆる方面でご活躍されているカラフルな佐々木応援団がくらし応援室にあふれんばかり集った時、「どんな学校がこの楽塾という織機から紡ぎ出されていくのか」と、わくわくしたことが今でも熱く残っています。

高校2年生まで「教師の道しかない」と思いこんでいた私ですが、「(当時の私の周りの)教員って規則や進学、点数にうるさいわりに、普段の講義はマニュアルにのっとただけでおもしろくない。大学出てストレートに教員になって、学校という枠以外に出たことがないなら、子どもに伝えられることに限度があるのも当然じゃない。(※もちろん、今でも親交のあるとてもすてきな先生も数人はいらっしゃいました。)」なんて、生意気にも考えるようになり、ある日懇談会で「教師の道はやめる」宣言をし、自分の将来を考え直すことにしました。その後、大学、大学院のいろいろな出会いや学びを通じて「教科書にはない、経験から学んだあらゆることを、多角的に子どもたちに伝えることができるようにしていきたい」と思うようになりました。

そして、そのような想いを実践する場となったのが、私にとっては西成であり、またそのうちの一つが楽塾なのです。誰もが講師になれ、誰もが生徒になれる。決まったスタイルもなく、教科書もない。年齢もこれまでの人生も何もかも異なる人々で構成されている楽塾。

講師のご依頼をうけ授業構成を考えながら、「みんなが参加してもらうには？関心をもってもらうには？」というところに最初は悩みましたが、「私の経験という唯一のものが、授業を進めながら、生徒のみなさんによっていろいろな形にかわっていくだろう」と思いなおし、どのような時間になるのか私自身も当日を楽しみにしていました。

結果として、授業の中では小学生の男の子が講師になる場面もあり、また思いもよらない質問があたり、それに答えてくれるのがまた異なる生徒さんであったり。2時間という授業のなかで、みんなが生徒になり、講師になり。

社会がいろいろな属性、背景をもった方で構成され、そのような中で生活し支えあっているように、楽塾もまさにそうで、それが楽塾の魅力だと改めて実感しました。

画一的なものを完成品として求めるのではなく、参加している各々が異なっているからこそ、化学反応のようにあらたな学びやつながりが生まれ、一緒に紡いでいける…。私にとって楽塾は、私の思い描いてきた夢実践のひとつの空間であり、また伝えることで自己を振り返る時間でもあります。また、私が授業で伝えたかったことがすでに自然と織り成されている場所でもあり、またご無沙汰してもふらっと立ち寄り、また新たなつながりや情報、学びをもって出発できる場所でもあります。まさに、佐々木塾長がくらし応援室で目指してきた寄港地ですね。

たとえ楽塾が行われている場所に行くことが物理的にできなくても、何らかの形で一緒にまだまだ紡ぎに継続して加わっていきたくし、また西成とは違う場所でも新たに紡いでいけたらと思っています。そして、またふらっと楽塾に立ち寄らせてくださいな。

山口 明香 講師 3 回・塾生 3 回

楽塾には塾生として、講師として3回ずつほど、回数は少ないが経験させてもらった。講師としては、最初の2度は、私が普段勤める古着屋りぶらのスタッフとして店長の森田さんと、そして昨年末は単独での授業を頼んでいた。その授業では佐々木塾長のなんとなくの希望はあったものの、言ってみれば何を授業にしてもいい(と私は理解している)のだから、困ってしまった。これまでの人生の経験も年齢も(しかもずいぶん年上の方が多い)、その日授業に来た理由も様々である人々を相手にどんな授業を?と考えた。それは、これまで自分がどいかに独自の経験をし、その経験で得たことから人に伝えたいことは何か?…シンプルなようで答えがぱっと出そうにない自分自身への問いとなり、私はうーんと考え込んだ。誰もがそれぞれ独自の人生を経験し、そこから何か人に伝えることはあるはず…そして、私も例外ではないはず…と考えてみるが、具体的にするのは簡単ではない…。簡単ではないが、それを考えることは自分自身のこれからするべく仕事にとっても大事なことである。そんな機会を与えてもらった楽塾に感謝する。日々の暮らしの中で、様々な人と出会い、その交流や対話から多くのこと交換し合う、そんな豊かな人と人との出会いがぎゅうっと凝縮されているのが楽塾なのだと思う。

田岡 秀朋 講師 2 回・事務局 60

楽塾はホームレスの学校というコンセプトで始めました。毎週土曜日はギャンブルやアルコール以外も楽しもう。ということだったのですが、ふたを開けてみると、そんなことはない。多国籍、多世代、多目的な塾生があふれ、授業でアルコールをたしなむ。このままでは「名称に偽りあり。」とクレームを受けるかなと思ったこともあります。いまでは塾生、講師、授業のごった煮が「楽塾」なんだな。とひとり納得しています。

この感覚を多くの人に味わってもらいたいという夢を抱いて、出張楽塾などを通じて、緩やかなネットワークで発信できればと妄想中。塾生・応援団のみなさん、そして塾長。これからもよろしくお願ひします。



水内 俊雄 講師 5 回・塾生 2 回

楽塾の命は、講師陣のバラエティさと、ユニークな塾生であり、またこの講師、塾生の役割は自由自在に入れ替わったり、融合しあっている、この絶妙な掛け合わせにあると思います。

講師陣については、ひとえに、塾長のユニークなヒューマンネットワークのなせる技、よくぞこの幅広いジャンルを縦横無尽にかけめぐる人材を呼んでこられるものだと。塾長を3分の1ほど育てた西成は「包摂型」人材の宝庫なんでしょうね。とほくも、プラザ自由大学構想をいっしょに練っていきいし、今後ともともに知恵とアイデアを出し合い、学びの楽しさを演出していきたいと思っています。

プラザの若い人材ともども、今後もご貢献にお願い申し上げます。

佐々木 敏明 講師 3 回・全行程参加

開校以来、  
塾生の参加が途切れないこと、  
講師が途切れないこと、  
給食が途切れないこと、  
楽塾応援団の熱いエールが途切れないこと、  
運営費が途切れかけ…ていないこと。

たくさんの人たちの途切れない友情が  
楽塾を育ててくれました。

楽塾はもうみんなの財産です。  
あとは塾長の意思が途切れないよう  
注意が肝要です。

2008年8月7日 朝日新聞 夕刊



# 楽塾 '08 授業参観





## 楽塾のあゆみ '08 目次

回数	日時	講師	所属	タイトル	学友	ページ
08年度 第1回	7月12日	大谷 浩子 梅ちゃん	コピーライター セラピスト	ほめ活かしの言葉	21	31
08年度 第2回	7月19日	水内 俊雄 若松 司	大阪市立大学地理学教授 大阪市立大学都市研究プラザ研究員	ふるさと再訪 ーてっちゃんの冒険列車ー	15	33
08年度 第3回	7月26日	福田 久美子	(株)美交工業 専務	花のあるくらしはいかが?	10	35
08年度 第4回	8月2日	川浪 剛	僧侶	死んでからのお楽しみ ーなまぐさ坊主の独り言	12	37
08年度 第5回	8月9日	みゆきちゃん ふみこちゃん 井上 比登美	調理師 調理アシスタント 楽塾スタッフ	おいしさを一人じめ ー安い食材でうまい料理を	11	39
08年度 課外授業 Part1	8月10日	南垣内 貞史	大柳生農場主	大柳生の草刈り	5	40
08年度 第6回	8月16日	前山 村雄 川浪 剛	僧侶 僧侶	合同慰霊祭	20	42
08年度 第7回	8月23日	Mrアマゾン K氏 N氏	不動産会社社員 塾生 塾生	生活保護ってなんだろう?	10	44
08年度 第8回	9月6日	hidarimaki	DJ・塾長	hidarimakiの音楽で履歴書づくり ーあの時 君は若かった。10歳の君へー	12	47
08年度 第9回	9月13日	川浪 剛	僧侶	死んでからのお楽しみ Part2 ー極楽浄土の旅ー	11	51
08年度 第10回	9月20日	富岡 和代	東天満住宅株式会社専務	幻の光を追い求めて ーイラン映画の楽しさー	9	53
08年度 第11回	9月27日	水内 俊雄	大阪市立大学地理学教授	ふるさと再訪 ー浄土までの距離ー	13	55
08年度 第12回	10月4日	藤原 敦子	空手サークル長橋育勇会	空手でメタボをぶっ飛ばせ!	7	57
08年度 第13回	10月11日	川浪 剛	僧侶	死んでからのお楽しみ Part3 ーアルコールいぞんもなんのそのー	11	59
08年度 第14回	10月18日	朝美さん ジュイさん Nさん アマゾン先生	飲食店経営者 飲食店経営者 会社員 不動産会社社員	おとことおんなの間には ー性同一障害なんて言わせない!ー	23	61
08年度 第15回	10月25日	ポビー 藤原さん ヨシノビッチ ヒトミ	飲食店経営者 ミュージシャン 会社員 楽塾スタッフ	ポビーでライブ	14	66
08年度 課外授業 Part2	10月26日	南垣内 貞史	大柳生農場主	収穫祭 ー米とサツマイモの刈り取り作業ー	6	67
08年度 第16回	11月1日	みゆきちゃん せいこちゃん たかよちゃん	調理師 調理アシスタント 調理アシスタント	おいしさを一人じめ ー収穫祭のおすそわけー	12	69
08年度 第17回	11月8日	和久 貴子	NPOワークレッシュ代表	子どもの存在	10	72
08年度 第18回	11月15日	森田 智保 山口 明香	古着屋りぶら店長 古着屋りぶらスタッフ	かっこいいスタイル ー自分流の服を考察するー	12	75
08年度 第19回	11月22日	佐々木 敏明 田岡 秀朋	塾長 事務局長	修了記念旅行を10倍楽しむために ー自分の旅をプランするー	10	79
08年度 第20回	12月6日	川浪 剛	僧侶	カマを数字で考える ー地域をデータであそんでみようー	9	83
08年度 第21回	12月13日	清 真人	近畿大学文芸学部教授	仮面舞踏会 Vol.1 ー人間について、自分についてー	11	85
08年度 第22回	12月20日	清 真人	近畿大学文芸学部教授	仮面舞踏会 Vol.2 ー人間について、自分についてー	8	88
08年度 第23回	12月27日	塾生・教官・楽塾応援団		楽塾謝恩交流会 「フェアウエル2008」のつどい	26	92
08年度 第24回	1月10日	佐々木 敏明 田岡 秀朋	塾長 事務局長	これからの授業をみんなで企画しよう	11	94
08年度 第25回	1月17日	富岡 和代	映画サークル元代表	映像の記憶	10	98



08年度 第26回	1月24日	ありむら 潜	漫画家	昭和回想 —カマヤんは何才になったか—	10	101
08年度 第27回	1月31日	稲田 七海	大阪市大都市ブラザ研究員	最果てのひとびと	15	103
08年度 第28回	2月7日	野本 哲平	ホテルブラザ神戸総支配人	ホテルマンの仕事	14	106
08年度 第29回	2月14～ 15日	塾生・教官・楽塾応援団		楽塾修了記念旅行 —熊野三山巡り—	23	109
08年度 第30回	2月21日	大谷 浩子 Mrアマゾン 川浪 剛	フリーコピーライター 不動産会社社員 僧侶	おいしいってどんな味 —食べる楽しさをつたえよう—	18	117
08年度 第31回	2月28日	塾生・教官・楽塾応援団		修了式	16	122

## 佐々木塾長の授業参観1

### 楽塾の先行授業が始まりました。感謝いたします。

#### 楽塾の開校

7月12日(土)6時30分。最初の授業は大谷浩子氏(広告ライター)・渡辺梅子氏(セラピスト)両教官による「ほめ活かしの言葉」からスタートでした。30分前に両教官が到着。幾つかの打ち合わせをし、スタッフが直前の準備作業を始めているとき、興味を持ってくれた朝日新聞記者の小河さんや、2年以上も前の学校ワークショップに関わり、活動記録をとってくれていたビデオ作家の植田さんらが到着しました。本日参加の塾生さんのうち、Sさんが急に腹痛を起こし欠席ということで、さあ、今日はどれだけ集まるだろうと、少し不安もありました。Tさんは比較的早く到着していましたが、準備が整っていないと見て、どこかに姿を消したりしていましたが、何かの拍子で玄関のドアを開けてみると、なんと事務所前公園に塾生諸君がたくさん集結していたのです。部屋の準備を気にして、全員が待機してくれていたらしいのです。それを見て僕はジーンとなりました。だって僕が呼びかけたほとんどの人たちが参加してくれていたのですから。また、楽塾教官のMさん(ソーシャル・ワーカー)、和久さん(NPO子育て支援)、事務局川井君友人の横手さん(建築家)、大谷さん友人の伊藤さんらが塾生として参加してくれ、事務局4名を含め21名もの満員盛況となりました。

#### 楽塾第1回授業

- テーマ：ほめ活かしの言葉
- 日時：7月12日(土)18:30～20:30(授業終了後給食)
- 講師：大谷浩子氏(コピーライター)、渡辺梅子氏(セラピスト)
- 費用：1000円(給食費含む)



#### 楽塾最初の授業「ほめ活かしの言葉」

授業では、私たちの日常は、お互いにほめあうこともなく、出てくる言葉はネガティブな言葉ばかり。そこで、今夜は参加者同士でほめあうことを始めようということで、自分にとって、ほめられたり気持ちのいい言葉を互いに言い合うことで、どんな心持になるだろうという実験をしてくれました。

まず(1時限パート1)では、ほめ言葉を探すヒント「ほめ探」として、一短所を長所に・否定形を肯定形で・受身形ではなく能動形で一など5つの視点からほめ言葉探しをしました。そのあとは「フーテンの寅」さんをほめてあげよう!と、ダメ男寅さんを大いにほめて、魅力を引き出す言葉を探す試みでした。寅さんのあとは、「『私』でほめ探」として、自分自身をほめる言葉の発見をしました。

10分休憩の後、2時限(パート2)が始まりました。このコマは「実習”すてきな言葉“を行います」と

いうテーマで、いわばワークショップのようなもの。1時限では色々なほめ言葉を探し出しましたが、今度は他者とペアになり、ほめてほしい言葉をいくつかリクエストしあい、互いのほめあう練習をしました。

本当のところ、1時限の半ばまでは双方に緊張感がありました。教官は一塾生諸君に応えられる授業になるだろうか、塾生は「いったいなにをやるねん？」という雰囲気です。しかし大谷・梅ちゃん両教官のかもしれない絶妙なコンビネーションが、徐々に塾生を溶かしていき、2時限目では教室が熱くなっていきました。

塾生それぞれが感想意見を発表します。「ほめ言葉といっても、こんな場所で唐突にほめられてもうそっぽい」という正直な意見が嬉しかったです。それでも「言われたことがない言葉だったので気持ちよかった」「もっと言ってほしい」など「気持ちいい派」がたくさんいて、塾生の満足感が伝わってきました。

2時間の授業が終了した後は給食タイムです。幾つかのグループに分かれ、それぞれのお弁当が開かれました。小河さんがインタビューし、植田さんのビデオが回ります。塾生たちが三々五々に帰宅していき、授業あとの始末が完了したのは10時を回っていました。「また来るよ」という言葉が嬉しかったです。来週を楽しみに、しかし塾生の確保が努力の第一目標です。今後ご協力をお願いいたします。楽塾第2回授業にご参加を。

第1回授業が無事終了し、ちょっと緊張緩和の状態です。しかし塾生諸君の確保は日常的課題ですので、楽塾スタッフとしては塾生の不確定要素や不安感があります。楽塾にかかわる教官・スタッフの方々のご協力をいただき、ご友人、知人など楽塾塾生になっていただける人たちがあればお誘いくださるようお願いいたします。2コマ授業1000円で、給食付です。教官・スタッフの方々も塾生として日常的にご参加していただければより嬉しいです。また7月28日(月)18時から「楽塾会議」を開催します。この詳細は後日お知らせいたします。今後のスケジュール計画の検討会ですのでぜひご参加のほどを。

#### 楽塾第2回授業

- テーマ：ふるさと再訪／てっちゃんの冒険列車
- 日時：7月19日(土)18:30～20:30(授業終了後給食)
- 講師：大阪市立大学 都市研究プラザ 若松 司／大阪市立大学教授 水内俊雄
- 費用：1000円(給食費含む)

## 佐々木塾長の授業参観2

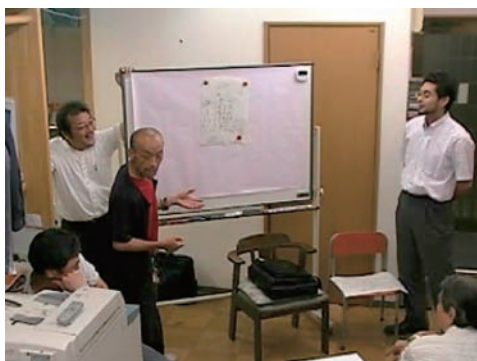
### 楽塾第2回目の授業が終わりました。

#### 楽塾第2回目の授業

7月19日（土）6：00 ごろ水内市大教授と教授のお弟子さん格である若松氏が到着しました。この日の授業のために、先ほどまで打ち合わせをしてくれていたとのこと。かたじけない！この日は、とくにプロジェクターを使用しながらの授業であるため、電源やパソコンの配線調整で大にぎわいでしたが、そんななか塾生たちが徐々に集まり始めました。塾生9名、教官2名、スタッフ4名の15名が参加者で、前回よりちょっと少なめでした。

#### 楽塾第2回授業

- テーマ：ふるさと再訪／てっちゃんの冒険列車
- 日時：7月19日（土）18：30～20：30（授業終了後給食）
- 講師：大阪市立大学博士課程：若松 司氏／大阪市立大学教授：水内俊雄氏



1時限目、若松先生のテーマは、「ふるさと再訪」。先生が小・中学生のころに住んでいた町の印象を思い出し、それを地図にして書きます。たとえば、住んでいたところは京都市伏見区であり、3歳から小学4年生まで暮らした頃の地図を見せます。その後、滋賀県草津市に転居し、新たな転居先の地図が書き加えられ、その頃のエピソードが地図を介して語られます。それは「心の地図」であり「記憶の地図」となります。

そのポイントは①自分の住んでいた家とその周辺 ②学校と通学路 ③その頃のエピソードを思い出し（道草のポイント） ④近くのお店や商店街 ⑤最寄りの鉄道駅—の5項目で、講義後、全員に「心の地図」を描いてもらうことになりました。

鉄道ファンの水内先生は、「てっちゃんの冒険列車」として⑤を引きとり、「鉄道は異界を結ぶもの、線路を介して、その先に何があるのかという未知への憧れと不安、初めて旅をした幼い頃の強烈な印象」などなど、和歌山県出身者として自身の体験を和歌山を中心とした鉄道に重ねて話してくれました。たくさんの映像を使い、懐かしい国鉄蒸気機関車や電車、ディーゼルカー、和歌山市内の路面電車、南海電車などを詳しく解説。「ふるさと再訪」の授業が「てっちゃんの冒険列車」につながっていきました。

2時限目は、ひとり一人が描いた「心の地図」を、それぞれが皆の前で発表する時間でした。9名の塾生と4名のスタッフが5分間の持ち時間を与えられ、プレゼンテーションするわけです。この発表が大変興味深かったのです。塾生ひとり一人が時間内にうまく自身のエピソードをまとめ、当時の社会を解説してくれたこと、それを個別にユーモアを織り込んで喋ってくれたこと、しかも幼い頃の自分自身の思い出が確実に表明されていたこと、それがこの授業の質を厚くし面白くした点であったと思います。終始笑い声で満たされ余韻の残る授業となりました。時間が足りないぐらいで、この続きは次の機会に深めていきたいと感じま

した。若松・水内先生ご苦労様でした。

それから給食がうまかったです。

さて今週の楽塾が近づいてきました。皆様のご参加を強く希望します。

#### 楽塾第3回授業

- テーマ：花のある暮らしはいかが？（少しばかりミステリーな仕掛けが…）
- 日時：7月26日（土）18：30～20：30（授業終了後給食）
- 講師：(株)美交工業専務／福田久美子さんほか美女軍団

## 佐々木塾長の授業参観3

### 楽塾第3回目の授業が終わりました。

#### 楽塾第3回目の授業

楽塾が開校して早や3週目が経過しました。7月26日（土）のテーマは「花のある暮らしはいかが？」でした。当事者への雇用相談では、「くらし応援室」とは緊密なかかわりを頂いている、株式会社美交工業専務福田久美子さんが今回の先生でした。美交工業に勤務している塾生も多く、「勤務とプライベートが同じなのでちょっと…」と遠慮するという人たちもいましたが、塾生6名、スタッフ3名、そして福田先生の10名でスタートしました。6：30 授業が開始されました。

#### 楽塾第3回授業

- テーマ：花のある暮らしはいかが？
- 日 時：7月26日（土）18：30～20：30
- 講 師：(株)美交工業専務 福田久美子氏



いつも通り6時30分に授業は開始されました。福田さんは人生を「花」にたとえ、「長い人生のなかで、誰もが一度は「花」のように開花した時代があったに違いない。人には気づかれず、自分自身もそんな時代があったのかどうか定かではないけれど、今日はちょっとそのことを思い出し、自分の歴史をさかのぼり、さらにその時代に流行した歌を歌ってもらいましょう」ということで、時間制限をした後、全員に記憶をたどるコメントと歌をメモしてもらいました。その上で、今後自分の名前をどう呼んでもらいたいのか、そのニックネームを書いてネームプレートにしました。そして全員のメモが作成された後は、予約をしていた楽塾近辺のカラオケ店へ繰り出し、10人が入るカラオケボックスに案内されました。

まずはお手本ということで、福田先生こと「なっち」がニックネームの由来を説明し、そのニックネームを結婚直前まで親しく使われていたこと、自分も気に入っていたこと、「なっち」の名称が意外なところにあったことなどを話した上で、当時流行っていた山口百恵の「いい日旅立ち」を絶唱してくれました。

この後は塾生が順番にそれぞれの「花」の時代を語り、持ち歌を歌い、ドリンクと食事で盛り上がりました。最後まで歌うのは苦手だという塾生は、聞くことに徹していましたし、また、歌うことに躊躇していた塾生には、福田先生がデュエットで歌おうと塾生の横へ寄り添い、一緒に歌っていたことが印象的でした。90分のカラオケタイムは1人2曲平均で終わりましたが、諸君の中にはデュエット曲を1人2役（男女役）で、声音を変えて歌うという離れ業を披露する塾生もいて全員拍手喝采でした。

21時ごろ宴は果てて、みんなはカラオケ前で解散しました。今回の授業もユニークで、楽塾のテーマ「あそびを学ぶ」という雰囲気を感じた授業でした。福田先生、ご苦労様でした。お疲れでしょうがまたの機会

にお願いできますか。

今週の楽塾の御紹介です。皆様のご参加を待っています。

**楽塾第4回授業**

- テーマ：死んでからのお楽しみ
- 日 時：8月2日(土) 18:30～20:30(授業終了後給食)
- 講 師：NPO法人オイコス施設長 川浪 剛氏

## 佐々木塾長の授業参観4

### 楽塾第4回目の授業が終わりました。

#### 楽塾第4回目の授業

楽塾の授業は2ヶ月目に入りました。今回の講師は、野宿者支援などで相互に連携しあう川浪さんでした。僧籍を持つ川浪さんは博識家で、宗教（あるいは心の問題）を、どんな風に料理してくれるのかが楽しみでした。「この授業を楽しみにしている」という塾生も幾人かいましたし、盛り上がる兆しを感じた授業ではありました。塾生8名、スタッフ3名、そして川浪先生の12名で授業は始まりました。

#### 楽塾第4回授業

- テーマ：死んでからの楽しみ——なまぐさ坊主の独り言
- 日時：8月2日(土) 18:30～20:30
- 講師：僧侶/NPOオイコス施設長 川浪 剛氏



#### 授業参観

授業時間前にはほとんどの塾生が集合していて、6時30分には予定通り授業が開始されました。今回の授業は8月16日のカリキュラム「合同慰霊祭」と連動していて、塾生それぞれが、亡くした肉親、兄弟姉妹、友人知人、ペットに至る大切な人・動物を慰める機会にした授業なのです。法衣を着た川浪住職の登場が圧巻でした。

1コマ目。「1 宗教ってナンだろう？—①どんな宗教を知っていますか？お寺や神社、教祖さんの名前でもかまいません。」という設問から、知っている宗教の宗派（キリスト教や天理教、浄土宗・イスラーム教など）がたくさんあがり、キリスト・親鸞・中山みき・マホメットなど宗祖の話題に盛り上がりました。

「2 あなたにとって宗教ってナンだろう？—②あなたにとって大切なもの」という設問から金・自分・愛・今など意見が出ましたが、I君は「宗教は嫌いだ」といい、過去新興宗教に折伏され、家族が無茶苦茶になったこと、結婚相手が同じ宗教をやっていることなど悩みを話してくれました。この設問のなかで、川浪先生は世界3大宗教を手短に、しかし興味深く解説してくれ、塾生たちは感心していました。

また「3 慰霊(鎮魂)ってなに？—③あなたの怖いものはナンですか？」では、従来語られる「地震・雷・火事・親父(最近ではおかん)」に加え、各自の怖いものを挙げてもらい、高所恐怖・閉所恐怖・人間という意見も飛び出しました。「③どうしてそれが怖いと思いますか？」という設問から川浪先生は、中国の龍樹(ナーガ・ルジュナ)が示した人間の5つの恐れ「不活畏・大衆威徳畏・悪名畏・死畏・墮悪道畏」を引き合いに、普段は聞くことがない説法を独特の表現で語られ、塾生は感心して聞いていました。



「4 お盆ってなーに？—④どんな儀式・年中行事・お祭りを知っていますか。」では神社の七夜や七五三、キリスト教のクリスマスやバレンタインを引き合いに、楽しい行事を紹介しました。その反面、仏教では初七日や葬式、法事など暗い行事しか思い浮かばないという話が笑いを誘っていました。また慰霊や鎮魂についての法話があり、2コマ目につながりを持たせました。

2コマ目は実習作業です。16日の慰霊祭に向け、慰霊したい人や動物たちの名前を筆で書く奉書を作ります。意外に早く完成したので般若経の写経をしたり、文字の練習でたいへん盛り上がりました。それにしても塾生諸君は勉強熱心で、黙々と作業をこなし、何人かは川浪先生に質問などして、かなり充実した時間となりました。給食のあと、最後まで名残惜しそうにしていたのが印象的な風景でした。

今週の楽塾の御紹介です。皆様のご参加を待っています。

#### 楽塾第5回授業

- テーマ：おいしさを一人じめ——安い惣菜でうまい料理を
- 日時：8月9日（土）18：30～21：00
- 講師：調理師 みゆきちゃん

## 楽塾第5回目の授業が終わりました+大柳生の草刈作業

### 楽塾第5回目の授業

今週のテーマは「食事」でした。いかに安い食材を仕入れ、調理して、豊かな栄養とおいしいご飯をいただけるか考える授業でした。教室は、近隣の「人文センター」調理実習室を借り、広々とした教室で豊富な調理道具を使い、にぎやかな授業になりました。わがスタッフ井上さんの友人で調理師でもあるみゆきちゃんをメイン講師に、同じく調理師のふみちゃんと井上さんがアシストとして参加してくれました。塾生5名、スタッフ3名、全員11名で授業は始まりました。

#### 楽塾第5回授業

- テーマ：おいしさを一人じめ——安い食材でうまい料理を
- 日時：8月9日（土）18：30～21：00
- 講師：調理師 みゆきちゃん アシスト：ふみこちゃん・井上比登美

### 授業参観

6時30分には全員が集合。本日の授業テーマを簡単に説明した後、調理師さんたちが待つ「人文センター」に向かいました。今回は、あらかじめ食材を調理師さんたちに任せていたため、調理が中心になりました。食材を考える授業で調理師さん任せにし、塾生が仕入れしなかったことは今回の課題になると考えます。やはりひとり一人が食材に触れ、食材の値段を体感するということが重要だと思うのです。このことを今後の「食」授業に活かしたいと思います。さまざまな準備で、楽塾事務局長以下スタッフたちも大忙しでしたが、そんな作業を塾生諸君に振る、ということも必要だと後から思いました。塾生をお客様扱いではなく、協働作業者とすることが楽塾の基本姿勢だったからです。

本日のレシピをみゆきちゃんから説明があり、全員頭にバンダナ、胸にはエプロンという“臨戦態勢”で臨みます。「調理経験がない人」という質問に、1人の塾生が手を挙げました。「米だけは自分で炊き、スーパーで惣菜を買う」という塾生もいました。塾生を3班にわけて（1班3名）いよいよスタートです（下写真）。さて本日のメインディッシュは「肉じゃが」。それに「小松菜とにんじんの煮物」（実はほうれん草だったのですがこれが高い！！急遽安い小松菜に変更）。3つ目は「カンタンきゅうりのお漬物」、そして「お味噌汁」という豪華な食卓です。

「まずは、本日のメニューで使う食材を下ごしらえしてしまいます」というみゆきちゃんの言葉で全員ジャガイモを切り、ニンジンをいちよう切り（わたしは乱切りにしましたが）、きゅうりを調理、味噌汁に入れるお豆腐を切ったり、小松菜の根を切ったりとスピードが上がります。食材を整えた後は、ニンジンや小松菜を湯がいてお浸しにしたり、きゅうりと塩昆布のあわせを袋に入れ浅漬けにしたり、お味噌汁を作って豆腐を入れ、最後は牛肉やジャガイモ、ニンジンなどを炒めてメインディッシュの出来上がりとなりました。ご飯も炊き上がって、全員食卓に突入です！（なにせもう空腹感の絶頂でしたので）。みゆきちゃんがスペシャルメニューとして作ってくれた冬瓜（とうがん）の片栗和えは美味でした。

盛りだくさんを、全員がお腹いっぱいになるまで堪能したのですが、それでも料理は余りました。それでそれらをふねに入れ、みんなで持ち帰りましたので残飯は残らず、食器を洗浄して解散となりました。約2時間の作業でしたが、実習室の借入れ時間が限られていることもあり、後半は片づけで大慌てになってしまいました。自分たちの実習室がほしいなあ。しかし、お腹も心も大満足の一夜になったことは塾生の顔が語っていて安心しました。ちなみに今夜の食材価格は（すべて含んで）一人400円という手軽さ。ごちそう様でした（合掌）。講師のみなさまご苦労様でした。



## 大柳生の草刈作業

「食」の授業の翌日は大柳生へ行きました。我々が植えたサツマイモや米の畑の雑草が大繁茂していると、大柳生の南垣内さんから連絡があり、早朝のうちから奈良に向かいましたが、JR奈良駅での待ち合わせは8時になってしまいました。事務局長の田岡君がマイカーを運転してくれ、8時30分には畑に到着しました。塾生2名+我々2人の4名が草刈隊です。用意した鎌や掘削器、清掃用具などを田畑に運び込み、長靴を履きサツマイモの畑に入ります。

5畝あるサツマイモ畑は雑草がいっぱいで、それらを根から引っ張り出す作業を始めました（写真左）。雨がないので土が乾燥しており、根は比較的簡単に抜くことが出来ます。それにしても暑い！サツマイモ畑の終了後は、畑周辺の雑草を刈ることになりました。どんどん刈り取った雑草が増えてきます。終了後山かげで休んでいると、気持ちよい涼しさが実感できました。しばらくすると、別の畑で農作業をしていた南垣内さんが、冷えた小玉スイカをたくさん持って帰ってきました。甘くてもう最高！

この後、南垣内さんのおばあさんが刈り取っていた雑草に火をつけ、野焼きを楽しみました（写真右）。お昼には南垣内さんの奥さんの手料理が待っていて（これがまた豪勢）、昨夜に引き続き贅沢な昼食をいただきました。この料理の食材は、南垣内さんが三重で釣りをしてきたたこやサザエで、大満腹のひと時を過ごすことが出来ました。この食卓で、大阪からそばの実を栽培しに来ている楠木さんという方を紹介されました。もう大柳生には7年間くらい通っているそうで、なんと谷町で「夢屋」という蕎麦屋さんを経営しているとのこと。塾生のT君はよく知っていると言っていました。帰阪後「りぷら」の森田さんに聞くと、「近所なので時折食べに行く」とのこと。南垣内さんの素晴らしい人柄を核として、また新しい大柳生のかかわりが始まりました。

比較的明るいうちに帰阪できたので、田岡事務局長と塾長は、今週土曜の「合同慰霊祭」についての打合わせや、看板作りを始めました。それにしても大柳生に行くと気持ちのよい脱力感があり、また行きたくなくなってしまう魅力があります。9月はバーベキューパーティーがいいなあと言って帰ってきました。

さて作物の収穫は10月中旬に決めてきました。皆さん楽塾挙げて「収穫祭」ツアーをしませんか。南垣内さん、今回も豊かな時間をありがとう。



今週の楽塾のご紹介です。皆さん自由にご参列を！

#### 楽塾第6回授業

●テーマ：合同慰霊祭

●日時：8月16日(土) 第1回 15:30～16:30  
第2回 18:30～19:30

●講師：僧侶＝前山村雄・川浪 剛 献花：佐々木敏明

●場所：鶴見橋商店街4番街中央公園(くらし応援室・楽塾前)

## 楽塾第6回目の授業が終わりました

### 楽塾第6回目の授業

お盆があけて夜分が涼しくなり、少しばかり熟睡できるようになりました。みなさまお元気ですか。残暑のお見舞いを申しあげます。8月16日(土)に第6回授業「合同慰霊祭」が行われました。今回の授業は、塾生諸君及び地域でお盆も出来なかった人たちの共通場所としての合同慰霊祭を開催し、鎮魂・供養することになりました。この授業の2週間前、好評だった川浪講座「死んでからのお楽しみ」では、合同慰霊祭につながる授業内容があり、その時の塾生諸君は全員参加してくれました。T君は友人まで連れてきてくれました。全体にはこじんまりとした慰霊会ではあったですが、この場が必要とし参加した人が、満足して帰ってくれたのがよかったです。

### 特別の感謝

暑い中、読経と雑事で多忙だった前山・川浪両僧正には心からお礼を申しあげます。素晴らしく、ありがたい読経で満足しました。また、この慰霊祭に賛同し、すてきな祭壇や祭礼用具などを無償でご提供のうえ、人員の補助までいただいた三基株式会社様にはお礼の言葉がありません。ありがとうございました。日本料理店「葵」の日野社長からは、法事として立派な幕の内弁当をたくさんご寄付いただきました。お礼申しあげます。催事直前、しかもお盆前という時期に献花の注文を依頼してしまい、数少ない在庫の中から美しい花を格安で提供していただいた、商店街4番街「花岩」さんに感謝いたします。

慰霊祭を楽しみにしてくれていた塾生諸君ありがとう！みんなの真剣な表情での供養が印象的でした。そして、お盆とはいえ限られた人員で長時間、準備・運営に汗をかいてくれたスタッフの田岡・川井両君には心から感謝します。たくさん仕事を掛け持ちする貴君たちがいなければ、この催事は難しかったでしょう。ありがとう！

#### 楽塾第6回授業

- テーマ：合同慰霊祭
- 日時：8月16日(土) 第1回 15:30～16:30  
第2回 18:30～19:30
- 講師：僧侶＝前山村雄・川浪 剛 献花：佐々木敏明
- 場所：鶴見橋商店街4番街中央公園(くらし応援室・楽塾前)

### 授業参観

正午過ぎにはスタッフ及び住職の2人が到着。13時ごろには三基株式会社の職員さんたちが到着し、祭壇や受付机・祭礼用の大テントなどを設営しはじめ、また「花岩」さんが注文の献花を届けてくれました。私たちは、準備作業を整えながら、中央公園前にいすや机などを運搬したり、案内表示などの作成・設営もしました。そうそう、「死んでからのお楽しみ」で記帳してもらった慰霊者名の奉書を、ホワイトボードいっばいにマグネットで添付し、祭壇近くへ設置しました。

14時頃には塾生がきて、自主的に授業料(カンパ)を入れてくれます。今日の催事を支部に事前に伝えていたので、えのめ君が「ぼかぼか共済」の宣伝のためやってきて、あちこちオレンジのノボリを立て、通る人に共済への入会説明をしていました。

15時30分。いよいよ第1回目の慰霊祭の開始です。塾長が簡単な開会の式辞を読み、住職たちの読経が始まりました。その後献花や焼香が続きましたが、この時間帯の参列者は少なかったようでした。塾生2名、

あとは商店街を通行する人たちが、散発的に参りをしてくれていました。多くの人たちが興味深く催事を遠くから眺めていましたが、スタッフたちが誘導すると去っていく、という風景が見られました。最初のこともあり、一体何の慰霊祭なのかわからない、という風情なのでしょう。なにせ我々の告知も周辺地域配布 200 枚くらいで、無に等しいものでしたから。16 時ごろから塾生たちが集まり始め、自主的にカンパ缶にお金を入れてくれます。

仕事が終わって来てくれた塾生君もいました。T 君が連れてきた運転手の T 君は塾生ではないのですが、T 君同様 8 年来のつきあいで半年ぶりの再会でした。第 2 回目の慰霊祭は 18 時 30 分から開始され、塾生諸君だけではなく周辺の住民や通行人も足を止め、祭壇で合掌する人が増えてきました。中にはペットへの哀悼にと、猫の栄養食を祭壇に置いていく人もありました。やはり夕刻からの催事の方が参列しやすいのでしょうか。結局は 30 人以上の献花・焼香がありました。商店街からの参列は皆無でしたので、恒例とするならこれからの課題となりそうです。

19 時 30 分に慰霊祭が終了し、ご寄付の幕の内を食べ、あるいはかたづけの準備をしながら夕闇は深くなっていきます。三基株式会社の職員さんたちも暗闇のなかで大忙しの撤去になりました。スタッフ・住職を送り、くらし応援室の整頓を終えたのは 21 時になっていました。充実した疲労感を得たことを感謝した 1 日でした。



今週の楽塾のご紹介です。アマゾンさんの久しぶりの名ファシリ楽しみです。参加しなければソンしますよ！

#### 楽塾第 7 回授業

- テーマ：生活保護ってなんだろう
- 日時：8月23日(土) 18:30~21:00
- 講師：ファシリテーター=アマゾン先生  
パネラー=塾生2名

## 楽塾第7回目の授業が終わりました

### 楽塾第7回目の授業

朝夕がしのぎやすくなってきました。季節の変わり目でもありご自愛ください。

今週前半は、水内先生や研究生たちと続けているS市調査をしてきました。この調査では、地域住民に関わる個人の意思と包容力を見せてもらい、自分のフィールドに近いだけ、反省もありました。もう少しばかり続けてみるつもりです。そのうちS市レポートも書いてみたいなあ。

さて「塾長の授業参観レポート」遅くなりました。第7回目は生活保護をテーマにアマゾン先生のファシリテーター、塾生である生保受給者2人をパネラーに登壇してもらい、ともすれば陰々滅々となりやすい問題を、明るく楽しい授業として行うことが出来ました。何よりも、塾生パネラーがたくさんの発言をしてくれたことを嬉しく思いました。

#### 楽塾第7回授業

- テーマ：生活保護ってなんだろう？
- 日時：8月23日（土） 18：30～21：00
- ファシリテーター：Mrアマゾン
- パネラー：K君・N君（以上塾生）

### 第7回授業参観

生活保護の語感がネガティブイメージになりやすく、普段は自分たちに関係が薄いと思われる話題でもあるので、楽塾の課題としても生活保護をどのように考えるか開校以前からテーマにしていました。今回アマゾン先生のユニークなファシリ役で、エンターテイメントな進行が抜群でした。パネラーとして発言してくれた2人の塾生たちも、積極的な発言で教室の熱気を作ってくれました。幾つかの論点も現れ、私たちにとって大きな学びになったと考えています。第7回目の塾生は6名、スタッフ3名、講師1名の10名でした。

アマゾン先生の（いつもながらの）丁寧なレジュメの最初は、「生活保護」のおさらいでした。日本の、これまで低かった保護率が上昇していることを資料グラフで解説。

また収入から最低生活経費を引き赤字なら生保受給の基本になるというおさらいをしました。私たち自身も生保の可能性ありということです。それでは最低生活費とは何だろう、ということで、行政区や年齢、単身か家族持ちか、障害や母子家庭など、さまざまな要件で変動することなど添付資料を読みながら解りやすい解説でした。この間、パネラーへの質問や生保への感想などをファシリテーターが質疑しました。以下参照。



#### ●生保の受給時に心配事はあったか

N：自分の年齢が若いので受給できるかどうか心配していた。

K：受給申請するまではあまり関心がなかった。それに周辺の話では生保については自分では取れないというマイナスの話が多かった。佐々木さんが付いてくれたので直ぐにとれてうまく行きびっくりした。大体自分で申請しても何回も通わないととれない。

**会場塾生：**小さいときから自分の家を持たなかった。飯場で生活しても自分の金が貯まらず、その日暮してアパートさえ持てなかった。その後野宿生活になり、あの頃の生活を考えてみたら有難く、生保はかなり便利な制度だ。

●**受給している苦勞について**

**K：**現在不安なのは、収入が上がると生保を切られてしまうということである。また現在の仕事で正職になっても、健康保険や年金を払わなければならない、逆に生保以下の生活を強いられる結果になるのが心配だ（Kは現在半就労半保護で暮らす。収入があれば支援課で収入認定を行い、基準値をオーバーすれば収入分を没収される）。

●**生活保護を受けることは恥ずかしいことか。**

**N：**自分にとっては（医療機関に通院する必要があり）必然性があるように強く思わない。

**会場塾生：**恥ずかしいという感情は、生活保護を受けていない人たちに感じる感情ではないか。いうならこの国に生まれたことが恥ずかしいことだ。やせ我慢しなくともいい。

—それではやせ我慢している人へのアドバイスは？—

やせ我慢する人はそれでよいし、必要なときに受給すればよいと思う。

会場を巻き込んでのトークショーの趣になった。時間が来て前半を終了。後半は生活保護をポジティブに考えていこうというワークショップになりました。

●**今の生活の中で、夢は何ですか？**

**N：**現状維持で、夢より現実を優先したい。強いて言えば仕事をよく出来るように考えている。

**K：**自立すること。自分でアパートなど借りて住んだことがなく、（生保によって）自分の生活を保てたこと。

**会場スタッフ：**親づらしたい。子どもに関心がある。

**会場塾生：**自分で食べるものを自分で作ること。夢を言いふらしそれがかかわりのある人を増やしていく。

●**限られたお金で生活する上での工夫やアイデアを聞かせてください。**

**N：**食べるものはケチらずに食べることを楽しむ。後はお金を使わないようにする。

**K：**食べることを切り詰める。その分お馬さんの餌代に使っている。ギャンブルは楽しみ。自由気ままに行きたい。

**N：**最低の生活費（住居費や高熱代など）・支払い分は置いておく。

**K：**僕も同じです。

●**楽しく生きるためにはこれだ！と思うことを教えてください。**

**N：**なにを見ても楽しいと思うこと。

**K：**3食まじめに食べて健康でいると。

**会場塾生 1：**幸せの基本は健康。

**会場塾生 2：**大人としてマイペースを維持すること。

**会場塾生 3：**人を恨まず前向きに。今日はそれぞれの人たちの意見に共感した。

**塾長：**ほどほどわがままで生きること。

**スタッフ 1：**気心知れた人たちと酒を飲んだり遊ぶこと。そのなかに気に入らないやつがいるといびること。

**会場塾生 4：**いい加減な生き方。人との距離をとること。

**スタッフ 2：**カルマ（業）落とし。いいことをしていい結果を得ること。

**会場塾生 5：**安楽死を想像すること。

●**安楽死や安心した生活を維持するためにどんな努力をしますか？**

**会場塾生 2：**毎月家賃を支払い、必要な生活を立て直す。



●こんなに皆さんが努力しているのに、なぜ世間は生活保護者を悪く思うのでしょうか。

会場塾生2：高齢者を中心に考えているところがある。また（申請時）役所が家族や親せきに知らせることに対し、知られたくない知らせたくない嫌がる人もいる。そんなプライドをもってしまいがち。

アマゾン先生は「楽しむために生活保護を活用したいと思います。それから“食”“農”など自分で自給自足していく言葉が印象的で、今回のキーワードになりました」という言葉で授業を締めくくりました。実際私たちの楽塾は、遠くの目標として自分たちの独立を考えていて、そのひとつが大柳生の農作業なんですね。誰の価値観でもなく、自分が自立する上で大切な価値観を作ろうというのが楽塾です。

さて1週お休みを置き、9月の第1弾は塾長自らしゃしゃり出での授業となりました。本来なら8月30日の予定を延期したものです。是非遊びに来てください。

#### 楽塾第8回授業

- テーマ：音楽で履歴書づくり
- 日時：9月6日（土） 18：30～21：00
- 講師：佐々木敏明

## 楽塾第8回目の授業が終わりました

### 楽塾第8回目の授業

9月第1週の授業の栄誉を塾長が担当し、楽しい時間を創ることが出来ました。塾生諸君がだんだん慣れ親しんでくれているようで嬉しいです。また、応援団の友人知人たちも塾生として参加してくれて、賑わいが出て来ました。塾長自らの授業でもあるので、今週のタイトルは「番外編『塾長の授業』』とすることにしましょう。

今回の授業は、個人史をテーマとするためにレコードを道具に使いました。そして臨場感アップにプロジェクターを使い、さまざまな歴史的画像をネットから検索し、パワーポイントに収めたことです。この作業ではスタッフの田岡、川井両君に貴重なアドバイスをいただき感謝します。授業では、井上さんのパフォーマンスに塾生諸君が緩んでいたのが印象的でした。塾生9人、スタッフ3人（佐々木含む）の12名で授業はスタートしました。

#### 楽塾第8回授業

- テーマ：h i d a r i m a k i の音楽で履歴書づくり  
サブテーマ：—あの時君は若かった。10才の君へ—
- 日 時：9月6日（土） 18：30～21：30
- 講 師：h i d a r i m a k i

### 第8回授業担当の経過

音響設備やセッティング、音の調整にぎりぎり準備がかかって、大忙しのスタートになりました。その上、プロジェクターで映像を見せるため、パソコン接続でもスタッフに汗をかいてもらうことになりました。

今夜のテーマは、この世に誕生して10年目の自分（つまり小学生4年生になった少年・少女の見た社会・世相・家庭・学校・友人など）の記憶をたどり、その記憶を話してもらうことと、その背景となる印象的な音楽がどんな曲だったのか、自分の記憶の音楽を聞いてもらおうという趣向でした（参考資料添付）。

h i d a r i m a k i 所蔵の200～300枚のドーナツ盤レコードを室内に展示し、10才時に遭遇した音源を探し出してもらい、各自その個人史を音楽とともに語り合ってもらったわけです。その際、各時代の映像をプロジェクターで流し、一層の臨場感を味わえたわけです。今回、当事者塾生諸君（7名）の年齢を想定し、最長老は1944年生まれ（塾長も同様！）で10年後は1954年、一番若い塾生は1975年生まれなので1985年という風に、映像及びレコードを選択しながら時代を考証して望みました。（従って、歴史は1954年から1985年まで7つの年をピンポイントで紹介することになります。つまり連続した歴史解説ではありません）。



ところが予想外に1981年生れの塾生が2人(リノちゃん・横手君)も参加してくれて嬉しい誤算になりました。なにせこの年代ですと10年後は1991年で、僕らにとっては「ほんのこの前やん」ということになり、私はこの瞬間三葉虫に成り果てたのであります。だから1985年のあと1991年の資料をつくる事ができなかったのです。当事者を中心に構成したための企画だったので、今後は考えてやりたいと思っています。

前半の1時間は1944年生れの10年後(つまり私です)を、私の幼少を中心に、当時の歴史・社会・プライベートなどを紹介しました。街頭テレビの話題、東宝・東映映画の「ゴジラ」「新諸国物語笛吹童子」などや、ビキニ環礁上での第五福竜丸の悲劇などなど、現代史をベースにしなが、私の時代は映画と音楽が「学校」であったことを話しました。レコードもパティ・ページやダイナ・ショアーに始まり、鶴田浩二や美空ひばり、「ゴジラ」や「笛吹童子」のメインテーマまでを聞いてもらいました。

休憩時間は別室に並べられたレコードを見てもらったのですが、塾生諸君は一様に驚嘆の声を上げていました。懐かしい、珍しい、欲しい、友だちを今から呼びたいなどなど、消えゆく道具たちへの愛惜なのかもしれません。自の10才時を記憶の底から呼び起こすように、塾生たちはレコードに眺め入っていました。

後半は、年長者から順番に選択したレコードを紹介しながら歴史を紐解き、当時の映像にたすけてもらい進行了ました。とくに傑作だったのは、松浦さん(1944年生まれ)が10才時、家の立替のさなかに牛泥棒が牛を盗んで行った話でした。当時、彼の家は牛を数等飼っていて、それで生計を立てていたのでしょう。しかも建替えしていたのだから裕福な家に育っていたんですね、きっと。まっ昼間、家人の隙を伺いながら、泥棒が牛を盗んでいったという話はみんな大笑いすることが出来ました。牧歌的というかお間抜けというか。

高瀬君は、通学途中お寺の壁に落書きをして先生に怒られ、消しに行った事を愉快に話してくれましたし、長戸君はお父さんが病気になり入院したこと、岸本君も、昨年くも膜で手術を受けたことを話しながら、実はお父さんも10才の年、自分と同じ病気で亡くなっていたことを話してくれました。

DJをやりながらスタッフたちの10才に触れ、レコード演奏の数も大幅に上回り、定刻の時間を30分延長して楽塾は終わりました。塾生とのやり取りが抜群に刺激的で、どちらがDJなのか判らない賑やかさで締めくくった3時間ではありました。

## 今週の授業予定

今週は、7月の授業で好評だった「死んでからのお楽しみ」のバージョン2です。「インチキ宗教」や「貧困のどこが悪いねん！」などで大暴れのひねくれ坊主が、新たな構想と罵倒で、ますます心地よい癒らしタイムをプレゼントしてくれます。聞かなきゃソンソンであります。乞うサタデナイト!

### 楽塾第9回授業予定

- テーマ：死んでからのお楽しみパート2
- サブテーマ：極楽浄土の旅
- 日時：9月13日(土) 18:30~21:00
- 講師：川浪 剛(僧侶)

## 9.6/ 楽塾第8回授業レジュメ

## hidarimaki の「音楽で履歴書づくり-あの時君は若かった」

佐々木敏明

## ○授業その1

履歴書とは、会社や商店に就職する際、あるいは会社間や個人の商取引の時、経歴を参考にするものとして使われるものですが、今夜の授業の「履歴書」は、自分のある時代の記憶を確認しようというところみで考えたものです。

たとえば、諸君がこの世に生まれて10年目(つまり10歳)、それは小学校4年生くらいかな。一寸もの心がついた頃、その頃の社会とはどんな時代だったのか、何が起きていたのか。自分が通学する学校や友だち、教師は優しくなかったか。両親や兄弟姉妹は健在だったか。その背景にどんな曲が流れていたのか。そんな記憶をたどりながら、その頃親しんだ音楽の思い出も語りたいと思うのです。

まずは hidarimaki が今夜の授業見本を披露します。hidarimaki は昭和19年生まれです。僕の10歳の頃、その時代はどんな時代であったのか。両親は？学校は？友達は？風雲急を告げる昭和29年の輝かしい少年時代のお楽しみ。

それでははじまりはじまり～。

## ○授業その2

お渡ししている用紙の内容を参考に、あなたの10歳の頃を思い出して記述してください。話したくないことなどを無理に書く必要はありませんが、「衝撃の告白!」は大歓迎です。ユニークな履歴書を作成してください。

音楽に関しては1950年代から1980年代までのアナログレコード(主としてドーナツ盤)を展示していますので、その中から1~2曲を選びその曲目のタイトルを書いていただきます。自分の求める曲がない場合でも、その曲目のタイトルがわかるなら書いておいてください。休憩時間を利用して履歴書を作成し、展示レコードを参考に当時の音楽を思い出してください。



## 楽塾第9回目の授業が終わりました

### 楽塾第9回目の授業

8月に好評だった川浪和尚——心の回復テーマ「死んでからのお楽しみ」——の続編が第9回目の授業で、サブタイトルは〈極楽浄土の旅〉です。私たちはこれまでいろいろな旅を経験してきました。修学旅行・家族旅行・海外旅行・慰安旅行・新婚旅行・研修旅行・物見遊山旅行・自転車旅行・徒歩旅行・無銭旅行など、短い旅から長旅まで、また人生そのものが旅の途上にあるとはいえ、まだ見ぬ非日常・まだ見ぬ光景、まだ見ぬ人々への興味が人を旅に駆り立てるエネルギーになるのだと思います。

「死んでからのお楽しみパート2」では、さまざまな宗教上の巡礼や、わが国の古代から踏襲される行脚など宗教儀礼から旅を紐解きながら、最後は極楽浄土を目指し安楽の旅を探してみようと考えた授業です（南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏）。←資料添付

#### 楽塾第9回授業

- テーマ：死んでからのお楽しみ パート2
- サブテーマ：極楽浄土の旅
- 日時：9月13日（土）18：30～21：30
- 講師：川浪 剛
- 参加者：塾生10名、スタッフ2名、講師1名（総数13名）。



### 第9回授業参観

前半の1時間は、日本の修学旅行や臨海・林間学校のはじまりから、キリスト教・イスラム教の巡礼（ただ目的地を目指す直線型）に対し、東洋の巡礼（目的地に向かうまで、いろいろ複数の場所を巡る回遊型）に至るまでを、メッカ、善光寺、金刀比羅神社、四国八十八ヶ所など旅にかかわるゆかりの聖地を映像を追って解説しました。また伊勢神宮への旅と、一九作「東海道中膝栗毛」のおかげ参りの関係や、特定の社寺に所属し、その社寺の案内・旅や宿泊などを請け負う、今でいう旅のコンダクター「御師（おし）」の存在があったこと、あるいは平安時代、阿弥陀信仰の勃興とともに浄土教が盛んになり、民衆のあいだで熊野詣でが流行したことなど、それには念仏聖や比丘尼のように、熊野信仰を広める者たちの存在が大きかったことなど、興味深い話題が語られました。

この後、浄土とは何処にあるのかということで、観音様は南方海上の補陀洛浄土にあり、薬師如来は東方浄瑠璃浄土に、阿弥陀如来は西方極楽浄土に住み給う。またヒンドゥー教、仏教、ボン教などの聖地はカン・リンボチェ（カイラス山）にあり、チョモランマ（エヴェレスト山）はその最高峰であると説明されました。この後、世界地図として中世ヨーロッパでつくられたマップ・ムンディーやヘレ・フォード図の説明を経て、

仏教の世界をシンボリックに表した曼荼羅の解説に入ります。仏を雄大な宇宙におきかえ、極彩色を使って製作された砂絵曼荼羅の見本を見ながら、川浪和尚が作ったちょっとしょぼい（ごめんね和尚）砂絵なども拝見し前半を終了しました。

後半は砂絵の実習でした。6～7色の色砂を利用して、簡単な曼荼羅を作ろうというものです。あらかじめ線描でデザインされた曼荼羅図のパーツをクッターナイフで切りながら、そのパーツをはがすとその部分は糊がついていて、そこに色砂をパラパラと降りかけていくのです。デザインされたパーツを次々切り取り、糊面に砂をふる作業を続けて完成させます。最初のパーツでは1色の美しさが際立つのですが、パーツが増えていくごとに他の色が微妙に混合していくため、全体に色調が中間色に近くなったり、純色を保てなくなる傾向になります。それを避けながら極彩色の曼荼羅を完成へと導く作業に専念しました。なお、砂絵曼荼羅に興味のない人は、カラーペンシルで曼荼羅の塗り絵をしてもらいました。完成までの個人的時間差はありましたが、1時間そこで全員が作業を終わりました。この後食事をしながら、楽塾修了記念に極楽浄土の旅をしようと提案し、ほとんどの塾生が賛成してくれました。これから楽塾は、ツアーコンダクターもしなければならなくなったというわけです。

全作品を並べるとなかなか美しく、これにタイトル「楽塾まんだら」と描き、作品を台紙につけて、くらし応援室の玄関横窓ガラスにはることにしました。折しも商店街は各大学美術部生たちによる「アート・ジャック展」を開催中。数点のキャンバスに描かれた油彩画が、わが事務所にも飾られているのです。そこでタイトル横に「アート・ジャック特別参加！」という文字を入れて曼荼羅をアピールしました。

全紙大の中に、12名の塾生・参加者全員の作品が光って見えました。まさに曼荼羅の宇宙が楽塾に降臨した瞬間でありました（ありがたや、ナムアミダブツ）。

さあ！今週行われる授業の紹介です。今回は映画を見ようということで、塾長とは昔映画祭をいっしょに主催して来た経緯のある富岡さんです。とくに映画ファンの方々！大挙して押しかけてくださいね。

#### 楽塾第10回授業

- テーマ：まぼろしの光を追い求めて
- サブテーマ：イラン映画ってこんなに素晴らしい
- 日時：9月20日（土）18：30～21：00
- 講師：富岡和代+佐々木敏明

## 楽塾第 10 回目の授業が終わりました

### 楽塾第 10 回目の授業

時まさにセリーグ優勝争いの天王山。わがまちも阪神・巨人の戦闘中とあって、吹けば飛ぶ笹舟のごとき毎週土曜の楽塾は、お呼びすらもかからぬものと心していたのですが、案に相違し塾生は集ってくれました。おそらく心中はTVを見たかった諸君も多かったのではと推察しています。塾生の皆さん参加をありがとうございました。

というわけで第 10 回目の楽塾は、富岡和代さんを迎え「幻の光を追い求めて」というテーマで、イラン映画の鑑賞を授業にしました。もともと富岡さんに講師依頼した時点でのアイデアは、これまで多くの映画体験の中から代表的な作品をピックアップしてもらい、数々の作品のワンシーンを切り取ってプロジェクターなどで視覚的に見てもらう、というアイデアでした。映画の苦手な人のきっかけ作りになるのではとの気持ちでした。富岡さんは、「それは見る側にとっては面白くないと思う。映画のための時間なのだから、くだらない解説や映画談義をするより、本編一作を十分に鑑賞してもらうほうがずっといい」という意見で、私は大いに納得しました。ただ時間的制約もあるので、楽塾授業 2 時間余の範囲内、約 90 分前後の作品の要望だけをお願いし、イラン映画「運動靴と赤い金魚」を最終的に選択されたのです。

私は、子どもを主人公にした何作かのイラン映画を見ましたが、この作品はまだだったため鑑賞した結果、ほかの作品同様みずみずしく、しかも誰の目にも耐えうる素晴らしい作品だと思い、しかも上映時間が約 90 分のピッタリなこの作品に決定しました。

今回、富岡さん自身、映画とは＝学校であった、という話を 20 分程度語ってもらい、後は作品鑑賞を約 90 分ということで、給食時間を利用してこれらの映画の印象を語り合いました。塾生 6 名、スタッフ 2 名、講師 1 名の 9 名でのスタートでした。

#### 楽塾第 10 回授業

- テーマ：幻の光を追い求めて  
サブテーマ：イラン映画の楽しさ
- 日 時：9月20日（土）18：30～19：30
- 講 師：富岡和代（東天満住宅株式会社専務）
- 参加者：塾生 10 名、スタッフ 2 名、講師 1 名（総数 13 名）。





## 上映作品「運動靴と赤い金魚」のあらすじなど

イランの貧しい家庭の少年アリは、修繕したばかりの妹ザーラの靴を買物途中で失くしてしまいます。親にも言えず、兄の靴一足しかない彼らは、男女の授業時間帯が違うことで兄妹交互に履き替えをして通学します。妹がまずアリの運動靴を履いて登校し、下校途中で待ちあわせ、今度はアリがその靴を履いて登校するというわけです。妹の下校途中、靴が大きいため溝に落としてしまったり、失くした靴を同じ小学校の少女が履いていたこと、その家庭が自分たちの家庭よりも貧しかったこと、アリとお父さんが仕事を探しに行くシーンなどエピソードが語られます。そんなある日、小学生の地域マラソン大会が行われることになりました。3等賞品が運動靴なので、アリは妹のために3等賞獲得を目指して必死に走るのです。そしてこの結末がまたユニークです。

心優しい兄妹の姿を描き、アカデミー外国語映画賞にノミネートされたイラン発の清爽ドラマです。

●製作年度／国：1997年イラン●監督：マジッド・マジディ●上映時間：88分

## 作品の感想を語る

この作品をすでに見ていた塾生が数人いました。それから映画を見ている塾生が多いこともわかりました。映画館に足を運ばなくとも、こんなに地味で、あまり知られていない作品であっても、素晴らしい作品はTVの放映やレンタルDVDなどでカンタンに見られることもあって、従来よりも映画人口が増えた証かも知れません。それにしても給食時間は映画の話題で賑やかになりました。

イランの国柄・内情など伝わりにくく、見慣れたアメリカや西欧映画のかかわりから比べると観る機会も多くないけれど、作品が素晴らしかったという意見、父家長的の社会の中で、子どもたちが親や教師に絶対的な怖れを抱いている文化性などは、戦後すぐの教育で育った塾生にとっては、身近に感じたことと述懐していたこと。そんな中で、ラストにあらわれる金魚は「妹を意味している」とする高瀬君の指摘に納得させられました。日常にある互いのねぎらいを人に語らせるのではなく、動物つまり金魚をメタファーとして表現しているというわけです。この意見に、以前から金魚の出現は何を物語るのか、と考えていた和久さんは、今夜疑問が氷解したと言っていました。私も同じでした。また、外界を知らない小さな池に飼われた金魚の存在そのものが、兄に寄り添った妹の存在と言う解釈もありました。

富岡さんは、「イランという国をよくは知らないけれど、それまでパーレビー国王のヨーロッパナイズされてきた歴史を、ホメイニ革命によってイスラーム文化に回帰した中から、自国のアイデンティティを強く推し進めてきたこと、それらイラン現代史が映画などの表現に大きな制約をもたらしたこと、芸術表現者にとっては限られた選択肢の中で子どもを題材に、自分たちの社会をギリギリなところで訴えているのではないだろうか」と話してくれました。ちなみに、この日、阪神は敗れていました。

今週の土曜日は、若松・水内先生のコラボによる「ふるさと再訪／てっちゃんの冒険列車パート2」が始まります。前回からちょうど2ヶ月目になりました。名物教授もりキが入っています。ノリノリの授業ですので、再度の皆さんの参加をお願いいたします。

### 楽塾第11回授業

- テーマ：ふるさと再訪／てっちゃんの冒険列車パート2  
サブテーマ：浄土の旅から紀伊半島を探検する
- 日時：9月27日（土）18：30～19：30
- 講師：若松 司（市大院生）×水内俊雄（市大教授）

## 楽塾第 11 回目の授業が終わりました

### 今週のできごと

今週土曜日は、またまた阪神・巨人戦のデッドヒートが準備されており、しかも阪神が負ければ同率首位に並ぶとあって、大阪の町はかまびすしいのであります。また麻生新総裁が任命され、そのうえ国交省担当大臣の無知な発言が続出し、解散近しという政治状況も手伝い、虚しいあわただしさだけが際立っています。塾生諸君はどれだけ来てくれるだろう。1人でも来てくれるかしら、しかし講師に申し訳ないなあなど、塾長は後ろ向きなことばかり考えていました。17時前には本日の講師水内先生が、徳島自立支援グループ「まねきNECOの会」の森本初代代表を連れ一番乗りしてくれました。定時までにはほとんど満席に近い状態になり、今夜もひと安心という気持ちになりました。

長い間遁走していたH君を「今池平和寮」織田さんのお世話で入寮させることができ、今週から塾生で来てくれることになりました。H君を知るスタッフや塾生は口々に「Hちゃん久しぶり」「元気か」と声をかけていました。H君入塾おめでとう！ 今度は楽塾の仲間やで、もう逃げたらアカン。

塾生9名、スタッフ3名、講師1名、計13名で楽塾は始まりました。講義終了前に、次回授業「メタボ粉碎！空手で元気」講師の藤原敦子さんが子どもさんを連れて、空手教室のPRに来てくれました。なお、本日水内先生とコラボレーションを予定していた若松先生は、急病のため欠席となりました。若松先生の回復を祈ります。給食後、森本さんからいただいた徳島名産「すだち」を皆と分けあい解散しました。森本さんありがとうございます！

### 楽塾第 11 回授業

- テーマ：ふるさと再訪／てっちゃんの冒険列車
- サブテーマ：浄土までの距離
- 日時：9月27日（土）18：30～21：30
- 講師：水内俊雄（大阪市立大学教授）



## 冒険列車は熊野まで疾走した

今回の水内先生の授業は、地理学をベースに気象・歴史・宗教学分野にまで踏み込んだ地球規模の講義になりました。若松先生休講の分を埋めるべく、当初の予定から先生独自のインプロヴィゼーションで、2時間余りを楽しませてくれました。とくに、大正時代に作成された近畿の古地図を大きく引き伸ばし、コピーして塾生のテキストにしたのがユニークだったと思います。近畿地方個別のトピックスを地図で追いながらの解説で、その話題の場所を必要に応じてマーカーで着色していくのです。

授業は、近代地図の起源からスタートしました。「大正時代に発する日本国の地図作りは、中国・ウィグル・ヴェトナムなど東アジア、東南アジアの国家主義、戦略的道具として測量されて来ました。現在皆さんの手にある地図は、大正中期中に作られた近畿の地図です。今日は衛星に乗って鳥の目で近畿を眺めて見ようという試みです。まずは、この地図の中で一番高い山を探るところから始めてみます」。

こんなテーマで①近畿で一番高い山（大峰山系の八剣山）を探しながら、②日本で最も大きな中央構造線を中心に、近畿の活断層の話題から地震エネルギーの話へ、そして③大峰山系が日本で最も降雨量の多い理由は何なのか（偏西風が低気圧を巻き上げ、高い山脈にぶち当たって年間 5000 mmにも上る降雨量を降らせる。ちなみに大阪は年間平均 1100 mmほど）。また滋賀県関が原では年間 2500 mmの降雪量があるなどの話題に発展し、④のテーマでは、新淀川をさかのぼることで、川の源流がどの位遠くまで伸びているのかを、マーカーで着色しながらみんなで確かめてみました。

休憩をはさみ、琵琶湖が巨大なダムだったという話題から、生活水などの確保のために水争いが生じたこと、川は交通・流通の大きな水路であり、街道筋は交通や流通の手段というより政治を伝えるメッセージとして機能していたことなど興味深い話が尽きなかったのです。そしてこれらの水路を確保しながら信長や秀吉は「安土・桃山・大阪」といった流通経済を中心とした町を興隆させ、都市を形成してきた立役者であるという歴史的検証に入りました。

そして最後に、大阪・住吉から発する熊野街道が太平洋岸沿いに走り、紀伊半島中央部の熊野三山に到る道程を、マーカーでたどる作業をしました。これぞ、わが楽塾の修了記念旅行の予定コースでもあったのです。

今回は、鳥の目で近畿の都市を眺望したスケールの大きな授業になりましたが、2時間では納まらない内容を含んでいるため、これからはもっと細切れにしてこれらの話の詳細を話してもらおうと思いました。だってこれだけで終わるのってもったいないですよ。先生よろしくお願いま〜す。さて今週は、初めてスポーツを授業とします。日ごろ運動不足を悩む諸氏は一度体験してください。

### 楽塾第 12 回授業

- テーマ：メタボ粉碎！空手で元気
- 日時：10月4日（土）19：30～21：30
- 講師：藤原敦子さん（ながはし空手サークル育勇会）
- 場所：大阪市立長橋小学校教室

## 楽塾第 12 回目の授業が終わりました

### 今回のできごと

参観レポート遅くなりました。週初めから出張が入っていてやっと帰ってくることができました。10月第1週の授業は初めてスポーツを取り入れてみました。「メタボ粉碎！」というわけです。毎週火曜日、長橋小学校で子どもたちと空手の練習をしている「ながはし空手サークル育友会」の世話人藤原敦子さんをお願いし、実現したものでした。

「育友会」とは、地域のお祭り「ながさんまつり」の第1回目からスポーツイベントとして出演をしてもらい、今夏のお祭りで4度もお世話になっているグループです。「楽塾」授業の土曜日に練習日を作ってもらい、塾生を道場（長橋小学校の空き教室）に参加させることが出来ました。「もう年やから」「体が動かん」と言っていた塾生たちも当日5名が参加、スタッフ2名を加えて7名が空手に挑みました。

#### 楽塾第 12 回授業

- テーマ：空手
- サブテーマ：メタボをぶっ飛ばせ！
- 日時：10月4日（土）19：30～21：00
- 講師：プロ格闘家及び藤原敦子さん、子ども拳士たち 約 10 名



### 初めての空手

いつもの授業より1時間遅いスタートでした。塾生はいったん楽塾に集まり長橋小学校に合流。子ども拳士たちが出迎えてくれて賑やかな授業の始まりとなりました。普段の練習と違い、高齢のオッチャンたちがたくさん来たものだから珍しかったのかも知れません。プロ空手界で活躍する藤原さんの友人が駆けつけ、練習に参加してくれたことが際立っていました。

まずは柔軟体操から。少年拳士たちの元気なリードは気持ちがよかったです。オッチャンたちはもう最初から疲労困憊の体でした（さてあとが続くのかどうか）。日常生活に運動要素が少ないということが明白なんですね。

この後、突きの練習で汗をかき、蹴りの練習が続きます。少年たちが持つキックバッグにひとり一人が側面蹴りを始めました。右足蹴りが終われば左足に移ります。少年たちの模範蹴りを見せてもらいましたが、さすが蹴り足がストレートにキックバッグに吸い込まれ、バーンバーンと重量感ある音が気持ちよく響きわたりました。ただ塾生I君の蹴り音の重さも相当なもので、少年たちからも「ほお」とため息が聞こえま

した。「空手やってたの?」と聞かれて「いや、経験ないです」と応えていたI君。

最後は柔軟体操で締めくくり、楽塾の練習は終わりました。少年たちのこのあとは通常の練習に戻るのでしょう。1時間で終了したのは、高齢者であり、日ごろ身体を鍛えることが少ないオッチャンたちへの先生の配慮だったと思います。先生や少年たちと記念写真を撮り、お礼を言って道場を後にしました。いつもの楽塾に戻った後はいつもの給食で雑談。腰が痛い、足が痛いとお騒ぎでした。ただ激しい運動後のお腹だけは十分空腹だったので、今回の給食ほど満足した日は無かったです。

## 今週の授業

今週の「楽塾」は大柳生に行き、6月に植えた田んぼの収穫をする予定でしたが、稲穂が青くもうしばらく置いておこうという南垣内さんからのアドバイスで、10月後半もしくは11月初めに変更されました。その代わりということで、急遽名物和尚の講話をお願いすることになりました。和尚さん、突然のピンチヒッターでごめんなさい。「死んでからのお楽しみパート3」ということで、今回は宗教上のタブーに挑戦。アルコールを試飲できる授業になるかも!?

### 楽塾第13回授業

- テーマ：死んでからのお楽しみパート3
- サブテーマ：アルコール依存もなんのその
- 日時：10月11日(土) 18:30～21:00
- 講師：川浪 剛大僧正

## 楽塾第 13 回目の授業が終わりました。

### 今回のできごと

天候が定まらず朝夕の気温差も気になります。雨もようでもあります。皆さん健康に御留意を！

楽塾の授業も今までのところ順調に経過し、早いもので第2クール4ヶ月半、13回目の授業が終了したことになります。今回は川浪僧侶の「死んでからの楽しみパート3」でした。この授業では、宗教各教団の“タブー”をテーマに、僧侶独自の宗教的博識と、プロジェクターを使い引用映像を使って縦横無尽に話してくれました。とくに後半では楽塾がタブー(?)とする或る“モノ”の出現で、塾生間に歓声があがりました。

のちほどの授業参観レポートをお楽しみください。塾生7名、スタッフ3名、講師1名の11名で授業が始まりました。

#### 楽塾第 13 回授業

- テーマ：死んでからの楽しみパート3
- サブテーマ：アルコール依存もなんのその
- 日時：10月11日(土) 18:30～20:30
- 講師：川浪 剛(NPOオイコス事務局長・僧侶)



### タブーとアルコール依存の悩ましい関係

宗教教団には必ず戒律があります。戒律とは「いましめ」とか「タブー」と解されますが、肉食や飲酒を禁止する宗教も多いのです。たとえばヒンズー教は、牛を聖なる生き物として食しないとか、イスラーム教では豚を不浄と見て食しないなど、自らが生活の習慣を守って行こうということが戒律であるといえます。川浪僧侶は、仏教・イスラーム教・ユダヤ教・キリスト教の4大宗教を中心に、それぞれの教義から各教団のタブーを解説してくれました。

●仏教では飲酒は比較的緩やかで、戦国時代などは信長や秀吉らの清酒作りが盛んで、高野山では「般若湯」が作られていたといえます(今も現存するお酒ですが甘くて不味い・川浪説)。神道では儀式に必ずお神酒(みき)を使うので、お酒はOKとか。また仏教は殺生を嫌うので、動物の肉などを一切使わず、精進料理を勧めるわけですね。京都黄檗山万福寺などではゴマ豆腐を出したりします。

\*精進料理：野菜を中心として穀類・豆・海藻類・山菜類を用い、肉・魚介類を加えない食事。

お釈迦さんが死んだのは、豚肉あるいはきのこにあたったということが原因とされていますが、それは、自らが獲ってきたり料理をしたということではなく、寄進されたものを食したので、寄進物を食することは、戒律的には許されるという話でした。ただ親鸞は、殺生もやむを得ず、肉食妻帯を実践して本来

の仏教的タブーを破っていたのです。その頃から、そんなタブーを破る人たちに対し、社会的な差別意識が育っていったというのは興味深かったです。

- イスラム教では豚肉・飲酒・賭けを禁じていますが、市場で販売される商品にも合法を意味する<ハラール>というシールが添付されていて、それを映像上で見せてくれました。<ハラール>の反意語は<ハラム>で、禁止されたことを意味し、<ハーレム>とも同義語であるということでした。それではイスラムの多妻主義ハーレムは本来タブーだったのですかね？
- ユダヤ教の食のタブーでは、豚や馬など反芻しない幾つかの獣や、鯨・たこ・イカ・貝類・鳥類などのうち禁止するものもありますが、比較的緩やかだと思いました。ユダヤ教でもイスラム同様、商品の合法性を訴えるシール<P A R E V E>が貼られているようです。
- キリスト教は、ユダヤ教のタブーを否定し、独自の新しい価値観を作り始めたといえます。キリストの血であるワインは、中世の修道士ドンペリがワインを創造し、現在のブランドとして定着しているのだそうですよ。

ところで、後半はビールの試飲会に早代わりしてしまいました。従来ビールが好きな人たちは、きっとビールの味がよくわかっていて、ビール名を隠してもブランド名を当てる確立が大きいだろう、というのがゲームの趣旨で、5つのビールブランドをそれぞれ5つのコップに注ぎ、順番に当てる方法ですすめられました。川浪僧正は「自分の好きなビールの味を知ること、やたらとたくさんのビールを飲むことを戒める。それがアルコール依存からの脱却を促すのだ」と、意味不明、わかったようなわからない法話で試飲会は進められたのですが、塾生からは「これがなんで『アルコール依存症の脱却』と関係あるん？」と大質問されてしまいました。しかし、そんな趣旨とは関係なく、参加者全員の顔は自然にバラ色に輝きだしました。ビールを飲まない塾生には、5つの缶コーヒーのブランドを当てると言うことで、同様の試飲を行いました。

ビール、コーヒーとも全商品の正解率は無く、最高で3分の2という回答でした。いかに人間の舌がいい加減なものか解ったのですが、ちなみに現在わが塾生に依存症は発見されていません。”教育機関”であり、アルコールをタブーとしてきたわが塾が、早々タブーを犯してしまったことは大問題です。これからは精進に告ぐ精進を重ね戒め（どんな戒めや）を守っていきたくないと覚悟しています。それにしても、川浪僧正が破戒僧だと十二分に理解できた授業でした。

今週は、塾周辺でも少しばかり話題になりつつある授業が始まります。セクシャリティーを考えると、私たちの社会には男女性で定義しえない、異なった性を生きる人たちと出会うことに気がつくはず。自分の性に満足しない、異なった性に興味を持つ、社会通念や価値にこだわらずに生きる、そんな不自由な常識から疾走する人たちに学びます。ファシリはアマゾン先生です。

#### 塾第 14 回授業

- テーマ：おとことおんなの間には
- サブテーマ：ニューハーフ・おなべ・ホモセクシャルからのメッセージ
- 日時：10月18日（土）16：00～18：00
- 講師：ファシリテーター／Mr アマゾン先生  
パネリスト／朝美さん・ジェイ君・Nさん

## 楽塾 14 回目の授業が終わりました。

### 今回のできごと

「おとことおんなの間には」。10月のカリキュラムの1つにこのタイトルを冠し、告知しはじめた頃から、興味を持つ人たちの反応が現れてきました。そして本日その反応に比例して、狭いオフィスはこれまで最多の塾生が集まってくれました。この授業は、楽塾スタッフの井上さんの友人がニューハーフということで、きっと興味深い話を聞けるのではと井上さんを介して実現したものでした。企画をはじめて3ヶ月の間、ニューハーフといわれる朝美さんのお店で3、4度打ち合わせをしました。その最初の日、「性同一障害なんていわないで欲しい。私は障害者ではないし自分を生きているの」と朝美さんはきっぱり言いました。私がこの授業を決心した原点は、この言葉に触発されたと確信しています。

声高な「障害者の権利」「人権を守れ」「社会的包摂を」などなど、とにかく社会への弾劾や啓発に傾かせながらネガティブイメージにしがちな性（だけではない！）を、自ら確信の性として生きる人たちに私は共感したのです。

そのファシリテートを、アマゾン先生が見事に2時間の授業に昇華してくれました。性を越境する人たちの興味ある話を聞かせてもらえたことと同時に、仲間同士相互に信頼を持ち、協力し合いながら自分たちの店の経営をも楽しく切り盛りする様子に、爽やかさを覚えたのは私だけではなかったはずです。男と女を超えた価値の深淵から、私のわずかな発見を報告したいと思います。

塾生 16 人、講師 1 名、ゲストスピーカー 3 名、スタッフ 3 名の総勢 23 名でスタートしました。

#### 楽塾第 14 回授業

- テーマ：おとことおんなの間には
- サブテーマ：性同一障害なんて言わせない！
- 日 時：10月18日（土）16：00～18：30
- 講 師：ファシリテーター：アマゾン先生
- ゲストスピーカー：朝美さん・Jさん・Nさん

### 前半／おとことおんなの間

まずは以下の表をご覧ください。本日の授業はここから始まりました。

生まれた時のからだは…	ころは…	好きになるのは…	いわゆる…
男（Nさん）	男	男	ホモ
女（Jさん）	男	女	おなべ
男（朝美さん）	女	男	おかま (ニューハーフ)

（アマゾン先生プレゼンテーション・シートから）

生まれながらにして性的身体と心が一致していない人たちを、ごく代表的に分類したのが上の表です。つまり、私たちが通常語るストレート（異性愛）ではないのですね。表を参考にすればストレートは以下のとおりになります。

生まれた時のからだは…	ころは…	好きになるのは…	いわゆる…
男	男	女	異性愛 (ストレート)
女	女	男	



今回の授業では、ゲストとして参加はなかったけれど、同性愛としてのレズビアンも参考に記述しておきましょう。ただ、メディアサイドから言えば、レズの話性は比較的低いのではという意見がゲスト側からありました。

生まれた時のからだは…	ころは…	好きになるのは…	いわゆる…
女	女	女	レズ

## 他者のまなざしから自分を解き放つ

### 1. 自分のことに気がついたのは…

**J**：自分の周辺に、(男性に転換した) すごくカッコいい女性がいて、あんな人になりたいと憧れたことが動機になっている。

**N**：幼稚園のとき遊んでくれた兄さんのお尻に興味を持っていた。小学5年のとき好きな男の子が出来た。その時、自分は男性が好きなのだと感じた。ただ気持ち悪いと思われるのがいやで、女の子とつきあったこともあるが、その後、情報誌などで自分と同じ境遇の人たちがいるのだとわかり勇気が出た。

**朝美**：性というより、私は美しい、かっこいいという生き方に憧れたことが、このスタイルになったと思う。

### 2. 自分のことをどんな風に受け止めていましたか

**J**：家族や親せきなどが集まる時は、親から中間的な服を着せられていた。

### 3. 自分を解き放つきっかけとは何でしたか

**朝美**：私の人生そのものに正直に生きていきたいと考えていた。

## 仕事と夢

### 1. いまの仕事に至るまでのご苦労は

### 2. これから先の夢は

### 3. これから先、社会はこうなって欲しいと思うこと

**N**：転々といろんな仕事をしてきた。レストラン・ダスキン・ゲイバーなど。6年半前からゲイバーを実姉の支援で開店することが出来た。儲けはぼちぼち。若い頃、深夜高島屋周辺をうろついていたホモに絡まれた時、「ワシの友だちにちょっかいかけるな」といって、ホームレスの人に助けもらったことがある。夢は無いが、今幸せです。景気がよくなって欲しいですね。

**J**：キャディーをはじめガソリンスタンドや水商売をしてきた。おなべばかりの店に勤めた時、自分の性を拒否して生きている人たちが、その性を売っているということがいやになりやめて、同じ目線の人たちとのつきあいの中から今の店を作った。店は何とか続けていけているが景気はよくなって欲しい。夢は会社をつくりたい。

**朝美**：18才の時、「ベティーのマヨネーズ」に入店。20才台は借金を返すことでやりくりしていた。23才の頃お店をやり始めた。性転換は大きな転機となった。性転換をした人は優位性をもてるが、まだの人はもうひとつ。睾丸を取ることは性欲をなくするので後悔している部分がある。夢は叶ったと思うので、これからは若々しく健康でいたいと思います。

## 後半／ゲストへの質問

●A：子どもを欲しいと思うことはありませんか。それから朝美さんはきれいなので、美しさを保つためどんな努力をしているのか聞きたい。

朝美：美しいといわれて光栄です。別に努力をしていませんが、不摂生をしないように心がけている。心が充実しているのは大事だと思う。子どもを欲しいと思うが、オカマという生き方を全うしたい。

J：子どもを欲しいと思う。しかも血のつながりのある子どもが欲しい。授けられた生を大切に思う。子どもの誕生のために努力をしていきたい。

●Y：TV・マスコミなどで話題的に露出し、一定社会的認知される部分はあると思うが、その印象が逆に悪くなることは無いか。

朝美：現実的にお金をもらっている部分と、自分の部分を分けて考えている。

J：おなべの存在感は薄い。おなべが本当の男に勝つことは無いからだ。

朝美：Jや私の店は、小規模で私たち自身についてきてくれているお客たちです。ベティーマヨネーズのような大きなお店では、ニューハーフを売り物にしなくてはならない。

●Y：面白がられたり、奇異なまなざしで見られたりするのでは。

N：高校の頃、ホモの友人がいじめられていたことがある。自分もホモだったのでいじめられると思いがけることが出来なかった。今、申し訳ないと思っている。

●アマゾン先生：今回のテーマについて会場の皆さんの印象は？

H：想像がつかない。

T：小さいときに、同性たちと一緒に雑魚寝したことがあったがそんなイメージやね。ちょっと不思議な感じ。

M：刑務所に入っていた頃、同じ房にいる者同士がセックスをしていた。自分も順番で回ってくるので仕方なかった。

●アマゾン先生：発展場（\*）が変化して来ているのでは。\*異性・同性たちの交際活動を促す場所のこと

N：最近は開き直っている人たちが多くなってきた。

塾長：自分たちを露出させる人たちが多くなったということは、社会の認識が変化してきたと理解していいか。

朝美：私たちにとってはよいことだと思う。

●K：皆さんのように積極的に生きている人や、メジャーになった人はともかく、やはり人知れず自分の性を悩む人たちは、どんな生き方をすればいいだろう。

朝美：すべては自分の生き方を忠実に、そんな心のあり方が大切だと思う。

(授業全体の記録を網羅していません。御了解ください)



充実の2時間だったと思います。かなり突っ込んだ話になりましたが、まだまだ聞き足りないことも多かったように感じました。デリケートな問題を孕んでいる中で、興味本位の話から、自分たちに共通する生活問題へ切り代わっていく手ごたえを感じました。これからも続けていきたいテーマだと思います。3名のゲストの皆さん参加していただきありがとうございました。アマゾン先生ご苦労様でした。

さて次回15回目の授業は、萩之茶屋駅前のライブバーで生演奏を楽しもうという、久しぶりの遊びの時間を作りました。お酒もOK。みんなで騒ぎたいと思います。

#### 楽塾第15回授業

- テーマ：ポビーでライブ
- 日時：10月25日（土）18：30～20：30
- 場所：オールド・グラフィティ（06－6647－3188）
- 店主：ポビー・藤原さん

その翌日は奈良で収穫祭をします。忙しいスケジュールですがご参加を！

#### 楽塾 課外授業

- テーマ：収穫祭 一米とサツマイモの刈り取り作業—
- 日時：10月26日（日）8：00～14：00（JR奈良駅前集合）
- 場所：奈良市大柳生
- 講師：南垣内貞史（農業家）

# ワークシート

今日の話聞いて思ったままにいっぱい書いてください

- 自分で自分をしばっていたこと
- 他人のまなざしがこわかったこと
- 自分のことがよくわからなかったこと
- そういうきゅうくつから解き放たれたこと
- ゲストへの質問や意見

## 楽塾 15 回及び課外授業が終わりました。

今回は土・日曜連続のちょっと忙しい授業となりました。

### 第 15 回目のできごと

#### 楽塾 15 回授業

- テーマ：ボビーでライブ
- 日 時：10月25日（土）18：30～21：00
- 場 所：オールド・グラフィティ
- 店 主：ボビー・藤原さん（ギター） ゲスト：ヨシノビッチ（ギター）・ヒトミ（ボーカル）

これまで学びの授業が続いたこともあり、お酒を友にライブ演奏を聴き、土曜の夜をゆったり楽しく過ごす遊びの時間にしました。したがって授業というよりはレクリエーションですね。

一昨年暮、萩之茶屋駅すぐの一角にオープンした「オールド・グラフィティ」は、オーナーの藤原さん自身がギターを持ち演奏もするライブハウスです。わがスタッフの井上さんが最初にお店探検したのが始まりで、今では井上さんの旦那さん（ヨシノビッチ＝ギタリスト）も主力メンバー。今回はゲスト出演で参加してくれました。

藤原さんは、往年のロカビリー歌手ボビー・ソロが大好きで、自らのニックネームをボビーと冠し歌っています。とくにカマ周辺の労働者たちが利用し、そのうち昔から楽器演奏してきた人たちも多く、自らの楽器を持ち込んでみんなでコラボレートしています。昨年、藤原さんは店舗を拡大しライブ用のステージを設営しました。塾生7人、ゲスト4名（オーナー・井上を含む）、スタッフ2名の総勢14名の宴をしてきました。

### お酒とビートと人生と

いつも通り6時30分「楽塾」に集合し、11月以降のカリキュラム発表と、翌日奈良大柳生での「収穫祭」参加のための確認や連絡事項を話しました。来年催す「修了記念旅行」についてもあらましを話した後、19時前に「オールド・グラフィティ」に到着。すでに井上さん、川浪僧侶が到着していました。ちょっと体調を壊したオーナーが、あらかじめお願いしていたオードブルを、汗をかきかき作ってくれていたのが印象的でした。

それぞれが飲み物を注文し、出来あがったオードブルをつまみながら歓談を始める頃、11月8日授業予定の教官である和久貴子さんが登場しました。塾生の「どんなことすんのん」という質問に、「うーん、何しよう？ 子どもの話でもしようか」といつものアンニュイ和久さん。「子どもの話かいな？」「そうや、みんな子どもやったやろ」「どんな話やねん」「そうやな、……ムニャムニャ…」とわかったようなわからない会話が続きます。これは面白い授業になると僕は直感しました（どんな根拠やねん！）。

そうこうしているうちにバンドが入りました。井上さん、それにパートナーであるヨシノビッチ、オーナーのボビー（この時のポジションはカホーン）が狭いステージに集まり、「ラストダンスは私に」が紹介されます。「何や、もうラストかい」というヤジが飛ぶ中、ヒトミこと井上さんの絶唱が小さなお店を包みます。数曲が歌われ、ボビーがギターを持って引きつぎした頃は、すでに盛り上がりを見せていました。ボビーが自分の生い立ちを語ります。

「仕事をなくし、何をすることも無く、またナンにもやりたくなかった。金も無く路上で20日間ほど寝たこともあった。これではアカン。そやけど音楽だけは捨てたくなかった。もう一回音楽でやっていこうと

おもたんです」「それで、音楽を続けるために仕事をやり始め、やっと自分の小さな店を持つことが出来た。音楽は僕の心やった」。

そんな話が熱くなりかけた途端、「お好み焼きもってきたで！」という声。ギターをかかえたオッチちゃんが店に入ってきました。「60才過ぎてんけど、ワシにギターを教えてくれたんはこのマスターや。夢が持てたんや」。塗装業をしていたOさん。僕は彼を勝手に「ペインター・O」と名づけると、Oさんはそのままギターを片手に舞台上に上りみんなと演奏を始めました。

「お好み焼きで、オレの話ぶち壊しや」と笑いながら演奏するボビー。手をたたきながら楽しむ塾生、目をつむって演奏をじっと聞く塾生、めいめいが好き勝手なスタイルでこの夜は過ぎていきました。明日は早朝に奈良駅集合ということで21時に閉会となり、全員がお店前で分かれることにしました。この後、ヨシノビッチやペインター・Oたちは、夜更けをものともせず、ギターにかじりついていたに相違ない、と確信しています。



## 収穫祭のできごと

### 楽塾課外授業－Part 2

- テーマ：収穫祭―米とサツマイモの刈り取り作業―
- 日 時：10月26日（日）8：00～16：00
- 場 所：奈良市大柳生
- 講 師：南垣内貞史さん（農業家）

さて翌日は奈良大柳生で「収穫祭」をしました。その報告です。

本年7月2日に田植えと、サツマイモの作付けをしてきました。夏には田んぼの雑草刈をしたり、竹を切ったりと大柳生に行く機会も多かったのですが、数ヶ月ぶりの大柳生となりました。JR奈良駅で合流した時は小雨が降り始めていて、肌寒い天候になっていました。田岡事務局長が運転する車で南垣内さんが待つ大柳生へ急ぎます。ここ大柳生にくると空気がまったく違うと感じます。内臓が洗われる気がするのです。参加者5名（塾生3名）で行ってきました。

## 雨の収穫祭

大柳生に到着です。まずは南垣内邸に立ち寄り、塾生Hくんが便所を借りることから始まりました。この後近くのサツマイモ畑に入り、畑を覆っているマルチ（黒のビニール）をはがす作業を行いました。マルチは風に飛ばないように、針金で畝の端々を留めてあるので、畑に針金が残らないよう同時に除去していくのです。6つの畝すべてが開いたところで、1人平均1畝のサツマイモの掘り出し作業が始まりました。

サツマイモ堀はちょっと遺跡発掘調査に似ています。余り性急に掘り進めるとイモ本体を損傷したり、割ってしまったりするのです。発掘調査を見ていると、出土品に付着した土を調査員が丁寧に取り除いています

よね。おいしいおイモさんに傷をつけないことが商品価値としていいのです。

さて、つるを頼りに掘り進むと、見事な色のベニアズマが顔を現しました。しかもでかい！僕が大柳生でこれまでに見たサツマイモでは最高でした。まさにイモヅル式に掘り進められて、鈴なりの形でゴロンゴロンと畑に寝かされていきます。本日の収穫量は約200kgぐらいでした。これらをカートに入れ、次なる収穫地は稲刈り場です。

小雨が間断無く降り注ぐ中、各自のブロックを決めて稲刈りを始めます。一反には足りない作付け面積ですが、猪の出現であちこち稲が横倒しになっています。しかも雨の影響で、泥の中に埋没する稲たちも多かったのです。私たちは、刈り取った稲が雨水や泥を含んでいるので、コンバインのためにもしばらく田んぼ脇に寝かせておこうということにしました。それにしても泥地での稲刈りは悪戦苦闘です。泥が深くて一步踏み込むと、その場所からなかなか抜け出せないのです。南垣内さんは「下手やな、かかどを挙げるようにして抜いたらええねん」と笑われるのですが、僕自身何度か経験していても、まだまだヒヨコだと感じたのでした。



約4時間の収穫を終え、南垣内邸でシャワーを浴びさせてもらい、遅い昼食をいただきました。南垣内さん、奥さんいつもありがとう。ごちそうさま！ この後、泥つきのベニサツマを排水溝の上に並べ、サツマイモの泥落としが始まりました。あらためて全員が、掘り出したサツマイモの量にあきれてしまいました。でもたくさんの人のお土産になるもんね、良かったやん。終日雨の中の作業で身体が冷え、筋肉がガタガタになってしまいましたが、収穫量といい、南垣内さんのもてなしといい、大柳生の空気とうまさには大満足という充足感で帰阪しました。さあ、来週は「大柳生そば祭り」です。大柳生特産のそば粉の収穫を祝い、例年この時期そば祭りが行われます。南垣内さんからも「こいよ」って言われてます。楽塾の”必須”授業ですので皆さんもどうぞ！

\*元々は稲わらが使われていたが、近年はビニールのマルチが使われることも多い。雑草の繁茂を防ぐ効用があるという。

さあ今週の授業です。11月の初めは「おいしさをひとりじめ！パート2」で、2ヶ月ぶりにおいしい料理をつくろうと思います。大柳生のベニサツマを使って、一品、誰にも作れるイモレシピを大脇シェフにお願いしてあります。是非ご参加ください！

#### 楽塾第16回授業

- テーマ：おいしさをひとりじめ！パート2 —自分が料理長—
- 日時：11月1日（土）18：30～21：00（くらし応援室集合）
- 場所：西成人文センター
- 講師：みゆきちゃん

## 楽塾 16 回目の授業が終わりました。

秋が深く朝夕が肌寒くなってきました。授業翌日には、田岡事務局長と奈良市大柳生の「そば祭り」に行ってきました。奈良の山々の一部には赤く染まる木々も見られましたが、まだまだ紅葉には程遠いという様子です。季節がら風邪などにお気をつけください。楽塾の 16 回目の授業が終わりましたのでご報告いたします。



### 第 16 回目のできごと

「自分の食べるものを自分でつくる」、という考えで始まったクッキング授業はこれで 2 回目です。いつもの調理師みゆきさんの渾身の協力で、今回も迫力の実習となりました。先週の日曜日に「収穫祭」を催し、大量のサツマイモを収穫してきたので、これを利用して、みゆきさんには、一部サツマイモレシピをお願いしていたのです。塾生にとっては簡単でおいしいサツマイモ料理を覚えて帰って欲しかったのです。みゆきさんの友人 2 人が、クッキングアシスタントとして友情参加してくれ、この応援団にわがスタッフ井上さんが加わり、塾生 6 名、スタッフ 2 名、料理スタッフ 4 名の 12 名が 2 時間の実習を楽しみました。

#### 楽塾第 16 回授業

- テーマ：おいしさをひとり占め
- 日 時：11 月 1 日（土）18：30～21：00
- 場 所：人文センター 5 F 厨房室
- 講 師：みゆきさん（調理師） アシスタント：せいこさん・たかよさん

### 満点メニューが楽塾を肥やす！

ジャンクフードや、ファーストフードではなく、お店に売られる安い食材を活用し、栄養あるおいしい食事を自分で作ること、これが「健康回復」をうたう楽塾のモットーです。出来合いの正体不明な食品に依存する生活から、自分たちの生活スタイルを取り戻すために専門家の知恵を借り、おいしい食事づくりをはじめたのがこの授業でした。

このゴールには、大柳生で実践し始めている野菜や米づくりなど、自分たちで自分の食べるものを養うという大事業が待っています。今回の授業では、その収穫品のひとつサツマイモ（ベニサツマ）をレシピに加え、＜ムーンパイ＞というデザートまで作り上げてしまいました。

授業開始。それぞれがエプロンやバンダナで正装し、みゆき講師から今夜のレシピ説明を聞きました。炊飯器には、すでに彼女たちの手で大柳生のサツマイモご飯が仕込まれていました。本日の特徴は、サツマイモをふんだんに使うこと、そして缶詰を使って素材を行かそうというものでした。



## ●本日のメニュー

1. 薩摩汁（ニンジン・大根・豚肉・ねぎ・サツマイモ・味噌）
2. なすびとさば缶詰の煮びたし
3. シーチキン缶詰とトマト、キュウリのさっぱり和え（酢・砂糖）
4. ムーンパイ（サツマイモ・マーガリン・ギョーザの皮・砂糖）→これはデザート

3班に別れ、まずはサツマイモとニンジン、大根の皮をむき始めました。薩摩汁に使う材料です。サツマイモはほかにムーンパイにも使うのです。そして和物をつくるためトマトやキュウリなどを調理し、煮物用のなすびを炒めたりもしました。4つのメニューを相互に手際よく仕込みながら、ムーンパイは、茹で上がったサツマイモを細かくつぶし、お砂糖を適度に振りかけ、餃子の皮に包み込みます。これを油でキツネ色に揚げ出来上がりです。薩摩汁はたくさん出来すぎて食べるのに一苦労でした。でも具たくさんで、栄養・ボリュームともに満点でした。デザートのムーンパイはパリパリとして本当においしかったよ。



ムーンパイやサツマイモご飯がたくさん余ったので、パックに詰め、各自お土産に持って帰るようにしました。後でみんなに食べてもらったけれど好評でした。ごちそうさま。みゆき先生始めアシスタントの皆様ご苦労様でした。



## 今週の授業

子どもたちを支援する活動の中から、親、家族の生活、社会のありようが透視されることがあり、最後は自分の存在に戻ってくる、という和久さんの授業を以前から希望していたのですが、今回無理をお願いし実現しました。子どもと大人は常につながっているという観点から、興味深い話になると思います。子育てやひきこもり支援をされている方たち、ぜひご参加ください

#### 楽塾第17回授業

- テーマ：子どもの存在
- 日時：11月8日（土）18：30～21：00
- 場所：くらし応援室／楽塾
- 講師：和久貴子（NPO法人ワークレッシュ代表）

#### 修了旅行のお知らせ

第4クール（1～2月）を1段落とし、楽塾の授業をいったん終了します。修了を記念して塾生たちと修了旅行を催したいと考えます。楽塾にかかわった多くの皆さんにもお知らせいたします。良かったら参加してください。

- 行き先：新宮を中心とした熊野三山めぐり
- 料金：特別料金で検討中
- 日程：2月初旬～中旬
- その他：決まり次第、随時報告いたします。

## 楽塾 17 回目の授業が終わりました。

晩秋の一夜、塾生諸君のひとり一人が、自らの幼少期を振り返りました。成人しているとはいえ、今の自分を成す重要な素因は、社会や環境に対する作用および反応による因果関係なのでしょうが、その最大にして重要なみなもととは、子どもの頃の大人（とくに両親）との関わりなのではないだろうか、その後の行動や表現はその結果やプロセスと考えることが出来ないだろうか（遺伝子的影響や障害を持つての誕生という別途の問題はあるとして）、という興味から、今回の授業タイトルを〈子どもの存在〉とし、大人であるはずの自分は、実は子どもの存在を内在させている、という観点で授業を組み立ててみました。日常的に多くの子どものと接触する立場にあり、子どもとの関わり合いから、大人たち・親たちの存在を照射する現場で活躍する和久貴子さんを講師に迎え、充実の授業になりました。塾生6名、スタッフ3名、講師1名の10名でのスタートです。

### 楽塾第 17 回授業

- テーマ：子どもの存在
- 日時：11月8日（土）18：30～21：30
- 講師：和久貴子さん（NPOワークレッシュ代表）
- コーディネート：佐々木敏明

### 和久さんキャラのつくられ方

前半は、和久さんのいわば“生い立ち”が語られました。父母の結婚逸話から幼稚園のお受験体験・特殊な習い事など、教育熱心な家庭だったこと。少女時代の母親との別れや新しい母親の出現など。おませな小学生だったが、母親の衝撃的な死を長らく封印してきたことや、大学卒業後の就職先などでのジェンダー・ギャップなどを経て、今では、自分が子どもであった時代の記憶の隠蔽、つまり「無かったことにしてきた事実」や、親・大人社会への愛憎をいったん解放し、自らの歴史を認めると自分や家族、社会のことがよく見えてくる、という経験を聞かせてくれました。

和久さんは、7年前に「NPO ワークレッシュ」を立ち上げました。子どもの居場所づくりを決意した根元には、二人の母の「存在と不在」が大きく影響していたといいます。それは、とりもなおさず女たちの苦しみや社会的呪縛を解放しない限り、子どもたちの存在も危ういのではないかという認識からでした。今回、和久さんを講師にお願いしたのは、このあたりに共感があったからです。

楽塾もまた居場所づくりであります。いくら仕事や寝所があっても、孤独や寂しさを癒せない日常から脱却できない限り、人の喜びは獲得すら難しいと思います。この場所に来て、それぞれが溶けあう空間をつくりながら、新しい価値を発見すること、それは「ワークレッシュ」も「楽塾」も同じだと思いました。



## 「子どものイメージ」から溶けあう練習へ

後半では、用意した色紙の裏面白紙部分を使い、絵でも文章でもいいから「子どものイメージ」を描（書）いてもらうことにしました。自分の子ども時代のことでも良いし、今の子どもたちのこと、思い出、言葉やにおい、音や色などイメージや印象について紙に描（書）いてもらうのです。その結果、紙に描（書）かれたものを見せながら、1人5分間でプレゼンテーションしていきました。「それでは始めますよ〜」。和久さんの一声で、文字や絵が描（書）かれていきました。

ここでは、語られたそれぞれの言葉を簡単レポートしておきます（誕生日順）。

- S**：小学生を通じ、自分が暮らす環境は今で言うマイノリティーのるつぼであった。被差別・在日・台湾・東南アジアの多民族が集まる（しかも貧民層ばかりの長屋）群落に起居し、ここで日本人というアイデンティティーと、多くの民族の違いと差別をいやおうなしに学んだ。
- H**：今の子どもは目標を持っていないので、何をして良いのかわからない、というイメージ。自分のことは、父親に暴力を振るわれたという記憶があるが、父母が離婚したということが重たくのしかかっている。とにかく今は勉強したい。父への感情は、今ではもう何も無い。  
(自分の経歴からの思いが込められているようなメッセージだった→佐々木談)
- T(A)**：母親は耳も聞こえず、声も出せないろうあ者だった。だから母の声は知らない。互いに手や身振りで表現しあって理解していた。母の声を聴きたいと願っていた。でも、不幸ではなかったし、以心伝心で通じ合っていたと思う。夢の中ではいつも母親と話をしていた。こんな子どももいるんだと知って欲しい。それにしてもあの時代、不思議な世界やったと思う。
- W**：母親の死の直前につくってもらったかき玉汁。しかし、母はそれを食べた後、吐いて死んだ。それが自分のトラウマとなりかき玉汁を作れなくなった。そのことを最近確認できた。
- K(A)**：子どもの頃、自分の感性や気持ちをわかってくれる人がいないと感じていた。母・姉・祖母らが、尊敬する父を見下していた。自分は、学校の成績は良かったが、母にはその反応は薄く、他人にくらほめてもらっても嬉しくは無かった。女性への不信感は今もぬぐいがたく残っている。
- I**：3人兄弟であそび呆けていた。自然に囲まれた町で徒党を組み、サッカーなど部活などもやっていた。今の世代（30～40歳代）の母親の感覚がわからない。主張はするが、自分の大切な糧をなくしているように見える。  
(子どもの時分から自然の中で遊んでいたのが強いよね→和久談)
- M**：小6の頃、学校同士で喧嘩ばかりやっとなった。理由は、部落と普通の学校との戦いで、自分自身はよく暴れた。だからほとんどの施設に送られた。少年院、鑑別所や刑務所など。部落は住んでる場所の周辺にはたくさんあった。
- T(B)**：神童と呼ばれ活発利発な子だった。部落問題がでたので一言。自分自身の同和問題への理解は浅いかも。周辺に被差別部落は無かった。北海道で暮らしていた頃、アイヌの存在を知り、彼らは「私たちの存在を認めて」という静かな運動をしていた。それが部落問題では一部に強圧的な運動する人もあり、不自然さを感じることもある。ただ、自分は差別意識は薄いほうだと思っている。  
(T(B)さんは、のびのびと育ててもらったんだね→和久談)
- K(B)**：最近フラッシュバックした映像です。自分は小学1年生くらい。夕日が強烈だった。家の前で兄貴が倒れていた。自分はパイプを握っていた。洗濯をしていた母親が急いでこちらにやってくるのが見えた。あれが何だったのか、何があったのか今ではわからない。親や兄も何も言わない。夢だったのかもしれない。  
(不思議でシュールな話やね→佐々木談)
- K(C)**：遊び呆けていたが、小学生高学年の頃の女性教師が良かった。何度も忘れもんをすると胸の前に「忘れ物をした」というプレートを、学校にいる間つけさせられたことがある。卒業の時、その先生が、

同級生の中で好きな者の名前を書けといわれ名前を書いたら、その女の子と席を一緒にしてくれた。嬉しかった。

(首からぶら下げさせられてもその先生が好きだったの?→和久質問 ウン好きだった→K (C))



こんなやり取りで、1時間オーバーしてしまいました。しかし塾生たちはどんどん発言するし、正直な発言に笑いも加わり、気持ちのいい授業となりました。授業後の給食でも話題は続き、差し入れの豚汁で身体がほかほかになって、秋の夜長を終了した次第です。和久さんご苦労様。ありがとうございました。くらし食堂さん、豚汁のプレゼントごちそうさま！

今週はファッションを話題にします。中古衣料ショップ「りぷら」で活躍する2人の女性が講師となりワークショップを始めます。何が飛び出すのかはお楽しみ。

#### 楽塾第18回授業

- テーマ：かっこいいスタイル
- 日時：11月15日(土) 18:30～21:00
- 講師：森田智保さん・山口明香さん(衣料ショップりぷらスタッフ)
- 場所：楽塾→りぷら(移動)

## 楽塾 18 回目の授業が終わりました。

### 衣料品に囲まれリッチなワークショップ

〈中古衣料りぷら〉は、地域での就労環境づくり・リサイクルをテーマとして2年前に開店しました。今では地域の女性たちや高齢者、近隣病院に入院する人たちの寄り合い場所となり、商品の販売だけではなく地域交流の拠点となりつつあります。お店を統括する森田店長の圧倒的パワーに加え、山口・丹羽さんたち女性トリオが、薄利多売のお店を盛り上げています。その森田智保・山口明香のお二人に今回の講師となっただきました。自分の服装についてちょっと考えてみようという授業でした。衣料群に囲まれてリッチな授業となりました。

塾生6名、スタッフ4名、講師2名の12名で始まりました。

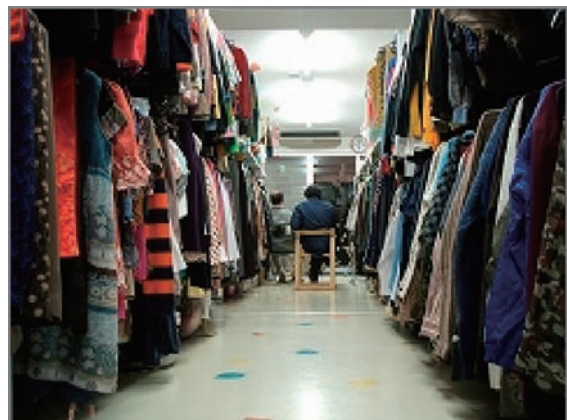
#### 楽塾第18回授業

- テーマ：かっこいいスタイル
- サブテーマ：自分流の服を考察する
- 日 時：11月15日（土）18：50～21：00
- 講 師：森田智保さん・山口明香さん（中古衣料りぷらスタッフ）

### ファッション？興味ないなあ…。

「女性のファッション情報に比べ、男性のそれは大変少ないです。とくに中高年男性を対象にした男性服飾雑誌はあるにはあるが、モデル商品価格がびっくりするくらいに高額だったり、非日常的なものだったりします。もっと自分たちの生活に近い服というものを考えてみるのが今日の授業です」。森田さんは、幾冊かの男性雑誌をみんなに見せ、中高年のファッション情報と日常の現実を比べながら、今回の授業では、自分のスタイルを考えるきっかけづくりをしたい、と話してくれました。

それを受け「皆さんの服へのこだわりをお聞きたい。本日のファッションはどんな理由から着てられたのかをひとり一人からお話ください」と山口さん。実は、先週の授業終了時、田岡事務局長が「来週は『かっこいいスタイル』というテーマなので、それぞれが考えるかっこいい服を着て楽塾に来てください」とメッセージしていました。これに応えたのか、ほとんどの人はこざっぱりした服装で登校していました。以下は塾生とのやり取りのあらましです。



山口：どんな気持ちでこの服を着てこられましたか？

M：今日は暑かったのでこの服になった。

山口：白い服を着てはりますけど、どんな基準で選んでますか？

M：あまり派手な服は着ない。

I (A)：ぼくはそれほどこだわらない。暑いときはTシャツ、寒いときはジャンパーというぐらい。

K (A)：ほとんどジーパン。どこでもいけるやろ。だからいつもと同じスタイル。ファッションにはこだわりの無いね。

T (A)：自分の身体に合った服を着る。50過ぎてからはおしゃれ感覚がなくなってきたと思う。ただ帽子とかマフラーでワンポイントを決めるといふか。

K (A)：T (A)さんはマフラーの使い方が上手やったです。

H：ジャージが好きなのでいつもジャージを着ている。

K (A)：普段から自転車に乗るので暑く、少し薄着の服を着ます。季節によって突然おしゃれに目覚めることがある。とくに冬ですね。気持ちを明るくしたい。あるがまま、そこにある服をそのまま着ることにしてます。

S：外泊して今日も昨日のままの服装です。風呂も入ってません。でも、人に見てもらうためにもファッションは大切ではないかと考えています。

森田：今日は黒で見せてみたいと思いました。それとヤせて見えるでしょ。

山口：今日はいつもと違ってジーンズで決めてみました。

K (B)：寒くなってきたのでジャンパーなどを着てきました。

T (B)：今日はりぷらで買ったもので統一しました。可愛いと思われる服を選びます。最近ではりぷらでほとんど買うような状態です。

I (B)：かんたんに着られて、美しく見えるような服を着ます。韓国で仕入れてくる。基本はジーパン。バランスを考えて服を着ます。

山口：何と何を合わせて着るといふ風に井上さんの話に出てきましたが、皆さんは鏡を見られることがありますか？

K (A)：洗面所で見えるくらい。服まで見ることはない。

山口：Hさんは、さっきモテたいとおっしゃってましたが、いかがですか？

H：鏡はあんまり見ないです。

T (B)：女の子が着ている服に興味のある服は？

H：ワンピース。自分ではジーンズをはきたいが、なかなか機会が無い。

山口：まともな服（フォーマル）を着なければならない時ってありますか。

全員：あんまり無い。

I (A)：ギャンブルなどやっていると、服のことはまったく考えなくなる。ただ、服というのはゲン担ぎといふのはある。

山口：お店にはたくさんの服があるので、後半は、女の子にモテるためのファッションを考えてもらいましょう。皆さんどうぞ服を手にとって、自由に着てください。



### ファッションショーで大ブレイク！

休憩後の後半は、<りぷら>店内を自由に散策し、全員が自分の好きな服を探しながら、服装のコーディネートを始めました。服装に関心がないと言っていた前半とは打って変わり、全員自分の着る服を探すのに目の色が変わっていました。しかも、あれでもないこれでもないという風に、時間をかけて探している様子は、やっぱり服装に無関心ではいられないという結果だったと考えました。約30分後、自分の気に入った服装で楽塾ファッションショーが展開されました。

恥ずかしそうに花道に現れる塾生、跳びはねて現れる塾生、様子をみながら現れる塾生などなど、さまざまな表現で自分たちを飾ったことが本日のハイライトだったと感じます。

**山口：登場の後に、今日のご自分のファッションテーマを話してください。**

まず一番バッターはT（B）君で、背が高くスリムな彼は薄いピンクのチャイナドレスを身にまとして登場しました。場内からは「気持ちわるう〜」とか「やりすぎ」と野次が飛び交う中、T（B）君のアイデアが発表されます。「今日のコンセプトは抱かれない服装、テーマは色気」。ゲッ！という声も。H君は「言葉にならない。気持ち悪い」とさんざんな酷評。それでもお気楽なT（B）君。

二番手K（A）君は、黒と白の配色でTシャツの重ね着です。「テーマは若返り。まだまだ若いし」とT（A）君。森田さんは「重ね着がいいですね」とお褒めの言葉。T（A）君もまんざらではない表情です。

三番目にK（B）さん。着てきた服装の面影もないぐらいに女装スタイルで決めてしまいました。白のシルク風シャツの上にチェックのジャケットを着飾り、黒のロングスカートといういでたち。全員がその姿に反応し賑やかなこと。「テーマは娘の授業参観。スカートが好き」というK（B）さん。H君の感想。「おばさんみたい」（まさにおばさんそのものでした）。I（A）君の意見は「似合すぎて怖い」でした。

そのあとはH君。同系色の緑のTシャツにシャツを重ね、ジーパンのコーディネートで登場です。「テーマは休日のデート。彼女が横にいればよい」というとみんながワオー！「同系色に統一した感覚がいいね」と講師に評価されました。

五番目はT（A）君です。白系統のシャツと茶のジャケットで統一し花道から登場。「にしなりの田中邦衛やな」「ほんまやよう似てる」とささやき声も。私も彼を、田中邦衛にそっくりだと昔から思っていました。「テーマは散歩に似合うファッション。若者風でジェームス・ディーンみたいにね」。T（A）の友人Mさんは「爺くさい」と相変わらず辛らつです。

六番目にそのMさんがモデルで現れました。エンジ色のオーバーオールでダンディーにキメていました。彼は小柄でしかもスリムなのですが、どこか菅原文太を思わせる雰囲気を持っている人です。そのMさんの言葉、「65歳やから、もう若返りできん」。しかし爺むさい雰囲気は全然なかったよMさん。みんなが「やっぱり文太やね」と言っていたもんね。I君は「ござっぱりしている」。T（A）君は「ちょっと地味やね」という印象でした。



七番手はI（B）さん。I（B）さん自身「久しぶりのスカート」といいながら、辛子色のスカートをはき、赤ちゃん用の白帽子を着用しての登場です。皆がスカート姿のI（B）さんをあまり見ないので、「なかなかいいなあ」と誉めます。「可愛いよ」と合いの手を入れる人も。「これからスカートはこかなあ」と彼女もまんざらではない様子です。

小柄でスリムなK（B）君は八番目。Tシャツに黒のベストのスタイルでかなりシンプルです。K（B）君は「テーマはベストを着たかった」ということです。森田さんは「シンプルですね」と評価しましたが、みんなは「ちょっと間が抜けてる感じやね」とかなりの酷評さでK（B）君はがっかり。

九番目はI（A）君。I君は、少し小太りしているけれど若く見えるし、かなり男前でもあります。10月後半にライブハウスで授業をした時、オーナーと瓜二つと話題になった人でもあります。「テーマは特になし」。黒の革ジャンに真っ赤なマフラーでバッチリのスタイル。全員が「カッコいい」と言う評判にI君はなかばテレ気味でした。森田さんは「マフラーがあるのとないのでは全然印象が違う」といって、I（A）君からマフラーをはずしたりつけたりして印象を確認していました。

トリは私になりました。20代半ばの頃、スタジオで同僚のコピーライターが素敵なスカートをはいていたのでそれを借り、肥後橋周辺をそのスカートで徘徊したことがありました。その時の爽快感が印象深く、久しぶりにスカートをはきました。ジーパンにチェックのミニスカートの重ねばきです。上は真っ赤なベスト。頭にはニットの帽子です。意外と自然だという意見がありました。イングランドのバグパイプの伯父さんという雰囲気だということです。

というわけで悪乗りでゲテモノ風もありのファッションショーになりましたが、全員がこのワークショップにはまってしまったことと、最初の「関心や興味がない」という言葉は、実は希望の裏返しということもわかりました。講師が「今日の印象はどうでしたか？」という質問に「たまにこんな服を着るのもいいかなあと思った」「変身したような気持ちになった」「まあまあ面白かった」といった意見が出されました。

給食後、ほとんど全員が<くりぷら>の服を購入していたのが印象的でした。今日の<くりぷら>は、塾生たちの売上げが大半を占めていたんだろうな。



この日、授業に先立ち、2月に予定している「楽塾プレ開校修了記念旅行」の説明をしました。自分たちの時間的都合、お金のこと、旅行の内容についての希望など、一度塾生同士で旅行について話しあおうということで、今週22日のスケジュール「算数の基礎1」を、急遽「記念旅行を10倍楽しむ方法」に変更し、自分たちで資料を集めてみることを提案してみました。

今週はそんなわけで田岡・佐々木のコラボでやります。

#### 楽塾第19回授業

- テーマ：修了記念旅行を10倍楽しむために
- サブテーマ：自分たちで旅をプランニングしよう！
- 日 時：11月22日（土）18：30～20：30
- 講 師：田岡秀朋（楽塾事務局長）＋佐々木敏明（塾長）

## 楽塾 19 回目の授業が終わりました。

### いよいよ熊野が近くなってきた

来年2月に楽塾の修了記念旅行を実施します。本年7月から今回19回目の授業までを通して、塾生諸君の旅行への希望も大きく、修了旅行についての予備知識や、塾生たち自身のプランなどを提案してもらおうということで、急遽、授業テーマを変更しました。テーマは「修了記念旅行を10倍楽しむために」と題し、前半1時限は、熊野詣にまつわる歴史や、新宮の観光ガイドなど「熊野三山とその周辺」を佐々木が話しました。後半2時限では、「自分たちで旅をプランニングしよう！」と題して田岡事務局長が、交通事情や食事・旅館情報など、目的地までの必要経費を考え、1人当たりの費用計算を皆でしました。塾生7名、スタッフ1名、講師2名の10名でスタートです。

#### 楽塾第19回授業

- テーマ：修了記念旅行を10倍楽しむために
- サブテーマ：自分の旅をプランする
- 日時：11月22日（土）18：30～21：00
- 講師：佐々木敏明（塾長）・田岡秀朋（事務局長）

### 熊野三山とその周辺—熊野っていったいどんなところ？

授業の前半は、和歌山県新宮市を中心に、熊野詣にかかわる歴史や観光を楽しむために、佐々木の浅学な知識と若干の映像を活用。以下レジュメ的にレポートします。

#### ①新宮を中心に熊野三山を眺める

平安朝の時代、浄土信仰の中心地として耳目を集めた熊野詣が盛んになりました。京都の公家・貴族・武士階級をはじめ、一般民衆にいたる多くの人たちが熊野に参詣した熊野三山です、熊野本宮大社（田辺市）・熊野速玉大社（新宮市）・熊野那智大社（那智勝浦町）が一体となったところから話しました。

#### ②熊野と浄土信仰

神仏習合（本地垂迹）の結果、仏がさまざまな神々になって姿を現し、浄土思想を作り上げていきます。とくに古代ヤマト王権の王であった物部氏（大国主＝出雲＝崇神派）が神武（ヤマト王権＝渡来系＝崇仏派）の戦いに敗れ、勝ち組が大和朝廷の系譜につながったのではないかと。東方浄土、西方浄土、海洋浄土など浄土思想は、大和に存在した王族同士の覇権争いの結果、大和朝廷が融和する手段として機能したのではないかと、そして熊野は出雲系でもあったか？というようなお話もしました。

#### ③女性や障害者へのまなざし

熊野はすべての衆生に寛容な場所として存在しました。被差別・障害・社会的困窮者を排除しない場所として参詣の対象となっていたのです。ここでも極楽を深く感じさせる浄土感がありますね。一方高野山は歴史的に女人禁制でした。

#### ④伊勢参りと熊野詣

16世紀以降、巡礼の一般化、交通手段の整備化により熊野だけではなく、伊勢参りが盛んになりました。もともとは聖地のみに向かう往復型の旅から、聖地だけではなく周辺を回遊（観光）する旅へと旅行の形態が変化してきました。宗教を基本に考えると、諸外国では回遊型というのは無いそうで、宗教的行事にともなう物見遊山（観光）は日本だけみたい。ああ、ごくらくごくらく。

#### ⑤新宮市内若干のガイド／那智勝浦町のポイント

新宮市内を中心に各拠点を移動する予定です。新宮市内の名所旧跡、観光および近郊那智勝浦町の一部寺院も参考にお話しました。

## <新宮市>

**浮島の森**：新宮市内中央部に位置する。約 5000㎡の島全体が沼の中に浮いている。北方系と亜熱帯地方のしだ・コケ類などが混生する。天然記念物に指定されている。遊歩道が設置され、指定された部分での歩行しか出来ない。

**ヤタガラス**：熊野三山の神の使いといわれる三本足の大ガラス。神武天皇東征の時、熊野から大和に入る先導役を担ったといわれる。太陽のシンボルとも言われ、熊野の地を歩くとヤタガラスのイラストが入った看板に出会う。

**徐福さん**：J R 新宮駅のまん前、極彩色で飾られた中国風楼門が徐福公園。園内には笑みを浮かべた徐福像と彼の墓、それに物産店がある。徐福は約 2200 年前、秦の始皇帝の命により不老不死の霊薬を求め日本に帰化した。

**神倉神社**：新宮市街地の西方にそびえる権現山は、神体山としてあがめられてきた。仏が神として権（仮）に現れる山である。権現山の南、高さ 100 m の断崖絶壁に神倉神社があり神が鎮座する「ゴトビキ岩」と呼ばれる巨石がそそり立つ。2月6日、白装束に松明を手にした男たちが、538 の石階段を一斉に駆け降りる「お燈祭り」は有名。

**熊野川**：古来、熊野川は、神が往来する場所として神聖視されてきた。とくに熊野速玉神社は河口近くに鎮座していることから、川そのものを神として敬ってきたと考えられる。熊野川は聖なる川と同時に、熊野参拝のための重要な交通路であった。8月に熊野川河川敷で花火大会、9月には熊野速玉大社例大祭（御船祭り）で賑わう。

**新宮の人**：佐藤春夫＝作家。文化勲章受賞。「田園の憂鬱」「秋刀魚の歌」など発表。64年没。東くめ＝作詞家。滝廉太郎とのコンビで「鳩ぽっぽ」「お正月」「雪やこんこ」などの唱歌を発表。69年没。中上健次＝作家。熊野を舞台とした地縁・血縁をテーマに新しい文学境地を開いた。「岬」で戦後生まれ初の芥川賞を受賞した。92年没。

**新宮の食**：めはりずし：大きく握ったご飯を高菜の漬物で包み込んだ郷土料理。大きいと、口に入れる時、つられて目も大きく見張るといのが由来。なれずし：塩漬けのサンマやアユを塩抜きし、柔らかく炊いたご飯に乗せ発酵させたもの。保存食、正月のご馳走として食された郷土料理。さんまずし：10月から12月にかけて熊野灘沖で取れるサンマを使ってつくられる姿寿司。

**高田グリーンランド雲取温泉**：温泉は和歌山で唯一の乳白色泉で薬草風呂もある。温泉つきの宿泊施設。

## <那智勝浦町>

**補陀洛山寺**：補陀洛とは南海のかなたにあるとされた観音浄土のこと。寺の多くの僧は、小さな船に乗り浄土を目指して船出をし、入水による入滅をしたという。境内には渡海記録の碑や、渡海船の復元模型を展示している。



## 自分たちで旅をプランニングしよう！

2時限での授業は、田岡事務局長が今回の旅を十分に楽しめるものにしたと、塾生たちに色々な角度からパワー・ポイントを用いてアプローチしてくれました。以下は彼のレジュメに沿ってレポートします。

### 妄想のための5つのポイント

#### ●どこに行きたい！！

新宮の見所はどこなのか、前半の話に触れながら、これまで宗教や地理授業で出てきた関連授業を振り返り、みんなが興味を持つ新宮の見所を考えてもらいました。

#### ●季節は…！！

2月の新宮はどんな気候なんだろう？ということで、月々の雨量や気候の寒暖をデーターをもとにして授業の参考にしてもらいました。雨量は多く、冬はさっぶ〜い場所なんですね。2月の那智の滝を背景に、フンドシー一枚で修業すれば凍えてしまうこと必定！ このツアーで修業はなしと約束しました。

#### ●誰と行きたい！！

塾生の全員が旅行参加を希望しています。旅の道づれに、できれば一緒に行って欲しい仲間や、楽塾教官たちの名前（これまで参加してくれた人たち全員を対象に）を書いてもらうことにしました。この結果、圧倒的に女性への参加を希望する答えとなりましたが、男性教官名もありました。これからは塾生の希望に応えるべく、とくに女性たちの参加を呼びかけたいと思っています。楽塾に協力いただいた教官の皆さま、2月の「熊野三山巡り」にはどうかご参加をお願いいたします。近日中に詳細を告知いたします。

#### ●どうやって行くの??

目的地にいたる移動手段を考えることにしました。JRを中心とした電車での移動はどうだろうか。自由席あるいは指定席？はたまたグリーン席？—「ゆったり行くには自由席より指定席やなア」—という意見あり。その場合は1人往復14020円そこそこ。しかし新宮以降で利用する交通機関にも経費が必要です。うーん。

レンタカーならどうだろう。20名位の予定として10人乗りバンを2日間で2台分借りる。ガソリンや高速代などを含めてどのくらいかかるだろう。一度みんなで計算をしてみよう、ということで資料にもとづいて算数計算してみました。私は20人として計算してみたら6000円ぐらいと弾きましたが。これに運転手さんへの慰労金や往復の飲食代なども加算されなければなりません。

塾生からは、「観光バスを借り切ってもいいのでは」という意見がありました。参加人数を一定確保すればレンタカーと変りがないような気もします。あと宿泊費は、新宮市職員Sさんのお力添えもあり、旅館も確保できています。全体の旅行代は一人あたり15000から18000円くらいを目途に考えてみます。この授業、塾生自身、自分の経済的条件を考えながら真剣に計算をしていました

#### ●熊野のどこへ行こう??

前半のガイドを参考に、みんなが行きたい場所を聞いてみますと、ダントツに「那智の滝」と返ってきました。この近辺には那智大社、青岸渡寺、補陀洛寺が集まっているので、まずはこのエリアを決定。また熊野古道を巡行したいという意見もあり、熊野三山コースを優先したいと考えました。後は新宮市職Sさんの推薦コースなどのアドバイスをもらって、最終決定したいと考えています。

どんどん熊野が近づきつつあります。楽しみです。

来週は第5週目ですので楽塾はお休みです。20回目の授業は12月6日（土）に始まります。お間違えないように。川浪僧侶による算数の授業で遊んでみよう

**楽塾 20 回目の授業**

- テーマ：カマを数字で考える
- サブテーマ：計算練習をしてみよう
- 日時：12月6日（土）16：30～21：00
- 講師：川浪 剛

## 楽塾 20 回目の授業が終わりました。

### これぞ総合学習なり！

楽塾は第5週目を休みとしているため、12月6日は2週間ぶりの教室となりました。これまで、授業をさまざまな角度から検討し、なにより教官・塾生の垣根を飛び越えた取り組みを工夫してきましたが、今回西成、あるいは釜ヶ崎という場所を、最新データで確認する“社会学”、“地理学”、時には数字を使って計算しながら、自分たちが住む近隣を再確認する“数学”の授業を体験してみました。また後半はカードを使い、数字の計算を楽しみながら、「正の数・負の数」を考えるというところみをしました。講師はおなじみ川浪剛さんです。塾生5名、スタッフ3名、講師1名の9名の授業です。

#### 楽塾第20回授業

- テーマ：カマを数字で考える
- サブテーマ：地域をデータであそんでみよう
- 日 時：12月6日（土）18：30～21：00
- 講 師：川浪 剛さん（NPOオイコス事務局長）



### ①. 前半

#### ニシナリってどこだ？

いきなり大阪市内の白地図が回ってきました。まずは大阪市内の全区名称を記入してみようというところみです。大阪市内のシルエットがアウトラインで書かれ、その中に24区が点線で分割されているだけの無味乾燥な地図。全区を記入した上で、「西成区内の釜ヶ崎の位置を着色しなさい」という問題も追加されます。淀川も入っていない！木津川もない！これは結構難問です。大阪で生まれ育った私は区の位置を間違い、4ヶ所も誤りがありました。いやあ、焦りました。

#### カマの面積を求めてみる

次に釜ヶ崎の地図が現れました。一般的な認識での「カマ」と、狭義で考えられる「カマ」の違いを説明した上で、地図上のカマを測量しました。この地図上の倍率は1.5cmが実際の距離100mとなります。一般的なカマの位置づけは花園北や東天下茶屋・山王・太子の一部が入って、ほぼ四角形（実際は台形）なので、四角形の面積の求め方ということで設問されます。また狭義でのカマは南海線から東、萩の茶屋3丁目、太子2丁目までのほぼ三角の形状なので、三角形の面積の求め方と言う設問になりました。つまり、四角形の面積＝縦×横。②三角形の面積＝底辺×高さ÷2ということになり、大まかに①②のカマの面積を計算することにしました。

私の計算した①の結果は約 900㎡ (0.9 km<sup>2</sup>) でした。一方②のカマは約 230㎡ (0.23km<sup>2</sup>) で、川浪先生の計算結果は① 0.62km<sup>2</sup>、② 0.24km<sup>2</sup>でした。いずれにしても 1 km<sup>2</sup>にも満たないものなのです。

### カマには一体どのくらいの人たちがいるの？

カマの人口を考えました。まずは大雑把に考えてみる。かつてドヤは 200 軒ほど存在し、一軒平均のキャパは 100 人。それでは推定ドヤ人口は何人だろう？

この 2 万人の内訳は、普通アパート 5000 人、福祉系アパート 4000 人、ドヤ 10000 人、施設利用 1500 人などでカマに暮らしています。カマの男性は 24099 人、女性は 5025 人が 05 年の国勢調査の結果でした。それではカマの男性比、女性比を計算してみよう、ということで割合を計算してみました。その結果、男性は全体の 83%、女性は 17% で圧倒的に男性が多いという事がわかりました。突然、カマにはオカマも多いという意見が出ました。男が多く女が少ないので男が男に走ると言う論法です。わかりやすいんだけどね (ちなみに大阪の男女比です。男 48.7%、女 51.3% だそうです。西成区全体の男女比は 58.8%、女 41.2% でした)。

このほか、四角公園や三角公園での炊き出し食数がどのくらいなのかを試算しました。三角公園では協友会系の炊き出し 1000 食 (週 2 日)、四角公園の稲垣さんちは 373 食 (毎日) だそうです。

これとは別に、釜ヶ崎における日雇い労働者の階層性にも及びました。そしてその分類から人口を見ました。つまり①日雇い雇用保険受給資格 (白手帳) のある層は 9000 人、ボーダーライン層 5000 ~ 6000 人、野宿者層 4000 ~ 5000 人などで、カマの高齢化率では全国一の約 30% と最高を記録しているということです。

このように前半は、紙と鉛筆をフルに動かしながら計算に取り組み、大汗をかいたことでした。

### ②後半

#### プラスとマイナス

〈トランプゲームで「正の数・負の数」に慣れる〉というのが後半の趣旨です。

人形のカードを除く 40 枚の数字を配ります。配分されたカードを順番に抜いていきます。黒のトランプは財産 (正の数)、赤のトランプは借財 (負の数) として計算しながら、自分の財産がたくさんあると考えたらストップをかけ、それぞれの手札の合計を計算する。ただ自分より財産の多い人がいれば自分は最下位になる、という暗算ゲームで、2 グループに分かれてカードを楽しみました。計算とカードの興奮で、全員腹ペコ状態に陥り、給食はいつもよりペースが早かったように思います。ごちそうさま。

今週の授業はアートを実践してみようと思います。仮面に着色し、その仮面をどう活用するのか、清先生が 2 週連続で「仮面舞踏会」を担当してくれます。どうぞご期待ください。

#### 楽塾第 21 回授業

- テーマ：仮面舞踏会
- サブテーマ：仮面の下のたくさんの自分を発見
- 日時：12 月 13 日 (土) 18:30 ~ 21:00
- 講師：清 真人さん (近畿大学文芸学部教授)

## 楽塾 21 回目の授業が終わりました。

### 仮面であそぼう

仮面とはすなわちマスク。顔を覆うことで自らの正体を隠すわけですね。遠い昔、私の少年時代は「鞍馬天狗」と言う幕末のヒーローがいました。覆面をして新撰組相手に活躍しました。60年代のテレビ創世記に現れたのが「月光仮面」というヒーローでした。白面で顔を覆い（額にカットされた三日月が光っている）、その上に黒いグラサンをかけ、マントをひるがえし正義の実践のためバイクで疾走する。だからそれまでのヒーローは仮面キャラというよりは覆面キャラなのですね（しかし悪人どもはすでに仮面をかぶっていた）。その後、仮面ライダーやタイガーマスク、ウルトラマンなどが登場して仮面ヒーローたちが続々登場します。

歴史的に仮面は宗教的儀式や祭礼に利用され、仮面をかぶることで呪力を養い、まつりごとに利用され、舞踏的、演劇的に発展もしていったのでしょうか。ちょっと毛色が変わった催し「マスカレード」とは仮面舞踏会のことです。中世ヴェネチアで発展した貴族階級のドンチャン騒ぎです。仮面をつけ匿名性の恋愛（今で言う不倫かな）を成就させる場でもあったのでしょうか。

今回の授業は怪しい仮面舞踏会というより、仮面の妖しさをアートな授業で楽しもうというもので、近畿大学の授業で、仮面についての講義もある清先生に来ていただき、仮面制作に関わってもらいました。清先生の“仮面”授業は2週連続となります。今回は仮面そのものについての座学と、仮面制作でした。来週は仮面を利用しての実習です。

偶然近大の女子諸君3人が塾生として参加してくれ、塾生7名、スタッフ3名、講師1名の11名での授業です。

#### 楽塾第21回授業

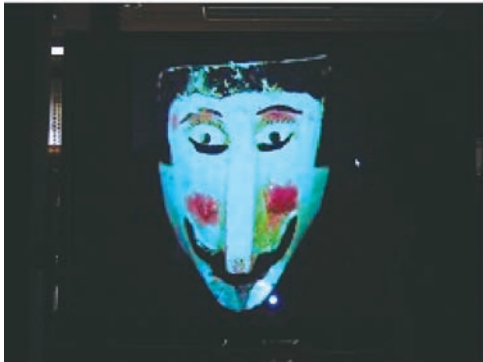
- テーマ：仮面舞踏会 vol. 1
- サブテーマ：人間について、自分について
- 日時：12月13日（土）18：30～21：00
- 講師：清 真人（近畿大学文芸学部教授）

### 隠すよりあらわる

「仮面は人類の歴史の時間と同じくらいに存在したのではないか、つまり人類が現れると同時に仮面も登場していたのでしょうか。それほど仮面は古く、人間の起源と機を一にしているといえます。仮面はそれぞれものに力が宿るものとして考えられた。仮面を作る前に色々な仮面を見てもらって参考にしてもらいましょう」。

こうして、清先生のパソコンに納まる仮面の写真たちをスライドショーにし、プロジェクターで投影してみました。太古、仮面に力が宿ることから仮面劇が始まり、それは大衆的なお祭りの仮面に引き継がれていきます。また宗教の儀式には仮面がつきものだったということも語られました。おどろおどろしき仮面たちには独特な霊力が宿り、見るものを超現実的な世界へ誘導させる働きを担わせたのでしょうか。





また、仮面の効用についても考える時間を持ちました。仮面は顔を隠すことで正体をなくしてしまうのか、というところではなく、「隠すより現る」という言葉もあるように、隠すことでその本性がより露になるのではないかと、「隠すから現れさせることができるのか」という問題に入っていました。ヴェネチアの「仮面舞踏会」は、仮面に自己の存在性を隠した上で、実は欲望や期待を現わしたい例ではないか、と言います。非日常的な自分を「隠すことで現われる」ということですね。

### どんな仮面があるのか

私たちの周りに、どんな仮面があるのでしょうか。

1. 「神」仮面・神事に使用するお面
2. 「鬼」仮面・鬼の形相をしたお面。般若面・天狗面など
3. 「間抜け」仮面・相好をくずしたような顔。ひょっとこなど
4. 「スーパー・パワー」仮面・仮面ライダー・ゴレンジャーなど
5. 「キャラクター」仮面・役柄仮面・アンパンマン・筋肉マン
6. 「喜怒哀楽」仮面・感情を露出させたお面。おたふく面・福助など
7. 「怪傑ゾロ風」仮面・顔面の上部、鼻上を覆うお面

ところで、能に使われる能面などは舞台道具ですね。

### ちょっとアートな遊びをしてみよう

後半は、いよいよ仮面を作る時間です。以前からベースとなる型面（プレスしたパルプの白面）の仕入れを清先生から依頼されていました。ところが私のスケジュールミスで、当日までに確保できなくなり、授業前日、松屋町に探しに出かけたのですが、やはり現物なく、急ぎょセルロイド製のキャラクターお面（縁日やお祭りの露天で販売しているもの）を仕入れました。それにジェッツという上塗り用画材でお面を真っ白に加工し直し、やっとなこと間に合ったという次第でした。

この土台に、塾生諸君は用意した絵の具や粘土を使って自分の仮面を作り上げていきます。おもいおもいのイメージで、予想以上に早いペースでお面が出来上がっていききました。粘土でとくに鼻を大きく強調する塾生や、規格品をなんとか調整しながらオリジナルに近づけていく塾生たち。色もそれぞれ独自の方法で着色し、各々の作品がまるで異なるお面になりました。着色が終わるとお面に装飾がほどこされます。毛糸やテープ、ラッピングパッキン、シュレッダー処理された紙片などを準備しておいたので、それらが仮面の髪やひげなどに利用され仮面の表情が変化していききました。これらは写真で参照してください。



絵の具や絵筆、接着剤、はさみやカッターナイフ、装飾品などそこいらじゅうに散乱させながらの後半授業でした。来週はこの仮面にそれぞれが名前をつけ、仮面をかぶって自己表現をしようという約束になりました。演劇になるか？舞踏になるか？はたまた空騒ぎで終わるのか？

2週連続の授業は初めてですが、同じテーマで同じ時間を共有できることを楽しみにしています。今週土曜日、22回目の授業を期待しています。応援団のみなさん！どうぞ観客として参観に来てください。

#### 楽塾第22回授業

- テーマ：仮面舞踏会vol. 2
- サブテーマ：人間について、自分について
- 日時：12月20日(土) 18:30～21:00
- 講師：清 真人(近畿大学文芸学部教授)

## 楽塾第 22 回目の授業が終わりました。

前回につづき「仮面舞踏会」の第2回授業を行いました。13日には塾生のすべてがお面の制作を修了していたので、あとはこのお面をどんなふうに使って遊ぶのが本日のテーマになっていました。教室にはお面や飾りつけ、画材などがそのまま散乱していて、まずは塾生と整理をしながら「仮面舞踏会」のためのスペースを確保することから始めます。清先生とやり取りをして（というか、ほとんど大まかな打ち合わせでおしまい）、しかし、どんなプログラムになるのかはまるでわからないままのスタートです。H君が入所しているI寮の女性相談員Tさん（ユニークなパフォーマー）も同行してくれ、賑やかな「仮面舞踏会」になりました。

残念だったのは前回の参加者を下回り、ちょっと寂しい授業になりましたが、内容そのものは時間とともに盛り上がり、予想もしない広がりを見せて、清先生も「こんな展開になるとは予想もしていなかった。学生の授業にはない興味深いものになった」と興奮していました。塾生4名、スタッフ3名、講師1名の8名で始まりました。

### 楽塾第 22 回授業

- テーマ：仮面舞踏会 vol. 2
- サブテーマ：人間について、自分について
- 日時 12月20日（土）18：45～21：30
- 講師：清 真人（近畿大学文芸学部教授）

### 仮面のささやき

準備に手間取って15分遅れのスタートです。教室のスペースを出来るだけ広くとり、塾生が部屋の端に陣取ったあと、清先生自ら「作ったお面をかぶって、その仮面の名前と自己紹介をしていきましょう。あとはどんなことでも喋ってください。でもなかなか最初からやりにくいでしょうから、僕が手始めにやります」といって自作の仮面をかぶります。用意していた布を羽織り、「それでは電気を消してください」と指示し、部屋は真っ暗になりました。あとはスポットライトの代用として、懐中電灯1本を仮面に照らし続けその表情を見ることで「仮面舞踏会」のはじまりはじまりであります。

#### 1 番手仮面「ガジュマル」……清先生

仮面の名前は「ガジュマル」と命名されます。ガジュマル（よう樹）とは熱帯・亜熱帯の奄美・沖縄・屋久島など南西諸島に自生する常緑樹のこと。沖縄ではキジムナーという妖精が住む木として有名です。先生は奄美大島を学問的フィールドとし、幾度となく島に渡り、奄美に関する本も著しています。「ガジュマル」は樹木に託した神であり先生の分身（メタファー）であるのでしょうか。先生は「垂れ下がる幹から霊気を送り、みんなを元気にするぞ」とタンバリンを鳴らしながら踊り狂います。

#### 2 番手仮面「アマテラスの鬼」……T君

つづいてT君が「高天原にまします私はアマテラスの鬼だ！」と雄叫びして登場します。元々古代史に興味を持ち、卑弥呼や熊襲にいたる太古の名称をそらんじながら話題にするのが好きなT君です。「アマテラスの鬼」は、遠く太古のヤマトへ思いをはせながら、ロマンを失いつつある現代に跳梁してきたロマンの化身に見えました。平和主義者T君のお面は、どう見ても鬼ではなくT君キャラクターに見えました。

#### 3 番手仮面「赤頭巾」……M君

「ワシは葛城山中に棲息する赤頭巾である」と、M君はおごそかな雰囲気じゃべりだしました。M君は

奈良の出身者であるだけに、奈良の伝承に詳しいのです。葛城山は修験道の霊場として有名ですが、私は葛城の山上にいた赤頭巾の伝説があることを知りませんでした。M君の赤頭巾は、「悪いやつらを懲らしめるためにここにやってきたのだ」といいます。真っ赤な仮面が不気味でした。

#### 4 番手仮面「キカイダー」……スタッフ川井君

縦に顔半分が赤とパールブルーに塗り分けられたキカイダー。「石の森章太郎の頭の中から出てきたんだ。赤色は動脈、青色は情脈なんだ」と言いながら「もう言うことがないから終わります」とか「ほとんど僕は何を言っているかわからない」とブツブツいいながら、あちらこちらをうろつきまわりながら、キカイダーの核心を失ったまま退散してしまったのでありました。

#### 5 番手仮面「テレヤマン」……H君

「自分自身、ムチャ恥ずかしがり屋で、この仮面に命名したのが『テレヤマン』です」。人前に出るのが大の苦手な、実はここに出る前はどうぞ、なんてずっと思っていたらしいのですが、運のツキでした。しかし、先週はお休みだったH君は、本日お休みの塾生の仮面をかぶっての登場でした。喋っている状態はぜんぜん不自然ではなかったよHちゃん。とにかく早く退散しようとするばかり考えていた「テレヤマン」でした。

#### 6 番手仮面「おたべちゃん」……Tさん

Tさんは京都出身。ニッキ（シナモン）の味などでユニークな土産物として有名な京菓子「おたべ」は美味しいけれど、あんこがはいったものは大嫌いという変なおたべちゃんです。どんなお菓子でもあんこが入ると気に入らないらしいです。「京都に来たときは食べておくれやす」と、賑やかで動きいっぱいのおたべちゃんでした。おたべちゃんも本日欠席した塾生の仮面をかぶっての力演でした。

#### 7 番手仮面「ヒダリマキの神」……塾長

「私は貧困と煩惱で地獄に落ちてきた人間たちの血を栄養にして生きてきた悪鬼ヒダリマキの神だ」しかし「ワシは最近どうもおかしいと思い出した。なぜなら地獄に落ちてくる人間が多いからだ。ワシは血を吸うだけのどうしようもない鬼だ。ということで生き方を変えて地獄から救出する神となろう」というわけで、酸いも甘いも経験した神の誕生を演出したのでありました。



#### 秘密の告白からざんげ、説教談義まで

前半は、全員に神や鬼が乗り移り、仮面舞踏会ならぬ百鬼夜行のパレードとなりました。そして、後半は信じられぬぐらいに塾生たちのオリジナリティーが発揮された時間になるのです。実は後半をどんな構成にするのか、あまり決めていなかったのです。雑談中、I寮のTさんがH君に「何かざんげでもしなさい」と冗談を言っていたので、「それや！ひとりひとりの告白の場にしよう」と突如決めてしまったのでした。

これまで聞かされたことのない話、恋の悩み、果ては事務連絡まで。スポットだけがひと筋の光を作る闇の教室の仮面の告白とは。さてトップバッターは私からでした。

#### 「貧困なんていうな！」……ヒダリマキの神

「みんながこの国は貧しい貧しいと言って、いつの間にか貧しさをネガティブにしかとらえなくなってしまう。一方で生き血を吸う経済社会はあるけれど、それに対抗する新しい価値を作るべきなのだ。貧しさは人の栄養・滋養になるもので、ヒダリマキの神は貧しさを大いに奨励しておる。人間は貧しさから学ぶの

だ〜！」としつこく説教しながらボブ・ディランのCDをガンガンかけ、大汗をながして踊りまくりました。

#### 「過去を否定しない」……赤頭巾

「若い頃、ワシは刑務所暮らしをしたことがある。その後、仕事を探してまじめに働いていたが仕事がうまくいかず、ある時野宿生活になってしまった。そんな時、いろいろな人に助けてもらい、今では自分の生活を持てるようになった。過去の刑務所暮らしはワシにとっては大切な経験だった。あの経験が今の自分を支えているのじゃ」。赤頭巾の告白ははじめて聞かされたものでした。訥訥と話す仮面は辛そうな表情に見えました。時折うつむき加減になって言葉も途切れると、教室全体が深い奈落に吸い込まれていきそうな雰囲気になり、また仮面が涙を流しているように見えたのが感動でした。

#### 「恋はつらいもの」……テレヤマン

「僕は今恋をしています。でも叶わない恋です。片思いです。相手は旦那さんや子どももいる人なのだから、恋の告白も出来ず、余計にしんどいのです。みなさんどうしたらいいか教えてください。いつも会うので、まともに顔も見られないような状態になります」。テレヤマンは本当に辛そうなのです。そんな辛さを仮面の下で告白しました。

なかなか異性にめぐり合いにくい環境のもとで、久しぶりに恋をした彼の恋愛感情を聞かせてくれた苦悩するテレヤマンでした。

#### 「私のやりたい方法で仕事をするのだ」……おたべちゃん

「おたべちゃんは、初めて福祉施設の仕事をした時、汚くて臭いこの町が嫌いでした。オッチャンたちがまちのいたるところで寝転がっていていやでした。また施設の人間関係にも悩みました。毎日このまちに仕事に来ることも辛かったのです。仕事上の先輩たちが職場を去って以降、このまちの現実を受け入れ、自分の興味のあるやり方で仕事をして行こうと考えなおしたのでした」。おたべちゃんは、施設で利用者たちの相手をしている時、生き生きと見えるのはこの言葉からですよ。

#### 「楽塾にくるのは無理だア」……キカイダー

「この場をお借りしてお断りしておきたいのですが、来春以降、仕事の関係でキカイダーは楽塾のスタッフとしてくるのが難しくなってきました。仕事が忙しくなる可能性がでてきたのです。みなさんには親しくしていただいて申し訳ないですが、どうかよろしくお願いします」。一な、なんだこれは？ 事務連絡がいな。キカイダー仮面の秘密の告白を期待していたのに…ということで楽塾の現実に戻ったキカイダーのざんげでありました。

#### 「楽しい暮らしをしよう」……アマテラスの鬼

「別に大してお話することはありません。みんなが楽しくなるように、自分も楽しくしていきたいと思っています」。まさにアマテラスの鬼は平和主義者T君そのものでした。

#### 「奄美大島こそわがルーツ」……ガジュマル

「僕の出生のルーツは奄美大島にあります。この島の風景や空気はほかと違って素晴らしい。だから僕はしょっちゅう奄美に帰っていくのです。島歌についても男が女のような高音を発して歌い、女がそれに和して歌いだす。その情感がいとしくやさしい」。

ガジュマルは、自らのルーツを語りながら、奄美大島への限りない愛を語ってくれました。それは旅情とも言うべきものでした。

それぞれのパフォーマンスが終わる直前、田岡事務局長が別作業から解放されて到着し合流しました。いつになく身体を動かし続けたこともあり給食がうまかったです。今夜の給食は、ある食品メーカーが試食のために韓国製のり巻を提供してくれたもので、ラッキーでした。あとでちょっとアンケートを書かされましたが美味なお寿司でした。1時間ほど超過して授業が終了。今夜の授業が実質的には本年最後の授業となります。



### 今週の謝恩&交流会について

今週土曜日は、今年教官をしていただいた人たちへの感謝と塾生の交流会をかねて食事会を開催いたします。とくに7月から12月までの間に教官をしていただいた方たちには事前にご連絡をしていますが、予約人数調整のため、参加が難しくなった方は、事務局あて24日中までにご連絡いただければありがたいです。

#### 楽塾 23 回授業

- テーマ：楽塾謝恩交流会
- 日 時：12月27日（土）19：00～21：30
- 場 所：ビストロビアン
- 費 用：無料

## 楽塾第 23 回目の授業が終わりました。

### 08 年最後の授業は交流会でした

7月から開校した「楽塾」は、12月でちょうど半年間になりました。20回以上の授業はすべてがユニークで、「ほんまに勉強になったよ。俺のネットワークがひろがった」と、普段は誉めてくれたことがないK君が、別れ際に言ってくれた言葉が印象的でした。K君の言うネットワークとはどんなネットワークなのだろう、興味あります。

この交流会は、一生懸命「あそび、まなび」を楽しんでくれた塾生諸君と、その授業を支えた先生方の感謝の集いであったのです。「ビストロビアン」では出席予定者全員が集まってくれた上、アマゾン先生が塾生2人を連れて来てくれ26名の大所帯となりました。塾生8名、教官13名、スタッフ5名がこの日の参加者です。

#### 楽塾第 23 回授業

- テーマ：楽塾謝恩交流会
- 日時：12月27日（土）19：00～21：30
- 場所：ビストロビアン
- 費用：無料

とくに、毎回授業風景をビデオで定点撮影した楽塾スタッフが、スライドショーとして編集しなおしプロジェクターで映写してくれました。これまでの授業を全員で見られたことがよかったです。そのあと第1回から22回までの各教官が前に立ち、順次担当授業をエピソードも交えながら解説してくれました。この日欠席された南垣内さん、清先生のお二人には、席上で感謝させていただきました。

それから「楽塾」大失敗となる失態をしてしまいました。合同慰霊祭で無償奉仕をしてくれた葬祭社や仕出屋さんの手配をし、しかも慰霊祭の読経の中心になってくれた前山住職の紹介を失念していたのです。前山住職には申し訳なく、ここで改めて陳謝と感謝をあわせてさせていただきます。すみませんでした。

以下、プログラムの進行に添って交流会の粗筋をお伝えしておきます。

楽塾／謝恩と交流「フェアウエル2008」のつどい08.12.27  
プログラム進行表  
●進行：田岡秀朋 ●場内誘導：井上比登美 ●会場設営：川井友二

#### 19：10 つどいの挨拶……田岡秀朋事務局長

23回目の楽塾を修了し、一生懸命出席してくれた塾生諸君と、その授業を支えていただいた先生方の感謝の交流会を開いた。毎週1回だけの授業だが、だんだんとみんなの関係が近づいていく実感を持った。来年の2月でいったん修了するが、それまでには修了記念の「熊野三山巡り」の旅行もある。これからも楽塾を続けるために協力して欲しい（趣旨）。

#### 19：10 理事長の挨拶……(株)ナイス富田一幸社長

ホームレス支援をしていく中で、当事者たちが学びを希望する可能性が現われ、今後「学校」というものがヒントになるのではないかと。しかも「学校」がビジネスチャンスにもなりえると思う。生産者と消費者という対立は非効率。西成で700億という税金（生活保護）が活かされていない。消費者への視点や発想が欠けていたのだと思う。「楽塾」は、Aダッシュ創造館の運営のヒントになるのではないかと。第2の「楽塾」を考えていきたい（趣旨）。

#### 19：25 主催者の挨拶……佐々木敏明塾長

学校計画が、本当に実現したという感動が今も残っている。「楽塾」をこの地で定着していこうと背中を押してくれたのは富田社長であった。何よりの理解者として深い感謝と印象を残してくれた人だ。そして、講師料もなく、僕の計画に何も言わず協力してくれた人たち。今は大きな愛を感じている。それから毎週授業に参加してくれた塾生の諸君。ご苦労様。みんながいたので僕もやれた。塾生が1人でも続けていきたい。最後に楽塾スタッフ。諸君の協力がどれだけ助かったか言葉ではいえない。ここに集うみんなに愛と感謝を伝えたい（趣旨）。

#### 19：30 乾杯……川浪 剛住職（講義回数が最多）

半年間のうち合同慰霊祭を含め、最大5回の授業を受け持ってくれた川浪氏に一言お願いし、そのあと乾杯の音頭を行った。

#### 19：40 交流会の進行概略・田岡秀朋事務局長

ここで恒例の誕生日のお祝いをする。12月生れの塾生は2人（N・H両君）。このあと食事をしながら、これまで22回の授業記録を映像などで振り返っていききたい。その際、その授業の講師が、自己紹介を兼ねて授業の内容などを順番にお願いする（趣旨）。

#### 19：45 第1回から22回までのスライドショーを開始

これまでの授業を、スライドショーを見ながら各教官の解説、および各塾生から印象を話してもらう。

#### 20：30 スライドショー終了

#### 21：20 つどいの終わり……田岡事務局長⇒川井友二⇒井上比登美⇒佐々木塾長

本日は楽塾のために集まっただき感謝する。これからも楽塾を応援して欲しい。また来年2月には修了旅行を行う。よければ参加して欲しい。最後にみなさんへの連絡やフォローをしてくれている楽塾の事務方から一言ずつ話し終わりにする（趣旨）。

#### 21：40 散会)



新春は1月10日（土）からスタートになります。4月本開校に向かって「楽塾」は確実に歩を進めています。皆様のご協力を期待しています。

#### 楽塾第24回授業

- テーマ：これからの授業をみんなで企画する
- サブテーマ：どんな授業が必要か
- 日 時：1月10日（土）18：30～20：30
- 講 師：田岡秀朋事務局長＋佐々木敏明塾長



## 楽塾第 24 回目の授業が終わりました。

09 年初めての楽塾レポートになります。楽塾応援団のみなさんのご幸運と健康を切に祈ります。どうか今年も小さな学校＝楽塾を支えてやってください。またみなさんへのご協力も惜しみません。今年もよろしくお願いいたします。今週のレポートは、佐々木の出張が重なったため、配信が遅くなったことをお詫びいたします。

### 楽塾第 24 回授業

- テーマ：これからの授業をみんなで企画する
- サブテーマ：どんな授業が必要か
- 日 時：1月10日（土）18：30～20：30
- 講 師：田岡秀朋事務局長＋佐々木敏明塾長

### カリキュラムやテーマの検討

1月10日に行われた楽塾のテーマでは、これまでの方向でいいのかどうか、今後は何をを目指すのかを塾生の目で検討、企画してもらいました。そこで、まずは第1クールから第3クールまで半年間のカリキュラム表を確認しながら、どんな授業があったのか、どんなテーマで実行されてきたのかを思い出し再検討してみました。その上で、これらのカリキュラムを授業テーマ別に再構成し直しました。それが以下の一覧表です。

#### ●「仕事の回復」という授業テーマ

月日（曜）	授業テーマ	①授業タイトル ②講師名	備 考
6月28日（土） 29日（日）	仕事の回復	①田植えに行こう！ ②奈良市大柳生：南垣内さん	直前開校行事 （1泊実習）
8月10日（土）	仕事の回復	田畑草刈作業 ②奈良市大柳生：南垣内さん	畑の整備
10月26日（日）	仕事の回復	①稲刈り・サツマイモの刈り入れ ②奈良市大柳生南垣内さん	収穫祭
JR奈良駅前08：00集合			

#### ●「コミュニケーション」という授業テーマ

月日（曜）	授業テーマ	①ほめ活かしの言葉 ②渡辺梅子（セラピスト）・大谷浩子（コピーライター）	備 考
7月12日（土）	コミュニケーション		会話を楽しむ

#### ●「記憶」という授業テーマ

月日（曜）	授業テーマ	①住まい大発見 ②若松 司（市大大学院）	備 考
7月19日（土）	コ ラ ボ 幼年の記憶		心の地図づくり
	鉄道の記憶	①てっちゃんの大冒険 ②水内俊雄（市大教授）	鉄道の記憶
9月6日（土）	記憶の確認	①hidarimakiの音楽で履歴書づくり ②佐々木敏明（塾長）	あの時君は若かった

#### ●「心の回復」という授業テーマ

月日（曜）	授業テーマ	①花のある暮らしはいかが ②福田久美子（榊美校工業専務）	備 考
7月26日（土）	心の回復		華ある人生
8月2日（土）	心の回復	①死んでからのお楽しみパート1 ②川浪剛（僧侶）	生老病死
8月16日（土）	心の回復	①合同慰霊祭 ②前山村雄（僧侶）・川浪剛（僧侶）	地域と結ぶ
9月13日（土）	心の回復	①死んでからのお楽しみパート2 ②川浪 剛（僧侶）	極楽浄土の旅
10月11日（土）	心の回復	①死んでからのお楽しみパート3 ②川浪 剛（僧侶）	タブーに挑む
11月8日（土）	心の回復	①子どもの存在 ②和久貴子（NPOワークレッシュ代表）	子育て支援の立場から
11月15日（土）	心の回復	①カッコいいスタイル ②山口明香・森田智保（りぶら代表）	自分流の服を考察する

●「健康の回復」という授業テーマ

8月	9 (土)	健康の回復	①おいしさを一人占め！ ②みゆきちゃん (調理師)	安い食材でうまい料理を
10月	4 (土)	健康の回復	①空手 ②藤原敦子 (ながはし空手サークル)	体育祭
11月	1 (土)	健康の回復	①おいしさをひとり占め！パート2 ②みゆきちゃん (調理師)	実践料理 (うまく食材を使う)

●「貧乏は価値転換の原動力」という授業テーマ

8月	23 (土)	貧乏は価値転換の原動力	①生活保護って何だろう？ ②Mrアマゾン (元大学教官) + 生保者2名	当事者とのパネルディスカス
----	--------	-------------	---	---------------

●「映像の記憶」という授業テーマ

9月	20 (土)	映像の記憶	①まぼろしの光を追い求めて ②富岡和代 (元映画サークル代表)	映画講座と鑑賞
----	--------	-------	------------------------------------	---------

●地図を読む／鉄道と熊野という授業テーマ

9月	27 (土)	地図を読む／鉄道と熊野	①ふるさと再訪てっちゃんの冒険列車 ②水内俊雄 (大阪市立大学教授)	幼年・鉄道の記憶パート2
----	--------	-------------	---------------------------------------	--------------

●「性のアイデンティティ」という授業テーマ

10月	18 (土)	性のアイデンティティ	①おとことおんなの間には ②F= Mrアマゾン (元大学教官) P= 朝美・J・N	ニューハーフ・ゲイ・ホモセクチャー
-----	--------	------------	---	-------------------

●「音楽でリズム」という授業テーマ

10月	25 (土)	音楽でリズム	①ボビーでライブ！ ②井上比登美 (楽塾スタッフ)・ボビー (オールド・グラフィティオーナー) ほか	ライブハウスで音楽祭
-----	--------	--------	---	------------

●「数のあそび1」という授業テーマ

11月	22 (土)	数のあそび1	①カマを数字で考えよう ②川浪 剛 (僧侶)	計算の練習
12月	6 (土)	数のあそび2	①熊野までの距離と費用 ②佐々木塾長+田岡事務局長	

●「自己表現」という授業テーマ

12月	13 (土)	自己表現1	①仮面舞踏会1・2	仮面の制作
20 (土)	自己表現2	②清 真人 (近畿大学教官)	仮面を使って	

授業テーマは「自己表現」。授業タイトルは「これからの授業を企画する」ということで、田岡事務局長と佐々木が担当しました。N君が友人を連れてきてくれ (新入生) 塾生が増えました。塾生8名、スタッフ3名 (井上・田岡・佐々木) の11名でした。



## 第1部（佐々木）

それぞれの授業テーマを検討する中で、苦手な科目、受けたくない科目、興味がない科目や苦手な教官などの有無を聞いて見ましたが、それらは取り越し苦労で、塾生全員は、授業そのものに大きな関心を持ってきていたことがわかりました。授業をテーマごとに分類し、それぞれの代表的なコメントを記録しておきます。上記一覧表を参照してください。

### 「仕事の回復」という授業テーマ

#### ◇農作業

●農作業は健康の回復につながった●モノをつくる喜び、待つ喜びを味わえた●自分が作ったという喜びが大きい●西成で米作りがしたい。

### 「コミュニケーション」という授業テーマ

#### ◇ほめ活かしの言葉

●人の良いところを発見できた●なにより面白かった●素直な気持ちで話す練習になった●自分の殻に閉じこもらず心が開ける。

### 「記憶」という授業テーマ

#### ◇住まいの大発見／てっちゃんの冒険列車・地図を読む／鉄道と熊野

●子どもの頃を思い出しノスタルジーに浸った●時代が変わると風景が変わる。

#### ◇H i d a r i m a k i の音楽で履歴書づくり

●アナログレコードの量がすごかった●また聞きたい。

### 「心の回復」という授業テーマ

#### ◇花のある暮らしはいかが

●リラックスできて楽しかった。

#### ◇死んでからのお楽しみ1～3および合同慰霊祭

●死ぬのが怖くなる。

#### ◇子どもの存在

●かき玉汁の話が強い印象に残っている。

#### ◇かっこいいスタイル

●言葉が不要だと思った●仮装行列や、衣替えの時期にここでまたしたい。

### 「健康の回復」という授業テーマ

#### ◇おいしさを一人占めパート1～2

●毎月でもやりたい。●必修でやりたい授業

#### ◇空手

●やめて欲しくない。体力限界があるので1～2ヶ月に1回くらいがいいかな●ヨガなんかもいい。

### 「貧乏は価値転換の原動力」という授業テーマ

●授業内容として一番濃い内容だった●積極的に考えることが出来た●医療保護を受けているので、生保をはずされたらどうなるのか不安だった。

### 「映像の記憶」という授業テーマ

●映画は楽しい●映画館でやらない作品ならもっといい。

### 「性のアイデンティティー」という授業テーマ

●人間愛を感じた●色々な人たちがいてるんや。

### 「音楽でリズム」という授業テーマ

●呑んで騒いで楽しい。

### 「数のあそび1～2」という授業テーマ

●ついでにダービー検討会なんかもしたらエエなあ。

## 第2部（田岡）

後半は、これからどんな授業を始めればいいのかをみんなで企画してみようということになり、田岡事務局長が作成した企画メモに従ってみんなで検討しました。企画メモのひな形は以下の通りです。

	仕事の回復	健康の回復	心の回復	第4の回復、或いは何か
学びたいシリーズ				
知りたいシリーズ				
遊びたいシリーズ				
教えたいシリーズ				
その他				

この時間は給食を兼ねて、おしゃべりをしながら企画を練ろうということになり、急きょ机・椅子などを移動し、リラックスした状態で検討を行いました。アイデアや企画というより、これまでの取り組みの評価がたくさん出て、それだけでかなり参考にはなりました。川浪僧侶などは表ざっしりとメモ書きし、欲深さをあらわにしていました。

そんな雰囲気の中、これからしてみたい講座として、4人のお馬さん好きの塾生が講師になる「ダービー直前競馬予想」はどうかという意見が出ましたが、ただ単に競馬の予想を発表するだけではつまらない。前半は「ギャンブルの確率論」の話をしてから、後半に予想を発表するという、「学び」と「遊び」が結びついた授業はどうかという案が出ていました。

また、塾生に男性が多く、どうやって「女性の塾生を増やすか？」ということを実際に話し合いましたが、なかなか妙案はなく、これからも継続して考えるテーマとなりそうでした。

これらのやり取りでは、企画メモのようにはっきりとした授業区分はできませんでしたが、これまでの授業が「楽塾⇒塾生」の形とすれば、「楽塾⇄塾生」の形が4月からの授業に活かせるのではと期待が持てました。

### おわりに：＜原動力＞を楽塾の理念に——塾長の提案

まとめてみたあとで、もっと幅広くカリキュラムを展開していくことも可能だと思いました。

楽塾の理念は、総合学習を通じ＜回復＞の学校をつくることです。そして＜回復＞とは——心の回復であり、健康の回復であり、仕事の回復——でした。授業はこの3つの＜回復＞を踏襲して構成され、23回の授業はすべてこの範疇のなかで実践してきたわけですが、しかし、たとえば「貧乏は価値転換の原動力」「映像の記憶」「地図を読む／鉄道と熊野」「性のアイデンティティー」「数のあそび」などなどの授業は、これらのカテゴリーとは違ったユニークさを持っていました。それはより社会的課題や問題性を帯びたもの、基礎的学科の学び、メディアなどに分類されたものではないでしょうか。それらすべてにわたり、総合学習という視点を失わずにきたのですが、3つの＜回復＞に加え、回復の原動力となるスピリッツともいべきものが、これらの授業にはあったように思います。そこで回復を支える＜原動力＞を新たな楽塾理念として加えてみたらいかがかと塾長は考えました。応援団のみなさんも楽塾の方向性について頭をひねっていただければ幸いです。

#### 楽塾第25回授業

- 授業テーマ：心の回復
- サブテーマ：故郷への旅。映画を見る。
- 日時：1月17日（土）18：30
- 場所：くらし応援室
- 講師名：富岡和代さん（元映画サークル代表）

## 楽塾第 25 回目の授業が終わりました。

先日は深夜まで、アメリカ大統領就任式を見てしまいました。アメリカという国もオバマさんにもそれほど関心は薄いのですが、唯一、アレサ・フランクリンが歌うプログラムが見られ、ちょっと得をしました。初の黒人大統領就任に黒人歌手が花をそえるのは当然のことなのでしょうが、就任式もまたエンターテインメントなのだ后感心しました。アメリカはハリウッド映画そのまま、いつもドラマを作ろうとしているみたい。就任式をロックコンサートと見まがうぐらいに、アメリカ人の大統領への親近感と信頼はすごいのです。「オラたちの仲間が国の大統領になったんねっ」とカントリーな感じで、こんな熱狂が、いつのまにかイラクやパレスチナ侵攻を支えもするのですからね。アメリカン・ビューティーの咲き誇ることが世界にいい事なのかどうなのか。いっぺん星条旗を降ろしてみたらいかがですかオバマくん。

### 思惑が外れてしまった！——前半

1月第2回目の授業です。昨年9月に映画の上映をしましたが、その時の講師富岡さんに再度来ていただき、久しぶりに映画の授業をする事になりました。「映像の記憶」というテーマで、あるいは2月に熊野地方へ修了記念旅行もあるので、旅情ある作品をイメージしていたのですが、富岡さんの提案は「上海バスターミナル」という中国のドキュメント作品でした。故郷から上海に流れて滞在する出稼ぎ者たちが、新年を前に故郷に帰るその雑踏の中の群像模様を描いている作品ということで、ちょっとアウンの呼吸を感じてしまいました。

サブテーマを「ふるさとへの旅」とし、当日2時間前富岡さんと打ち合わせをしました。ところが彼女がダビングしたDVDが、パソコンを通してプロジェクターから流れず、映像が写りません。田岡事務局長がやってきて「ひょっとしたら、アナログビデオで接続すればいいかも」という事で、佐々木宅のビデオを取りに行き再生を試みましたがやっぱりダメ。機種的方式が違い互換性も無く無理と分かり、急遽上映作品を変更し、佐々木が最近手に入れたフランス映画「赤い風船」を上映するという事になりました。塾生諸君が集まる頃には何とか修復出来、時間どおり授業が始まりました。富岡さんの推薦作が上映できなく残念でしたが、塾生6人、スタッフ（井上・田岡・佐々木）、講師の10名で上映会を始めました。

#### 楽塾第 25 回授業

- 日時：1月17日（土）18：30～20：30
- 授業テーマ＝映像の記憶
- サブテーマ＝イリュージョンの旅「赤い風船」
- 講師名＝富岡和代さん（元映画サークル代表 不動産会社専務）



## あらいそいごとの無い黄泉（よみ）の国に召される少年

まずは富岡さんから、当初上映プランとしていた「上海バスターミナル」の面白さと、残念ながら上映不可能になってしまったいきさつを説明してもらい、突然の上映プログラムを変更した「赤い風船」の魅力を解説してもらいながら映画鑑賞に入りました。

「赤い風船」のざっとした粗筋は以下のとおりです。——ある朝、少年は、赤い風船が街灯に引っ掛かっているのを見つけ街灯によじ登って風船を手に入れます。意志のあるその風船は、手を離しても、少年の行く先々についていたずらをします。ある日、風船を手に入れようとワンパク少年たちが追いかけて来て、悲劇が起こります。——この映画の素敵なラストシーンには拍手をしたくなります。

- 1956年度カンヌ国際映画祭パルム・ドール受賞。当時世界的大ヒットを記録した。
- 監督：アルベール・ラモリス
- 上映時間：36分 カラー作品

この作品は、擬人化された風船と少年の交情を描き、一見ファンタスティックでピュアな表現として見られがちですが、僕はどうも深読みしてしまうのです。それは、それぞれのシーンに現れる風景としての瓦礫や少年の貧しさは、当時の戦後を写していて、人の心を荒廃させる戦争の陰を見てしまうのです。やっと見つけた心のありか（風船）でさえ、ワンパク少年（戦争）に簡単に踏みにじられる、その怒りが監督の製作原点になっていたのではないか。赤い風船は監督の怒りのメタファーとして存在し、しかし大空高く舞うおびたしい風船と少年は、大人への決別であり、監督の厭世観とも取れるのです。少年は黄泉の国を目指したのかもしれない。これは、その後作られた傑作「白い馬」でも同様の結末をみます。ともに短い映画ですので、見たいと思われる応援団の皆さんは、DVDがありますのでご遠慮なく言ってください。お貸しします。必見ですよ。

## 映画は何を伝えようとするのか——後半

後半は「赤い風船」の印象を話したり、自分の映画歴を話しあいました。「赤い風船」について富岡さんは「昔自分が見た印象はモノクロ映画で、空に浮く風船だけがパートカラーだったとばかり思い込んでいた。今見たら全面カラー作品だったのでびっくりした」と今も信じられない様子で、「赤い風船」のモノクロフィルム説を曲げたくない風でした。僕の所蔵品には当時のフィルムの断片がサービスで封入されていて、それは全面カラーでした。それにしても60年以上も前の作品なのに映像はカラフルで美しさが保存されていました。

少年の着ている服が「どう見てもパジャマやトレーナーのように見える」、「他の小学生と見比べて少年は貧しそうだ」（K君）、少年に付き添うお母さんは「歳が行き過ぎていて、設定はおばあさんに違いない」（Tさん・富岡さん）などなど、興味深い意見が飛び出しました。また、「あの風船はどんな方法で固定していたのか」「あれはピアノ線を利用してるんや」とか、天高く少年が吸い込まれていくのは「人形を使っているのだろう」（田岡事務局長）など納得のいく意見もありました。その他「映画は時代を映し出している。あの風景はまさに戦後の街だ」（T君）とか「母に連れられて行った先はどこだったのかな」（Tさん）、「あの母はおばあさんで、きっと母はいないのだ」（井上さん）とさまざまな意見が飛び交い、「いない理由は戦争でなくなったんだ。そういえばお父さんも出てこない」と想像力が膨らみます。たった40分弱の映画に、たくさんのイメージが風船のように浮き上がってきて、H君が最初に「この映画、何を言いたいかわからん」と言っていたのが、だんだん周囲の想像に溶け込んでいくのが見えました。

いつものように給食を頂く時間には、自分たちが少年・青年時代に見た映画の話になり、特に昭和の20年代前後に生まれた人たちは、中村錦之助・石原裕次郎・小林旭など懐かしい名前が出るだけで、顔面がほころんでいました。今池平和寮相談員のTさんは子どもの頃、映画館ではしゃいでいて父親にどやしつけられた思い出を語り、全員が大笑いをしました。

映画を見るだけで話題が膨らむのは、映画が風船のように、誰かがつかまえてくれるのを待っているから

です。

今週は「カマヤん」でおなじみの漫画家ありむら潜さんが来てくれます。寄場である「釜ヶ崎」の歴史と、「カマヤん」の活躍を話してくれる予定です。お楽しみに！

#### 楽塾第26回授業

- テーマ：昭和回想
- サブテーマ：カマヤんは何才になったか
- 講師：ありむら潜氏（漫画家／大阪社会労働福祉センター労働福祉係長）
- 日時：1月24日（土）18：30～20：30
- 場所：くらし応援室＝楽塾

## 楽塾第 26 回目の授業が終わりました。

大寒の昨週はわずかに雪が降りました。しかし降り積もることもなく、雪投げの遊びはもう遠の昔になりました。しんと降り続く雪の記憶は、こことは違う、もっと隔絶した北国の地方や外国の映像記憶の中にしか見あたりません。立春までもうすぐとはいえ、これからが寒さの本番です。楽塾応援団の皆様、風邪などに気をつけてお過ごしください。

### カマのゆるキャラ、カマの 30 年を語る。

60 年代はじめ、釜ヶ崎に「西成労働福祉センター」が設立されました。西日本最大、日雇い労働市場の一大拠点（寄場）として動き始め、大阪で始まった 70 年の日本万国博覧会から数年を経て、ありむらさんは当センターに就職します。以後、日雇い労働者たちの労働相談や求人などを多面的に支え、広報的に始めた漫画の仕事が、カマヤンというキャラクターを誕生させることとなります。78 年誕生から現在まで 30 年以上を経過したカマヤン。今回はカマヤンというキャラクターの目を通し、釜ヶ崎、あるいは社会の世相をありむらさんに話してもらおうと思いました。塾生 6 名、スタッフ 3 名（井上・田岡・佐々木）、講師の 10 名でスタートしました。

#### 楽塾第 26 回授業

- テーマ：昭和回想——カマヤンは何才になったか——
- サブテーマ：カマヤンは何才になったか
- 講師：ありむら潜氏（漫画家／大阪社会労働福祉センター労働福祉係長）
- 日時：1 月 24 日（土）18：30～20：30
- 場所：くらし応援室＝楽塾



### カマヤンのくらしは社会の断面を示す

「カマの仕事量が半分に減りました」。開口一番、ありむらさんからの話しは、日雇い仕事の大幅な減少話題でした。センターでの求人相談など、前線情報をキャッチする立場としては、現在進行中の世界不況、派遣切り、内定取り消しなど、カマものっぴきならない状態に置かれているのは同じだ、と伝わりました。そのセンターに入り、広報宣伝チラシなど作成する際に、漫画を描きはじめてのが動機で、最初は「漫画入門」という本を購入し初歩から学んだと言います。「カマの現実問題をよく知りもせず、無謀なことをし、恥をさらしながら来た」「関東の人たちから、こんな問題をよく漫画にするなあ、と言われるが、これは多分東京、大阪文化の違いなのかなと考えます」など、自作品を紹介しながら話してくれました。

「これまで単行本をたくさん出してきたが、この中から、今回ピックアップしてみて 70、80 年代など、



時代や世相、仕事のあり方が変化しているのがよくわかった。現場を振り返る材料として、自分自身のためにも、今回のプランを考えさせてくれた楽塾に感謝している」と言ってくれました。こうして、前半はこれまでの作品をセレクトし、スライドショーとしてプロジェクターで映写しました。

70年代の「何の工事？」という作品では、僧侶がカマヤんたちに仕事を発注します。完成すると同時に、僧侶は「入れてやらないからね」と言って核シェルターのドアを閉めてしまう。作業する自分たちは、現場でなにを作っているのかわかっていない、というブラックと、当時のアメリカの核開発への皮肉を描いています。「休業補償」では友人がケガを治して退院して出てくる。それを見てカマヤんは「いいな、仕事が出来て」と励ますが、その友人は労働保険の休業補償金が出ずにショックを受けてる、という話しです。つまり病院で居るほうがラクという、制度への皮肉ですね。この漫画の解説時、塾生の何人かは「自分も同じ経験がある。病院に入ったらお金が貰えるなんて想像もしなかった。だって働いていた時は、いつも自腹だったのにな」。また飯場の話題がテーマとなる作品も多いが、一部雇用側の悪辣な作法は今もあまり変わっていないのです。

トンコ（通走・逃走）の作品も多く、トンコの話は結構花が咲く。塾生のM君が当時いた飯場では、「毎日2～3人はトンコしとった」と言ってる。その他、80年代ちょっと信じられないけれど、中近東への土木工事の出張飯場仕事があったという。「それにしても70～80年代にかけては、牧歌的な時代だった」とありむらさんは言うのです。

カマヤんにはモデルがいたと言います。キャラクターのように、姿かたちがよく似てほがらかな、しかし、彼は被爆者であったと言います。その人物に加え、いろいろな人物たちのエキスが混じって、カマヤんというキャラクターが成立しているようです。また「カマヤん」という名前は、現在の社会医療センター創設の源を作った、本田良寛さんが名付け親だったという事です。

最近のカマヤんは、野宿生活を通して自然児になりつつあるらしい。「カントリー・ロード」、「缶トリー・ロード」と歌いながら、人はこれまで働いて来たのだが、近頃は、それがなおざりにされている。人間同士、家族間、社会的にもそんなつながりが薄くなってきた。これからのカマヤんに、どんな活躍をさせるのか。ありむらさんは、畑を耕す自然児にしたいなあ、と言いました。

楽塾の最終目的は、自分たちの食べるものは自分たちで作りたいたいというのが望みであるので、ここはありむらさんと一致しました。

漫画を素材にして、人間・社会・仕事・心などの問題が展開しました。楽塾のコンセプトが奇しくも網羅された授業になりました。ありむらさんに感謝いたします。ありむらさんも「自分の作品を改めて見直す機会になった」と感銘を受けていました。

## 今週の楽塾メニュー

早いもので、新年を迎えもうひと月になろうとしています。その月の最終日、あるいは月の終わりごろをつごもり（晦日）と言います。今月のつごもりは31日。大阪市立大学都市プラザ研究員の稲田七海さんがトリとなり、これまで研究の合間にストックしてきた、離島や辺境の人々のくらしを、旅情にひたりながら聞かせてくれます。

### 楽塾第27回授業

- テーマ：人間ドキュメント——最果ての人々。日本の辺境を旅する——
- 講師：稲田七海（大阪市立大学都市プラザ研究員）
- 日時：1月31日（土）18：30～20：30
- 場所：くらし応援室＝楽塾

## 楽塾第 27 回目の授業が終わりました。

### 旅が近くなってきた

旅の計画というものは、夢想している間は甘美で楽しいものですが、決まってしまうと、あとは手続き作業に神経が優先してしまいます。たとえば、私たちの「熊野巡り」については、低予算を一番のポイントにしておきました。しかし、参加者の集まりが予想外に少なく、借り入れるバスの料金は最低これだけと決まっ  
ていて、経費の削減をどうするか、1泊2日の強行スケジュールで、たくさんの景勝地を見たいと思いつつも時間的制限にさいなまれる、ツアー会社とのスケジュール折衝や、食事休憩場所でのメニュー選定や予算など気配りの連続です。僕は、普段計算を立てずに旅をするものだから、団体ツアーの難しさを実感しています。とはいえ「楽塾修了記念旅行」はよいよ来週に迫りました。やっぱり楽しみです。

27 回目の楽塾は、稲田七海さんがライフワークとする「辺境の旅」の、ユニークな“旅情”を実感する授業になりました。旅の気分がざわめいてきましたよ。塾生 11 名（うち近畿大フィールドワークとして 3 名）、スタッフ 3 名（井上・田岡・佐々木）、講師稲田さんの 15 名でスタートです。

#### 楽塾第 27 回授業

- テーマ：人間ドキュメント——最果ての人々。日本の辺境を旅する——
- 講師：稲田七海（大阪市立大学都市プラザ研究員）
- 日時：1月31日（土）18：30～20：30
- 場所：くらし応援室＝楽塾



### 日本全土を踏破する？——前半

稲田さんは、B3判の都道府県名が入った白地図を塾生に配り、①自分が行ったことがあるところ（ちょっとでも足を運んだ場所） ②自分の生誕地 ③出生地以外で一定期間仕事・勉強などで住んだところを、①から順に色別で白地図に塗りこむように指示しました。

①では、関西を中心にして沖縄を含む西日本への旅（仕事・遊び）の分布が多く見られ、北海道へのポイントも多いようですが、東北地方が極端に少ないという結果が見られました。また日本のさまざまな地を旅した度数では、20数回という人たちが一番多かったようです。田岡事務局長のように50回以上というジブシーもいました。

②生まれた場所では、大阪を中心として関西圏者が半数以上を占め、あとは西日本（九州・中国・四国地方）と分散しています。I君のように、東北地方（岩手県）というケースもありました。

③に関しても、①と同様東北地方は比較的少なく、関東から西に流れる傾向が強いようで、純粹旅行もありますが、一定期間その場所で派遣仕事をしたり、飯場があってその場所で暮らしたという塾生が多かった

です。たとえば福井の原発に働いたという塾生もいます。なぜ東北地方が少ないのかは疑問でしたが、稲田さんは、北海道への雪のロマンと南国への憧れが集約されているのではないだろうかと話していました。また海外旅行への話題にもなり、前科を持っていたため渡航ができなかったという塾生の話は、みんなの興味を引きました。

そして、いよいよ稲田さんの「わたしの旅」の本質に近づきます。稲田さんは「端っこのひとびと」「端っこの暮らし」が大好きです。単なる端っこ好きだといいますが、その端っこは島・半島・境界など「辺境」に向かいます。＜そこには何かありそうな気がする。自分の知らない世界があるんじゃないか。そんな辺境で、どんな暮らしをする人たちがいるのだろうか＞。そんな興味なのです。そこは普段の場所とは違う雰囲気、磁場を持っているのではないか、独特な文化を生む場所ではないかと言います。

日本の半島は53ヶ所、離島は4000島あるそうで、離島のうち人が住んでいる島は約300～400ぐらい。橋が架かり地続きになってしまうと島とは呼ばないらしい。離島の代表的な場所として、彼女は南西諸島にあるトカラ列島について話をしてくれました。その前に、地図上でトカラ列島とはいづこに存在するか、ということで調べてみることにしましたがなかなか正解が出ませんでした。

そして、平家の落人たちが逃れてきたと伝えられる島であり、稲田さんが乗り込んだ島「悪石島」について語られます。人口約670人。島には商店が1軒しかなく、日用品の注文はすべて村営の定期船に頼る。定期便とはいえ時刻表がない。海上がシケたり気象が不安定なため定期的に船が動かないのだそうです。日本一不便な島「悪石島」に、さまざまな理由で渡航してくる人々（教師・医師・行政職員ら）のドキュメントビデオ（約10min）を見ながら悪石島への予備知識を学びました。

### 悪石島の呪い？……後半

それにしても、何故こんなオドロドロしい名前をつけたのだろう。稲田さんは「平家の落ち武者たちが、遠く南の果てまで逃げ延び安息の地と定めたいので、敵へのけん制として忌み嫌う名称をつけたのではないか」と解釈していました。後半は、稲田さんが悪石島でとり貯めていたビデオを見せながら話してくれました。この島の仕事は日雇いか港湾労働が多く寄場もあるのだそうです。民宿といっても観光目的の宿泊所ではなく、作業労働者がおもなお客らしい。島に高校はなく、中学を卒業すると親元を離れ、本土や奄美の高校に進学し、卒業後島に戻る子どもたちは少ないといえます。

ここからビデオはハイライトになる悪石島の年中行事「ボゼ祭り」に移っていきます。旧暦のお盆の時期に行われる独特の仮面劇です。パプアニューギニアに見られる仮面神によく似ているらしいのです。ボゼとは、現世の悪霊たちを退治するために現れる神様のことで、ボゼは赤土のついたマラ棒を持って、島の人々にその赤土をつけて回るのですが、この赤土は悪霊払いのご利益があるとともに、女性にとっては子宝が恵まれるそうです。選ばれた島人がこの仮面を作るところから始まり、完成した2mもある仮面を装着しシュロの葉で体をまとい、盆踊りを楽しむ人々の真っ只中に分け入り、赤土を付けながら追いかけてまわすのです。この間、神官が楽器で独特のリズムを刻みながら、悪霊退散の演出を続けます。

この場面は圧巻で、若い女たちは逃げ惑い、子どもは泣き叫び、阿鼻叫喚の体なのですが、恐怖の巨大仮面神の表情をじっくり見てみるとユーモラスだし、神事そのものがゾンビの饗宴のようににぎやかで、祭事に立ち会うと、本当に悪霊が退散する満足感がもたらされたような気がするのではないかと感じてしまいました。さすが悪石島は、名にし負う島だと思いました。塾生のさまざまな体験や経験が飛び出し充実の3時間を終わりました。

今週は旅を支える人たちのドラマです。旅人たちが豊かな旅の印象を残すために、旅の楽しさを陰で演出してくれる人たち。それがホテルに従事する仕事人です。そのプロの仕事にスポットを当ててみたいと思いました。ホテルプラザ神戸総支配人の野本哲平さんを講師に、ホテル業務や旅人には見えない逸話を話してもらいます。

**楽塾第 28 回授業**

- テーマ：人間ドキュメント——ホテルマンの仕事——
- サブテーマ：旅を支える人たち
- 講師：野本哲平（ホテルプラザ神戸総支配人）
- 日時：2月7日（土）18：30～21：00
- 場所：くらし応援室＝楽塾

## 楽塾 28 回目の授業が終わりました。

### 春遠からじ

2月は如月。新年を迎えてから早いもので、もうひと月と半ばになりました。むしろ寒さはひとしお身にしみる季節です。先日、指定管理者制度委託のかかわりで、河内長野に行ってきました。市内から車で1時間も走ればもう山々が迫り、農作業するお百姓の姿も見えました。5つの府営公園をめぐる中、4公園の周縁にお寺がありました。公園計画の際は有名寺院もあり、公園と寺院を組み合わせて整備されたものだと考えられますが、それでも人々の暮らしの中にお寺が身近にあることを再認識しました。

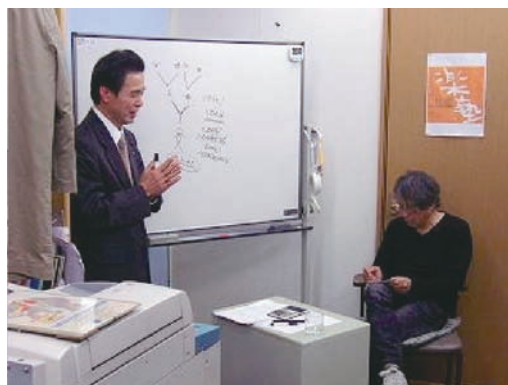
楽塾の授業にも、信仰や神仏を学んでみようとする授業を何度か試みてきましたが、その延長線上に「熊野詣で」が計画されたのです。今週後半はその旅に出発します。

山すその蛇行する川に沿って、きれいに築きあげられた棚田の風景は、全体にくすんだ枯葉色に見えますが、もうすぐやってくる緑の季節を準備するように、お百姓が黙々と作業を営んでいました。

寡作なる人の二月の畑仕事（登四郎）

#### 楽塾第 28 回授業

- テーマ：ホテルマンの仕事
- サブテーマ：旅を支える人たち
- 講師：野本哲平（ホテルプラザ神戸シニア・ディレクター）
- 日時：2月7日（土）18：30～21：00
- 場所：くらし応援室＝楽塾



### ホテルマンという仕事——前半

「おはようございます！」。野本さんの最初の言葉です。塾生諸君たちも「おはようございます！」と大きく挨拶に応えました。野本さんはこの絶妙のタイミングにちょっとびっくり。しかし「どんな時間帯でも『おはようございます』、というのは私たちの職場で使う挨拶です。これを幕内言葉といいます。この時間帯にかかわらず、皆さんも一緒に元気に挨拶いただき嬉しいです」と笑みで返しました。

野本さんは、これまで総支配人としてホテルプラザ神戸を見守ってきましたが、現在はシニア・ディレクターとしてホテル業務の顧問・アドバイザーとして活躍しています。

特に総支配人時代は携帯を離さなかった。どんな時間帯にも現場から連絡があるので必携なのです。理不尽な人や言いがかりをつけてくる人、暴力的な人にも遭遇してきた。「だから覚悟を決めて作業に入る」といいます。

20代の後半、豊中で少林寺拳法の練習を始めた。ここで佐々木と初めて出会い2人とも2段まで取った。

この出会いがなければ今日の授業もなかった。少林寺は「守主攻従」の思想を持つ武道で、人をやっつけるためのものでなく自らを守るためにある、というところが気に入った。野本さんは「自分自身の仕事に役立てるために武道を選んだ」と動機を話してくれました。

「この楽塾に来てすごく雰囲気が素晴らしいと感じました」。それは自分の仕事場では人を見る目が養われるため、ここでも「塾生たちの表情がいいのがよくわかる」のだそうです。塾生諸君おめでとう！「学びを知識だけにとどめず、学んだことを生活の実践として生かすことが大切だと思います」。そういいながら野本さんの本題に入っていました。それは人の資質にかかわることでもあります。人も知る著名な人があるもしないトラブルでホテルに言いがかりをつけたり、有無を言わず暴力に訴えてくる客、なん癖をつけて金銭を要求しようとする客、食事後汚しまくって退散する客など、客の不寛容に忍従を強いられ、理不尽さにやめてしまいたいこともある。ドラマのようなシーンを想像するかもしれないが、まったくイメージが違う。

反面喜びもあるのでやってこられたと思う。「ある知的障害者施設の子どもたちが来た時、食前食後の礼儀が素晴らしく、最後は私たちホテルマンにお礼の感謝状をくれたことは大きな印象になって嬉しかった」と言います。最近は小さいころから英語の勉強を必須にする傾向があるけれど、肝心なことを教えることを忘れている。たとえば人と人との挨拶、人を認めること、感謝の気持ちを表すことの3要を忘れてはいけない。先ほどの子どもたちが『いただきます』と言うのは感謝のこと。生き物として感謝の念を祈ることだ。英語などは自分が必要なときに学んだらいい。私はホテルマンになって必要上英語を学んだのです。何を優先するか問われているのではないのか、今の世の中は本末転倒と野本さんは考えるのです。

## 2の10乗の意味——後半

後半は、野本さんから算数計算が出題されました。

2の10乗、2の20乗、2の30乗を計算しなさいというものです。何かよくわからないまま $2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times \dots$ とやり始めました。2の10乗では1,024、2の20乗では1,048,576、2の30乗では1,073,741,824と答えを出しましたが……何か？

これは、1人の人が持つ二親を何世代にもさかのぼって計算する計算式なのです。1人の人の先祖を仮に10世代昔にたどると1,024人存在したことになるということです。同じく20世代昔にたどると1,048,576人、30世代にさかのぼると1,073,741,824人の人たちが存在したという計算になります。「自分の生命を支えてくれている人たちがたくさんいて、生命の驚きを感じてくれるはずです」。野本さんはそこから、遺伝子工学のプレス、ミトコンドリアの話題になり、XY・XX染色体の流れでアダム・イブの誕生や、人類の起源がアフリカであることなどを解説していきました。

その上で自分が今置かれていることを受け入れ、天が私に与えてくれたことを受け止めて幸福になれるようにしたい。そして労働の大切さを感じたい。「清掃作業はホテルの大きな要素であり、肉体労働のきわみでもあります。客室の維持・美化を旨とし、一定の存在価値を見せ続けなければならない仕事なのです」。「皆さんの中には清掃業務をされる人たちがいて素晴らしいと思いました。私もよく客室トイレの清掃をしたものですが、ものを洗い磨き、心を洗い磨くこと、与えられた仕事を一生懸命することこそ大事な心がけだと思います」。

最後は人生訓につながる話になりましたが、塾生は熱心に耳を傾けて聞いていました。

塾長と野本さんとの出会いの逸話は正直恥ずかしかったのですが、これがなければこの授業も成立しないわけですから、やはり歴史は貴重なのです。真面目な野本さんのお話は、ろくでなしの塾長にとっての薬でありました。野本さんご苦労様でした。

今週土曜日はいよいよ「修了記念旅行」です。夢のような話が現実化していき、とうとう数日後は熊野出陣

です。締め切り間際には22名となり、大所帯となりつつあります。参加者の皆さん風邪などに注意して14日を迎えましょう。朝は早いので遅刻のないよう塾長から切におねがいです。

**楽塾第29回授業 修了記念旅行**

- 行き先：熊野詣、中辺路巡り
- 日 時：2月14日（土） 7：00 西成長橋3丁目ビアン前出発。
- 2月15日（日） 21：30 帰阪
- 宿泊地：小口自然の家

## 楽塾 08 年度修了記念旅行（29 回目授業）に行ってきました。

### 楽塾集大成の旅

楽塾がプレ開校を始め6ヶ月を経過しました。4月からの本格開校に向けて、新たな計画づくりに専念していく決意です。今回29回目となる授業のテーマは旅です。先週の2日間、今年度「楽塾」の修了記念となる新宮を中心とした「熊野三山巡り」をしてきました。特に熊野・新宮は、両日とも快晴のうえ記録的な暑さでまさに初夏の気象でした（水着を持っていけばよかった！とは塾生の弁）。この旅に感じた参加者の印象は「ムッチャ気持ちのええ旅を満喫！」でした。極楽浄土の国熊野に憧れを抱きながら、やっとその日を迎えたのでした。

2日間の旅のあらすじをレポートします。

#### 楽塾第29回授業 修了記念旅行

- 行き先：熊野三山巡り、中辺路巡り
- 日 時：2月14日（土）～2月15日（日）
- 宿泊地：小口自然の家

### 楽塾授業「死んでからの楽しみ」がここへ来させた——1日目

徳島からフェリーで来る予定の「新しい自立化支援塾」代表森本さんが、渡航寸前大シケで欠航となり、急遽バス便で来阪するというアクシデントで、前夜から驚天動地の事態でした。しかし、翌日は汗ばむ位の暖かさで、それぞれ参加者は午前6時30分到着のバスに乗り込み始めます。予定を約20分遅れ、7人が待つ次の集合地三国が丘駅をめざしました。こうして大浜インターから一路熊野路に向かうのですが、実は出発時参加者が増え、中型バスが満席状態になってしまったのです。そこで田岡事務局長の判断で、彼のマイカーを登場させ2名分と大きな荷物をそちらに載せることにしたのです。これは正解でした。紀ノ川サービスイリアでリプラの森田さんを乗せ、これで全員車中の人となりました。

高速道26号から42号へ、出発時から水内先生のガイドが冴えます。高速途上の自治体の台所事情までが話題になりました。例えば忠岡町は、いまだ他地域と合併せず町のままだが、有力企業の収入が自治体を潤していて合併の要がないとか。G市は生活保護所帯がかなり高いなど、極楽への道というより極貧の道という話題でバスは走ります。湯浅町は醤油の町として有名。みなべ町は梅の産地で薄桃色の花が咲き始め、高速道路上からは梅林の眺めがあちこちに見られました。バスは高速を降り田辺から中辺路に向かい、富田川を従え熊野古道を宿す山中に入り、旧熊野川町を境に山はますます幽谷の色合いを深くします。それにしても悠々たる曲線を描いて蛇行する熊野川の荘厳さ、水面に浮かぶ白い中洲の優雅なたたずまいが本当に素晴らしい。次から次に現れる熊野の山々の形状や表情の豊かさがまさに極楽浄土そのもの。水内先生の話では、これらの山々は火山岩である玄武岩で、独特の石柱を立てたような形状を形成するようです。

田辺市の「熊野本宮大社」に到着したのが11時過ぎでほぼ予定通りの行動です。すでに、このたびの協力者である新宮市職のお2人が到着していて、まずは食事処「しもじ」で一緒に昼食をしました。本宮大社は、全国3000以上もある熊野神社の総本宮で、明治22年、大斉原（おおゆのはら）の旧本宮の社殿の大半が熊野川の大洪水で流失したといわれています。かろうじて残ったいくつかの社殿を、現在の高台に移転したのが現在の本宮なのです。写真などでよく知られた参道を登りながら、古色蒼然とした社殿に参詣しました。このころから参加者の何人かが花粉症を発症しだし、かく言う私もくっしゃみの連発となりました。霊気を感じながら、しかし神は花粉症までを排除してくれなかった…のだ。





本宮からわずかに離れた大斎原は、熊野川本流と2つの支流が合流する中洲にありました。旧社地には30 mを越す石柱の大鳥居がそびえ立ち、すごく頼りがいがあるように見えました。参加者たちは口々に「こんな川のはたにお宮さんを建てたら、そら水に流されるで」「ほんまにそやな」などとバチあたりな会話に花を咲かせておりました。この杜の中には小さな石祠があり、ここが旧本宮跡だと説明されました。前山僧侶がなにやらあやしげな様子で石祠の周りをうろついているので聞いてみると、「ここではあまり霊を感じない。この場所は本宮の場所ではないのでは」といいます。なるほど、なるほど、わしはようわからんが。僧侶の勘はずごいのかも。



市職員の車に先導され13時40分ごろ新宮市内に入り、そして「熊野速玉大社」に到着です。速玉大社は熊野川を背にし、周辺には新宮城や市民会館などが並びます。「この辺の家屋は大戦中に米軍空襲で爆撃を受け、戦後に建設された家並みばかり」（水内談）だそうです。速玉大社は朱色で統一された社殿で、「いざなぎ、いざなみのみこと」など十二の神々がまつられ、「新宮十二神大権現」とも呼ばれています。観光客がたくさん来ているこの境内には、新宮出身の文学者佐藤春夫の東京での邸宅が、記念館として復元されています。モダンな洋館建ては、やはり新宮輩出の建築家西村伊作の作品でした。



速玉さんから「神倉神社」までは車で10分くらい。2月6日は、「山は火の滝下り竜」と歌われる「お燈(とう)まつり」で、実はこの祭りをメインに今回の旅行を企画していたのですが、日程的に無理なために断念した経緯があります。500以上もある苔むす石段を、松明を持つ2000人もの白装束の男たちが、いっせい

に駆け下りるといふ壮絶な祭事です。来年こそ是非行って見たいと思っています。まつりの熱気が残る石段を杖を借りて上りました。神倉山の頂上付近、石段を上りきると巨大なゴトビキ岩が社殿を守るようにそそり立っています。神倉神社は高倉下命（たかくらじのみこと）を祭神としますが、神武東征伝説では「やたがらす」と同様、ヤマト王権に恭順したと思われる人物です。もともとは熊野地方の有力者であり物部氏のゆかりの人ではないかと考えられます。この神倉神社からは新宮市内が一望できました。



このあと「新宮城（丹鶴城）址」の長い石段を上り（「また階段かいな！」という声あり）城内を散策、熊野川および三重県境を眺望しました。この城には日本一短いケーブルカー跡（82 m）が残っていました。城下から城内の公園までの距離を利用したのでしょうか。そしてこのあとJR新宮駅前にある「徐福公園」に遊び、鯉に餌をやったり、園内の物産店を覗く人たちもいました。秦の始皇帝の命で、不老不死の薬を探し尋ねる途中でここにたどり着いたという徐福さんの墓がありました。誰かが「竜宮城みたいやな」というほど正面玄関は極彩色で、ちょっと中華風エスニカルな雰囲気が漂う公園でした。



16時30分、徐福公園を最後に新宮市郊外（元熊野川町）へ戻ります。本日の宿泊地「小口自然の家」までは30分の距離です。その前に熊野川温泉「さつき」に入湯し、暑かった1日の汗を流しました。小口自然の家には温泉がなく、ここでたっぷり筋肉をほぐすことにしたのです。18時10分宿泊地に到着し、運動量たっぷりです空腹になったおなかを、ボリュームたっぷりの夕食で補いながら、しばし贅沢で満足な時間をいただくことが出来ました。

19時40分からは「熊野曼荼羅」絵解き話を聞くため、熊野比丘尼さんを予約していたのです。曼荼羅絵図の1枚目は「熊野観心十界図」で、この曼荼羅は正直怖い絵です。人間の無知、強欲、犯罪、嫉妬、無慈悲、人非など悪行を重ねた者は必ず地獄を見るものだという説教絵で、現在の自分はどの過程にあるのかという人生の盛衰を描いている絵もありました。血の池地極、針地獄、皮ハギ地獄などあらゆる罪の行いに対する罰のメニューが描かれてもいるのです。でも「どんなエゲツない罪を背負っても、あの世とこの世はひと続き。最も良いことは熊野におまいりすること。勧進、勧進\*」。というのが比丘尼さんの講話でした。2枚目は「那智参拝曼荼羅の旅」で、この絵図は那智大社、青岸渡寺、那智の滝、補陀洛山寺など、現在那智勝浦にある社寺が、ほとんど変わりなくそのまま描かれています。「ただの物見遊山の絵ではない。歴史と自然と神仏のありがたい絵がこの曼荼羅図です。神仏習合の場所那智山は、人をよみがえらせてくれるのです」。比丘尼さん夫妻は、ユーモアと少しのアイロニーを含ませながら、やさしく興味ある説法で熊野を語ってくれたのです。質疑応答や冗談も飛び交いながら、30分の制限時間を、1時間以上も越えるにぎやかな時を過ごすことができました。

\*勧進=仏道を勧めて善導を施すこと。社寺や仏像の建立や修繕などのために金品をつのること。寄付集め。



21時からは「楽塾トークショー」を開催。塾生、教官、応援団が相互に語り合う楽塾の近未来絵図作りです。「従来の価値の転換を図る」、というのが共通の認識であったと思います。トークショー参加者は11名で、あと半数は睡眠に専念していました。この話は楽塾のカリキュラムに活かしていきたいと考えています。

## 極楽浄土も無間地獄も我心中にあり——2日目

7時朝食、8時10分小口を出発です。再び新宮市内に入り、昨日同様、市職員お2人が待機する新宮駅で合流、今日も先導役です。ここで学会があるジョンさんが新宮駅から京都に向かいお別れです。9時前、

新宮を発し那智勝浦町に出発。熊野古道「大門坂」までをバスは疾走します。この古道は「那智大社」「青岸渡寺」につながる上り坂で、「また階段や！」と苦笑する声が聞こえました。確かに連日階段や上り坂の連続です。上り始めてすぐのころ元旅館主のおじさんが、「この旅館はむかし南方熊楠が3年ほど滞在したところで、彼が庭園を褒めたこともありその庭園を見せてあげる」と誘ってくれたのです。その庭園で、おじさんは熊楠の偉大さ、那智山の功德、挙句の果ては現在の社会の悪弊を語ってくれたのですが、私たちはその庭に100年も生存する大きな老鯉に大変感心したことでした。おじさんすみませんでした。



道がどんどん登りを増し、古道脇の何百年もの大樹がうっそうと茂り、私たちの仲間の何人かがリタイアして山上へ車で運ばれ、「やたらす」のやたらかっこいいシンボルマークの看板を横目にしながら、約40分ほどで那智大社下に到着しました。ここからはみやげ物店が連なる階段をどんどん上って行きます。すると「那智の滝」が斜め前方に姿を現しました。やはり特別な滝だと思いました。それは深山を背景にし、名刹を前景に、那智全山を遠景となす、まさに浄土世界を形成しているじゃん、というイメージだったからです。



手を清め、浄水を含んだあとは再び階段を上り、朱塗りの那智大社に参拝します。ところで、熊野速玉大社の朱色は紅色に近い朱に対し、国譲りの神々をまつる社殿を配した那智大社の朱は朱色そのものという色合いで、つまりはあでやかさ、派手さがいい感じだと私は思いました。ここで私は今年初めて、日本一大きいといわれるおみくじを引き「小吉」を当てました。願望の項目には「求めよ、必ず与えられん」と書かれてあり、事業は「このまま押せ」でありました。今年もまた幸せな1年に向かうであろう……!?

その隣が那智大社と軒を同じくした青岸渡寺です。建築的にぴったりフィットしていますが、ですが青岸渡寺は対照的にめちゃくちゃ古いお寺なのです。西国観音霊場第一番札所であり、織田信長に焼かれて一旦は消失したお寺でもありました。水内さんは「おそらく江戸時代の建立やろな」と言っていました。朽ち果てて、しかしそれが味となり、きらびやかな大社と対を成しているのです。ここは神仏混交の聖地なのです。

そしてこのまま「那智の滝」に進みますが、我々楽塾は集団的行動が無茶下手な人たちの集まりで、この頃もう誰がどこを歩いているのかわからない状態でてんでばらばら。ところが那智の滝前では、かなり後

ろを歩いていたと思われる連中が不思議なことに、すでに到着し「ええ滝やなあ」と感動しているのです。133 mの高さから一直線に奔流し落下する荘厳さは、原始信仰の聖像として永らく日本一の名瀑と称えられて来た風格がありました。私たちはここでしばし、滝の飛沫を靈気として受け止めたのであります。



こうして12時過ぎバスに乗り込み、一路予約をした食事処「那智ねぼけ堂」に急ぎました。10分後、昼食場所に到着し全員食事にありつきます。その後、それぞれがお土産品を購入し、次なる目的地をめざしました。13時30分には「補陀洛山寺」に到着。海洋浄土を体現するため修行僧を小さな船に乗せ、西方に送り出したといわれるお寺で、わが川浪大僧正を那智海岸に送り出そうとはやし立て、嫌がる川浪氏と、川浪氏を海で成仏させようとする一派がバスの中でバトルを繰り返し騒然としていました。

そして川浪氏が即身成仏するであろう那智海岸へと向かいます。補陀洛山寺の僧たちはこの海岸から小船で旅立ったといえます。“南無阿弥陀仏”。14時に到着した海岸は好天に恵まれて、エメラルドや紺碧の色合いが調和して大変美しく、波打ち際の私たちに波も穏やかに迫ってきました。ここで森本さんが一足先に帰路の人となり、私たちも最後の目的地「浮島」に移動することにしました。

浮島の森は、住宅街の中心に浮かぶ泥炭で形成された約9,000㎡の珍しい島です。温暖地方にかかわらず亜熱帯地方と北方系のしだ・コケ類が混成する生態系を持ち、国の天然記念物に指定されています。現在は広い駐車場を完備し、浮島のキャラクターの彫像が出迎えてくれますが、私が十数年前、初めて浮島を訪ねた時はまだ未整備で、入場ゲートもなく、浮島の周りには住宅が密集していた記憶があります。



その浮島に、新宮管内の数隣保館に勤務する女性部の人たち5人が集まってくれました。私にとっては先月新宮に来て以来、1ヶ月ぶりの再会でした。彼女たちがわれわれの車中のために作ってくれた「めはりずし」を持ってきてくれたのです。再会の喜びとめはりずしへのお礼を伝え、15時ごろ新宮に別れを告げたのです。車中は、往路とは違って変わり、快い疲労のための睡眠が充満していました。途中、御坊南インター周辺から渋滞に巻き込まれ、中百舌鳥、阿倍野などに寄りながら西成に到着したのは22時を回っていました。



参加者の皆さん。楽しかった旅と一緒に喜びたいと思います。帰阪後は何人かの人たちから大満足だったとの印象を聞き、本当に良かったと思いました。それから今夏、あるいは来年の楽塾の旅への計画が、ひそかにささやかれているのをご存知ですか。しかも希望目的地は「新宮」なのです。

### あとがきにかえて

授業の学びに心や宗教の時間があり、修了記念となる旅行として「熊野三山」を最適の場所と考えこの日を設定したのですが、生活を切り詰める塾生たちにとって旅行費用の捻出は重いものであったと考えます。にもかかわらず、ほとんどの塾生がこの旅に賛成してくれ、積立てしながら旅に備えてくれました。自分たちで自分たちの旅を実践しようという心意気を感じました。何よりも従来の生活スタイルから、もうひとつ違う選択肢を選び始めているように思いました。私は、塾生諸君の熱意に喜びを表したいと思います。おめでとう！

これまで個人的にお世話になっている新宮市職員のSさん・Aさんが宿泊地の段取りや、熊野巡りのガイド役を勤めてくれました。また、新宮隣保館事業のMさんほか女性部の人たちが作ってくれた「めはりずし」を帰途の道すがらいただきました（おいしかった！）。往還のバス車中でのガイド役である水内市立大学教授のユーモラスな解説は至れり尽くせりで、地理学研究者として熱いものがあります（過剰とも言える個所も散見されましたが）。水内さんから「楽塾」宛に寄付金をいただきました。それによって参加者負担が軽減されたことをここでお知らせしておきます。先生は今後も大学と楽塾の連携を確かなものにしていきたい、と話してくれました。これからが楽しみ。

以上「楽宿」の旅は、応援団や新宮市内の多くの人たちの協力と人情によって「面白おかしい、奇妙な、集団行動がまるで取れていない、楽しい、わけのわからない、そして濃い旅」（応援団、塾生たちの声）が出来たのでした。塾長から塾生に代わって感謝申し上げます。ありがとうございました！

### 旅の概要

旅行先：新宮を中心とした熊野三山巡り

交通手段：貸切観光バス利用

日程：09年2月14（土）～15日（日）

費用：18000円（交通費・1泊2食1昼食つき・さつき入湯料および浮島入場料）

主催者：くらし応援室＝楽塾

参加者（23名）：若松 司／川浪 剛／前山村雄／アマゾン／和久貴子／田岡秀朋／森田智保／佐々木敏明／高瀬正雄／伊藤正一／松浦邦普／岸本政数／長門圭造／稲田七海／水内俊雄／ジョン・ホンギョ／川崎那恵／内田龍史／山口明香／三浦隆／森本初代／津川善之／井上茂樹

特別協力＝新宮市職員2名＋新宮市隣保館女性部5名



### 今週楽塾第30回目のメニュー

08年楽塾最後の授業になりました。半年間実験的に始めてきましたが、いよいよ4月から本格開校に向け、新カリキュラム作りに取り組んでいきたいと考えています。30回目の授業は大谷浩子さんをメインに、アマゾン先生、川浪僧侶のバトルが期待されます。まだ旅情の余韻覚めやらずですが、ちょっと変わった国語の授業を楽しみにしてください。

#### 楽塾第30回授業

- テーマ：おいしいってどんな味——食べる楽しさをつたえよう——
- 講師：大谷浩子さん（フリーランス・コピーライター）  
大谷フォロワーズ＝アマゾン先生＋川浪僧侶
- 日時：2月21日（土）18：30～21：00
- 場所：暮らし応援室＝楽塾

## 楽塾第 30 回目の授業が終わりました。

### 安心感の芽生え？

熊野三山を巡る旅からもう 10 日を過ぎようとしています。旅の余韻が残っていて、塾生や参加者の顔が言葉を発するたびに、ほころびそうになるのがわかりました。それを一言で言えば互の安心感という言葉ではないか。—そうや、あの旅は正解やったんや—。私はそう確信しました。一宿一飯の恩義と言いますが、私たちの一宿一飯は、楽塾「同じ釜の飯の仲間」というようなものなのかも知れません。きっとあの日を境に、何かが急速に変化したのだと思います。その変化とは、来年度 4 月から始まる本格開校を実践していく中でもっと見えてくると信じています。

第 30 回の授業は、開校第 1 回目授業「ほめ活かしの言葉」で盛況だった大谷浩子先生が担当でした。私は国語の授業を、総合的な角度から実践したいと考えていて、大谷さんをお願いしました。この授業にアマゾン先生、川浪和尚が積極的に参加。大谷さんへの盛り立て役として協力してくれました。

#### 楽塾第 30 回授業

- テーマ：おいしいってどんな味——食べる楽しさをつたえよう——
- 講師：大谷浩子さん（フリーランス・コピーライター）  
大谷フォロワーズ＝アマゾン先生＋川浪僧侶
- 日時：2月21日（土）18：30～21：00
- 場所：くらし応援室＝楽塾
- 参加者：塾生 12 名、スタッフ 3 名、講師 3 名 計 18 名。

### 外国からもお客さん——前半

この日、アマゾンさんの友人で英国の社会学者でもあるジューン・ゴードンさんが参加してくれました。また塾生のうち近大生の諸君も参加。塾生の T 君が友人を連れてきてくれました。ジューンさんや参加者のために、各自自己紹介をしようということになり、全員が相互に名乗りをあげたのです。

#### 1. はじめに

授業の本題に入り大谷先生の質問です。「皆さんは自炊をしておりますか？」。数人だけがパラパラッと手を上げます。自炊する人はかなり少ないようです。少しばかりご飯どきの話をしたあと、「さて、今夜、この机の上にさまざまな食べ物が置かれていますが、これらの食べ物を食した時の音（擬音）を表現してみましょう」ということになりました。実はこの日塾生が到着する前に用意しておいた、果物、チョコレート、お豆腐、野菜、お菓子・麺類などを机に並べていたのです。これらのサンプルを食した際の、口から飛び出す音を確認することになりました。

「スープご飯」（これはコンビニなどで売っているもの）はぺちゃぺちゃ、「うどん」（もちろん袋入りの麺のみ）はズルズル、しこしこ。しかしアマゾン先生は、「特にさぬきうどんはゴクゴクと飲むように食べるんです」と話題づくりで目立っています。「おかき」はボリボリ、カリカリと定石どおり。「かりんとう」はバリバリ。熊野で食べた「めはりずし」、これは擬音がなかなか出ず、難しい食べ物（？）だと判定されました。「梅」は食べた瞬間の顔で勝負ということで、T 君が梅を食べたあとのスッパイ顔をみんなにアピールし、会場が大爆笑となりました。そうめんはツルツル、おそばはづるづる、づづう～などなど。

#### 2. 好き嫌い

授業は続きます。好きな食べ物、嫌いな食べ物、いやなものなど、それはどんな味で、どうして好きなのだろう？ なぜ嫌いなもの？ レジューメには＜好き項目＞として大好きな・楽しみな・今食べたい・クセになる、＜嫌いなものの項目＞として大嫌い・まずいもの・許してよ、が上げられています。Y 君はラーメンが



大好き、牛丼を食べるのが楽しみで、いま食べたいものとしてたこワサだそうで、へんなの（お酒が好きなんだね）。H君は加工食品が大嫌い、お酒がまずいものとして第1位に。なかなか健康的、優等生的食生活である（塾長もまったく同じ）。楽塾には初めてのTさんは、サトイモなど歯にくっくものは大嫌い、ジューンさんは茶碗蒸しが大好き。子どもたちの体調が悪いときは、あったかいカスタードプリンを作るそうです（といっても日本のような甘さはなく、なるほど茶碗蒸しにソックリ！）。でも納豆は大嫌い。I君は、「嫌いなものはなく何でも食べるが、特別心がときめく食物のないのが欠点」で、しいて言えば「発酵したものは許してよ」、だそうです。

### 3・食物語（たべものがたり）

「あなたにも思い出に残るご飯があるはずですよ。食べ物で人生を語りませんか。あなたの食物語を話してくださいませんか」。このテーマでは、それぞれが人生の断片で印象に残った“食のストーリー”を話しあいました。これが素晴らしく興味ある時間になりました。走り書きですが要点をまとめておきます。

**T1**：まだ若年のころ、先輩が連れて行ってくれた「インディアンカレー」のお店で食べたカレーは、辛いがジワッと大人の味がした。やっと大人になりかけた時に食べたその味がすごく印象的だった。ピクルスがぴったりだった。

**M**：石山の刑務所で食べた麦飯のカレーがうまかった。さっぱりして甘かった。同僚が配膳係をしていたが、わしは裁縫係でミシンを踏んでいた（全員感動）。

**K1**：03年、地方のおばさんちで食べた枝豆がメチャおいしかった。また、その時の炊き立て白ご飯はおいしく、あんな白ご飯は今までにないご飯でした。あのおばさんは今救護施設に入っていて、もうあんなおいしい食べ物は食べられない。悲しいです。

**T2**：10歳ごろ、貧乏な時代だった。配給のゾウスイを食べた。大根を小さく刻んで、サツマイモをいれ、麦を少量、長時間ゴトゴト蒸らして食べた。おいしかった。それが主食で、それがすべてだった。

**K2**：20代後半、よくミナミへ飲み歩いていたが、夕刻ある女と同伴でしゃぶしゃぶを食べに行った。その女と別れ2人目の女性と、どういうわけか同じ店のしゃぶしゃぶを食べに行き、約束の3人目の女性も「しゃぶしゃぶを食べたい」というので同じ店のしゃぶしゃぶを食べに行った（どんな関係や）。もう店員も覚えていて変な顔をしている（あたりまえや）。最後に店を終えた女と焼肉屋に入り、もう肉が食えなかった（あたりまえや）。

**質問**：「ところでその4人の女性のうち誰かをゲット出来たの？」

**応答**：「ぜんぜんあかんかった」（何じゃそれ！）。

**H1**：20代の頃、つきあっていた彼女と喧嘩をしたら、どういうわけか、必ずマクドナルドに入ってドーナツを食べていた。

**T3**：夏の終わりの北海道の天売島で調査をしていた頃、先輩たちとムラサキウニやエゾバフンを密漁し、それを肴に酒を飲んだ。忘れられなく、こたえられない味だった。

**Y**：嫌いなものはないが、ひとつだけトラウマというか、焼き目のついたアップルパイだけはどうかという話です。高2の時、つきあっていた彼女と別れた。フツタンですけどね（ああそうですか）。バレンタインデーの時、その彼女がチョコの代わりに手作りアップルパイを、僕にではなく母親に渡していたのですね。おそらくチョコではあんまりだと考えたんでしょうが。その時のパイは最悪だった。焦げ目がつき焦げ臭かった。ほろ苦い思い出です（それって、ひよっとしたら意図的かもね）。

**H2**：忘れられない味は手羽先です。農業実習の時、いやだったけれどニワトリを絞め、それを解剖したことがある。そのあと調理して食べたけれど、その味が日常食べていたものと比べてとてもおいしかった。

- I：大阪に来て海産物をおいしいと思ったことがない。自分は取り立てて好物のないのが不幸だと思う。
- T 4：学校の課題を徹夜で続けていて、疲れきった明けに、近所の松屋で食べた牛丼の味。こんなにうまいものがあるんだと思った印象がある。
- K 3：昨年から西成で仕事をするようになったが、西成の味にこっている。週2日の5時から10時までしか開店しない串かつ店の串かつが大いにうまかった。またお好み焼き「福ちゃん」の味は最高です。以前、国立博物館に行った時、車同士の交通事故にあったが、そのあと同輩たちの心配を受け、とんこつラーメンをおごってくれたことがちょっと悲しく、おいしい思い出になっている。

ところでこの話題の最中、M君がT 2さんの話を引き継ぎ 奈良のおかゆの話をしてくれました。「貧乏な県だから具として入れるものがない。だからボリュームのあるサツマイモを入れて食べたんや。それが奈良のおかゆの始まりや」。そんな話がいつの間にか全国各地のお雑煮の話に発展していきました。

- 奈良県では白味噌でお餅は焼かない
- 岩手県ではおすまし汁
- 埼玉県でもおすまし汁
- 香川県はぜんざいが雑煮だとか
- 和歌山市も白味噌で餅は焼いて具にしていた



それでは英国出身のジューンさんのお正月はいかが？という質問になったのです。この話の顛末はムチャ傑作なので、以下期待して読んでください！

「私たちの国では、新年に特別な料理はありません。クリスマスも米国のように祝わないですね。でも、思い出のふるさと料理ならヨークシャー・プリンが大好きです」。この時、ヨークシャーに反応した数人が、「ヨークシャーならヨークシャー・テリアやん。プリンの中にヨークシャー・テリアの肉が入るとるんやな」「犬肉入りのプリンかいな」「カマやったら赤犬入りや」「今でもカマは犬の肉使ってるもんな」などと、ジューンさんのお国自慢が、カマ名物赤犬話にはじけてしまったのです。彼女は何のことかわからず、ただニコニコして聞いているだけでした。こんな状態で前半を終了し、中休みとなりました。

## 五.七.五で決めてみよう——後半

「食物語で話してもらったそれぞれのエピソードを、今度は俳句や川柳のように五.七.五の中におさめて詩をつくってください。俳句のように季語などを入れる必要はありません。先ほどの食について思いついたまを詩にしてみるのです」。

実は、大谷先生が、最初皆に手渡していたレジュメがあり、「3. 食物語」のところでその伏線がありました。食物語のレジュメのサブキャッチには「思い出に残っている食べ物は何？ どんな味？ 誰と食べた？ いつ食べた？」とあり、本文の〈びっくり〉の項目に・うまかった・まずかった・すごかった・怖かった・高かったなどの言葉が列記されています。〈あの場所で〉の項目では・ふるさとの・旅に出て・新宮で・浪速の味・にしなりのなどが、〈あの時の〉では・誕生日・恋愛中・失恋の・二日酔いなど。

〈あの人と〉の項目では・おふくろの・先生が・嫁はんとなど、〈あの店の〉では・玉出なら・越前屋・百均の・立ち食いそば（どういうわけか西成ブランドが並ぶ）、〈悲しいなあ〉の項目では・腹ペコで・風ひいて・ダイエットなどなど（一部省略）、これらの言葉を参考に、食物語を連想してもらったのですが、今度は詩をつくるための参考に再度使われたのでした。そしてこれらの言葉は、すべて上（かみ）または下（しも）の言葉として使われるように配慮し5字となっています。

詩をつくると言った途端、教室中が「えー！」とどよめきましたが、この詩作の時間はみんな一生懸命取り組みんでいたのです。その証拠に1人2句3句と多作なのです。ここで全作品中いくつかを紹介しておきます。名無しの権兵衛さんもいますが。

かだいあと つかれたからだで まつやいく（哲雄）  
エゾバフン ムラサキウニで 御用なり（秀朋）  
にわとりを 殺して分かった どこの箇所（本田）  
甘い恋 覚めた後には 苦い味（さだ）  
彼女との ケンカのあとの 500円（たかし）  
大阪で 新境地発見 西成の味（友二）  
フライパン サツマイモヤキ タベマシタ（？）  
夏の日 川のほとりの 五合炊き（那恵）  
新宮で めはりたべたべ ごかんじん（政数）  
食衰し 料理教へし 君は逝く（hidarimak i）  
怖かった スッポンの生き血 いっきのみ（たけし）  
ほめないも まずいことになる よめとめし（アマゾン）  
カレーライス うまいもんです ハハノアジ（邦普）  
うまかった 大人の味の カレーライス（正雄）  
困ったら 素材と器を ほめておく（ひろこ）

食のテーマでたくさん詩が投げ込まれました。びっくりです。どんどん作品が出来上がってくるのですから。俳句の授業をしたかったので、大谷先生にはそんな希望を少しばかり伝えていたのですが、後半見事に実現していました。ありがとうございました。

フォロワーズ＝アマゾン先生のほとぼしる進行が冴えわたり（ちょっとテンションが上がっていましたが）、川浪僧侶の突っ込みで、楽塾は「飛ぶ教室」になってしまいました。食の話題でいつもより空腹感が募っていたので、給食は待ち遠しい時間でした。本日の給食は、近所の「お清」で作ってもらったお惣菜で、ボリュームたっぷりでした。しかし楽塾で炊いたご飯は数人分足らず、塾生に迷惑をかけてしまいました。今度はたくさん炊いておきます。

今週土曜日で08年度の楽塾はお休みになります。4月の本格開校を楽しみにしてください。今年度最後の授業は修了証書授与と食事会を行います。応援団の方々もご参加ください。

**楽塾第31回授業**

- テーマ：卒塾式—修了証書授与と食事会—
- 講師：佐々木 敏明
- 日時：2月28日（土）18：30～21：00
- 場所：くらし応援室＝楽塾



## 08年度楽塾修了式（第31回目授業）が行われました。

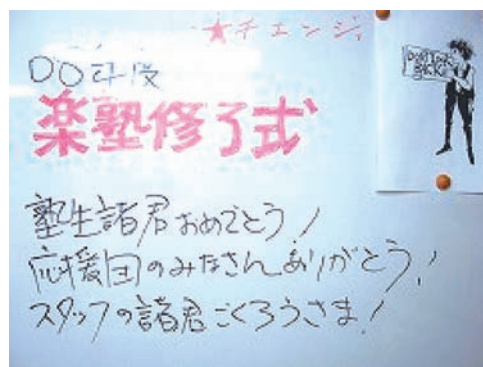
### はじめに

昨年7月から実験的開校を続けてきた〈学校＝楽塾〉の、08年度修了式が催されました。毎週土曜日の約3時間、「学びと遊び（と給食）」を続け、授業回数30回（実質33回）を継続してきました。延べ参加塾生400人以上、授業協力教官29名の人たちと、4名という小所帯ながらのスタッフが、こんな学校をつくりたいというところざしを互いに携えて、たいへん濃密な時間を共有してきたのでした。

修了式にはアマゾン先生、大谷浩子先生、川浪 剛僧侶も駆けつけてくれ、また楽塾に関心を持つ東洋大学の富永君や、常連近畿大学の山崎君も参加となり、塾生10名、教官3名、スタッフ（川井・田岡・佐々木）の16名で行われました。

### 修了式次第

1. 塾長の言葉……………佐々木敏明
2. 教官の送る言葉…………アマゾン・大谷浩子・川浪 剛
3. 修了証書授与……………全塾生
4. 誕生日の贈り物……………T君
5. 食事会
6. 串占い……………田岡事務局長
7. 散会



### 修了式のこと

いつもどおり、6時30分には塾生全員が集まり修了式が始まりました。まず塾長である私が話をしましたが、何を話したかほとんど覚えていません。ただ、4月から09年度の楽塾を開校するので「修了まで本当がんばりました。おめでとう。また来てね」ということだけを伝えて終わりました。

そのあとアマゾン先生、大谷先生、川浪先生の順に、楽塾の印象や塾生とのかかわり、今後も一緒にやっていきたいという頼もしい決意表明なども織り込んで話してくれました。いずれにしても3先生は、特別に楽塾への愛着と期待を注いでくれていて、これからの授業づくりには欠かせない人材を得たと、私は内心ほくそ笑んでいます。

前日から田岡・川井両君が汗を流して作成してくれた塾生全員への修了証書を、みんなの前で一人ひとりに渡しながら、少し教室がジーンとウェットな雰囲気になりました。ところでこの修了証書、市販の既製証書にプリントアウトしたのですが、格のある、立派でなかなか素晴らしい出来上がりです。川浪先生は「僕も欲しかった」とすねていたぐらいですからね、きっと塾生たちは気に入ってくれたと思います。T君は1月生まれなのですが、この日までハッピー・バースデーを忘れられていて、修了証書授与の時、やっと記念品が手渡されました。「T君、遅くなってごめんなさい！」でした。





食事会が始まりましたが、肝心の白ご飯が炊けていず（最近、楽塾の給食でご飯を炊いている）、急きよ田岡事務局長から「『串占い』を先にし、ご飯が炊けたら食事会にしよう」との提案がありました。さて「串占い」とはナンジャラホイですが、厚手の白紙（10<sup>センチ</sup>×18<sup>センチ</sup>）に文字を印字したものを竹串に貼り付け、これを33本用意しました。文字の内容は、楽塾の第1回から第33回の授業のタイトルのみが印字されています。これを各自1本ずつ引いてもらい（参加者が16人なので、1人平均2本以上持たされましたが）、その引いたテーマ（授業）についての印象や提案を語ってもらうことにしました。その授業に出ていない人は、自分のイメージで、その授業とはこんな授業ではなかったかと想像して話してもらいます。実はこの「串占い」、熊野の宿泊先でアトラクションとしてやるプログラムでした。しかし半数は食事後疲れて寝てしまい、実行不可能になり、機会ある時にやろうということで、本日の出番になったのでした。

「串占い」を通じて来年度の楽塾を占う。

幾つかのテーマへの印象や提言を拾ってみます。

●「第14回. 空手」の串を選んだK君

楽塾初めてのスポーツをした。とても良かった。子どもさんと一緒に出来て面白かった。機会があればまたやりたい。メタボは変わらないけどね。

●「第33回. おいしいってどんな味」の富永君。

偶然、先週この授業を受けていた。この楽塾に寄せてもらって運命を感じている。

●「第21回. カッコいいスタイル」を引いたアマゾン先生。

授業には来ていないが、この時のエゲつない写真を見たら、みんな気分が悪くなるのは間違いなし！（古着を着て女装していた事務局長のこと）。

●「第16回. おとことおんなの間には」のI君の意見。

いろいろなタイプの人たちに会えて面白かった。

●「第19回. うまく食材を使おう」のテーマでTさんの実感。

授業に出ていないのでわからないが、自分の好きな料理なら1週間でも続けて食べられる。

●「第12回. まぼろしの映像を追い求めて」のM君。

前に見たことのある映画（「運動靴と赤い金魚」）だが、自分が見たものはある程度カットされていたものを見たような気がする。

●「第7回. 田畑草刈作業」へ川浪僧侶の希望。

食の作業は大切なこと。今年はぜひ行きたい。昔、福岡さんという草刈をしない農業家がいる、こんなユニークなやり方で農業をやってみてもいいのでは。

●「第24回. 第25回. 仮面舞踏会」の両方を引いたH君。

自分は2回目に参加した。あの時は仮面をかぶって、（自分の思っていることを）話しやすかった。

●「第10回. h i d a r i m a k i の音楽で履歴書づくり」を引いた大谷さん。

生まれてから10年たった頃の履歴を語ったのです。当時の音楽をやって、みんなで一緒に歌ってみたら面白いのでは。「第30回、最果ての人々」は、旅の授業は楽しそうなので聞いてみたい。

●「第11回、死んでからの楽しみ2」の川井君。

砂絵を作ったのが印象的だった。

●「第27回、これからの授業を企画する」で自らの担当授業を引き当てた田岡君。

塾長と一緒にした授業だが、人気教師の授業がわかって興味深かった。「第18回、収穫祭」ではサツマイモがたくさん取れ、Mさんはおならがたくさん出たと言っていた。

●「第13回、ふるさと再訪2」を引いた佐々木のコメント。

水内先生の地理学が、後半、修了記念旅行に結びつく（熊野三山や新宮に到達する）ストーリー展開がすばらしかった。

紙面の都合で多くのテーマを割愛しますが、この「申占い」は、自分たちの体験した学びや経験した遊びを、ごく自然に話してくれたという驚きを発見しました。塾生たちはどんどんフランクになってきています。

このアトラクションが終わる頃、ご飯も炊けいよいよ食事会に突入します。前回同様、「お清」のてんこもりの惣菜を並べ、皆勤賞T君の音頭で、1パイだけのビールで乾杯をしました。満足な食事で塾生たちのおしゃべりもどんどん軽くなり始めました。とくにT君はもう独り舞台というか、取り仕切り役というか、お山の大将でした。しかしここで驚きの発言を聞くことになります。私たちが望んでいた楽塾の方向が偶然T君の口から飛び出したのです。

「わしらが授業でしゃべってみよか。長い時間はしんどいけど10分、15分ならOKや」。この提案にK君は「生活保護の話でもするか」、M君も「刑務所の話なんぼでもやるで」と同調。その上T君は自らも登場しているドキュメント映画「未来世紀ニシナリ」を上映し、「みんなに見てもらったらどうか」という提案をしてくれました。思っていたよりも早く、塾生が先生になってくれるようで、私は出来れば、4月の開校日にそれを実行してみようと考えました。

それから、教師志望の近大生山崎君は、「楽塾というフィールドは、自分にとって教材としてとても有効に機能している。興味のある試みで、これからもずっと来ます」と話してくれました。私にとって本当に嬉しい言葉でした。

修了式が終了したのは22時を回っていました。



#### 4月開校にむかって

〈学校＝楽塾〉の主題は、従来の価値から新しい価値への転換をはかることでした。その主題を支える授業への視点は、3つの回復（人間の回復・健康の回復・仕事の回復）です。それらの授業の「まなびを遊び、あそびを学ぶ」総合学習を通して、塾生が教官になり教官が塾生となる双方向の教室づくりを目指してきたのです。

決して答えを求めない。答えは一人ひとりの心の中にたくわえていく。そんなやり方での約1年でしたが、来年度はもっとワクワク刺激的で、ドキドキ未知的授業を創造していく決意です。すでに数人の教官から授業担当を約束してくれていて、現在カリキュラムの編成を始めています。

新しい〈学校＝楽塾〉の冒険にご期待ください。



来年度は4月4日（土）18：30～21：00から開始です。

スケジュールが決まり次第MLにてアップしていきますので、今後も楽塾のニュースに注目ください。





